

金沢工業大学 御中

平成26年度 授業調査 報告書

2015.9.17

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	40
<6>同一学生群の分析	51
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	57
<8>全体のまとめ	61

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が10年目となるため、10年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査の集計自体は平成15年から実施している。)

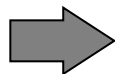
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容									
有効回答数	1年次生	29,031件	2年次生	36,870件	3年次生	27,536件	4年次生	2,344件	合計有効回答数	95,781件
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票				
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票				
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	(比較不可)				
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票				
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055					
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917					
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494					
	年度	前期	後期	全回答数	調査票					
	平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票					
	平成22年度	48,541	48,175	96,716						
	平成23年度	53,166	49,870	103,036						
	平成24年度	47,317	46,666	93,983						
	平成25年度	47,317	45,003	92,320						
	平成26年度	45,014	50,767	95,781						
対象科目	545科目									
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ・ 実施方法:記名式。科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 									
調査主体	学校法人 金沢工業大学									
集計	有限会社 アイ・ポイント									

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



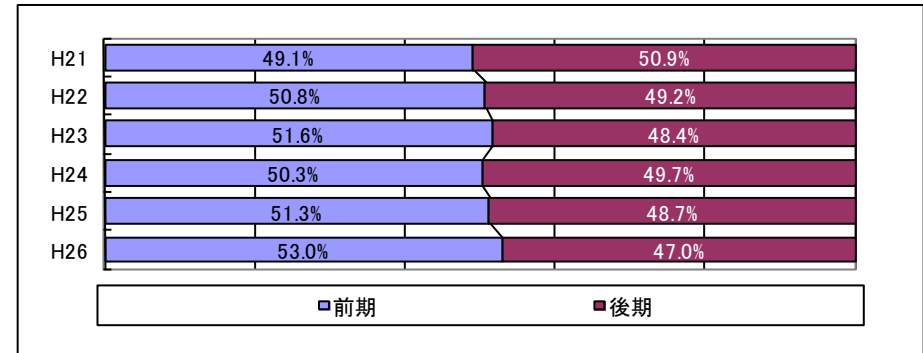
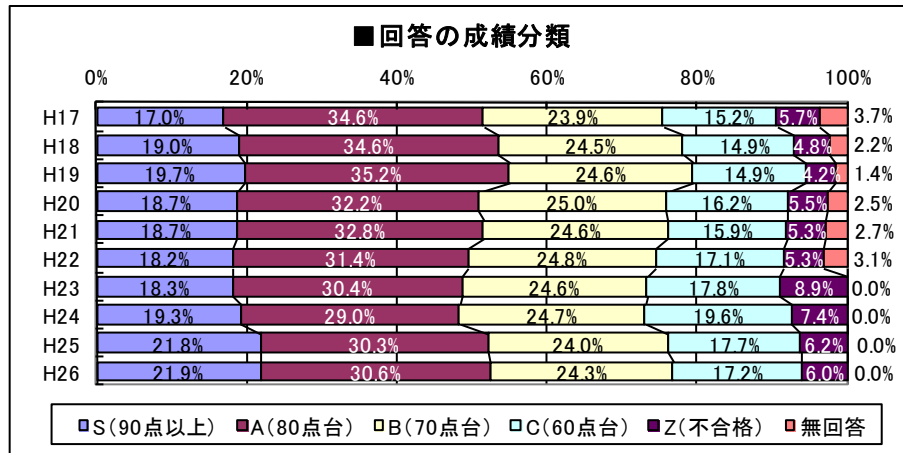
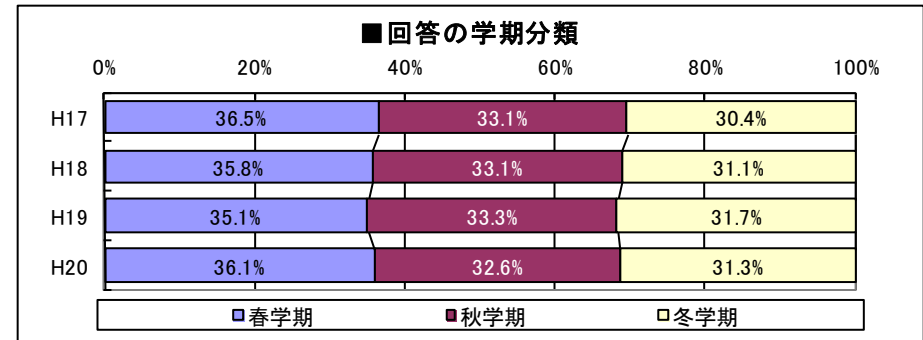
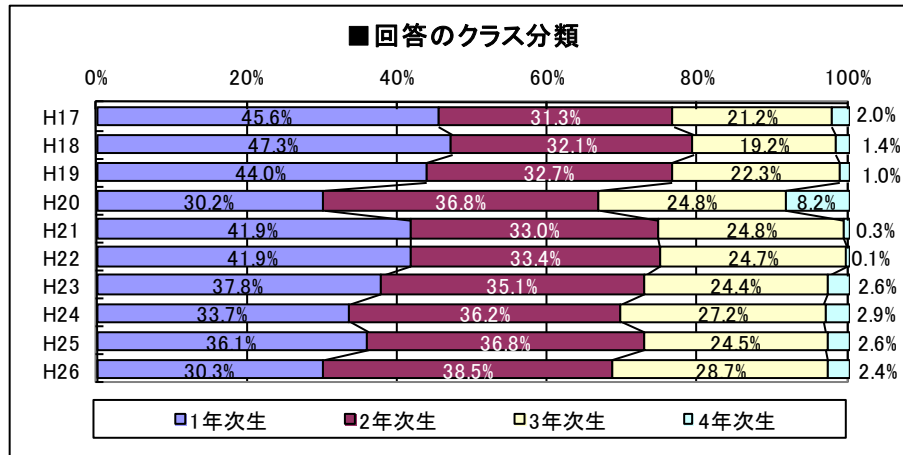
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることはできましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

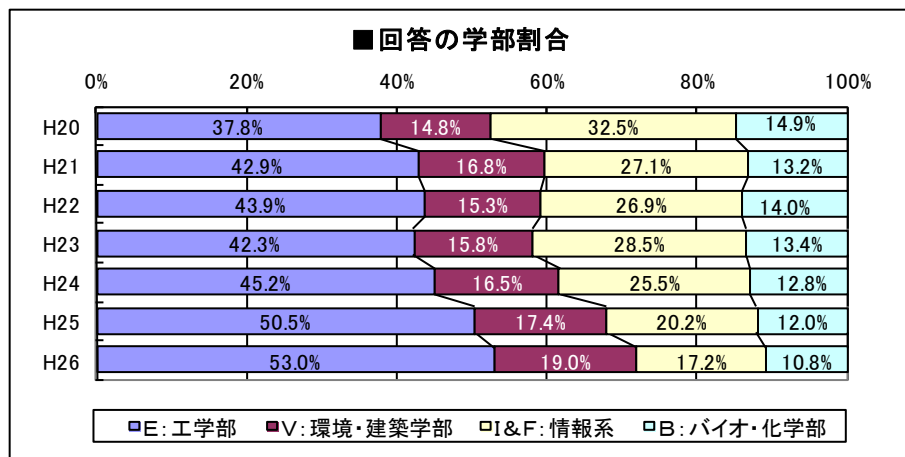
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので全ての期間に渡って比較ができるが、それら以外の設問は変更後のH17以降で比較を行った。

<1-2> 回答者の基本属性

- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- クラス分類では「1年次生」が30.3%、「2年次生」が38.5%、「3年次生」が28.7%、「4年次生」は2.4%であり、「1年次生」は前回より5.8ポイント減少して、これまでで2番目の少なさとなり、「2年次生」と「3年次生」はこれまでで最も多くなっていた。
- 成績分類では「S」が過去最高の21.9%となり、H22からの増加傾向が続いていた。そして、「A」が30.6%、「B」が24.3%、「C」が17.2%、「Z」が6.0%となっていた。
- H21より前期と後期の2期制となったため、比較はH21年以降で行う。今回は前期の回答が53.0%と、これまでで最も多く、後期は47.0%であった。



- 今回は「1年次生」から「3年次生」が新たな学部体制で、科目区分が異なっているため、学部・学科別集計と科目区分別集計は「1～3年次生」と「4年次生」で分けて行っている。ただし、基本的な学部構成は「1～3年次生」と「4年次生」で変わらないため、全体の集計では「F:情報フロンティア学部」と「I:情報学部」は「I&F:情報系」として集計を行っている。
- 今回の回答の学部別の割合を見ると「E:工学部」が53.0%と、これまでで最も多くなっており、「V:環境・建築学部」が19.0%、「I&F:情報系」が17.2%、「B:バイオ・化学部」が10.8%となっていた。

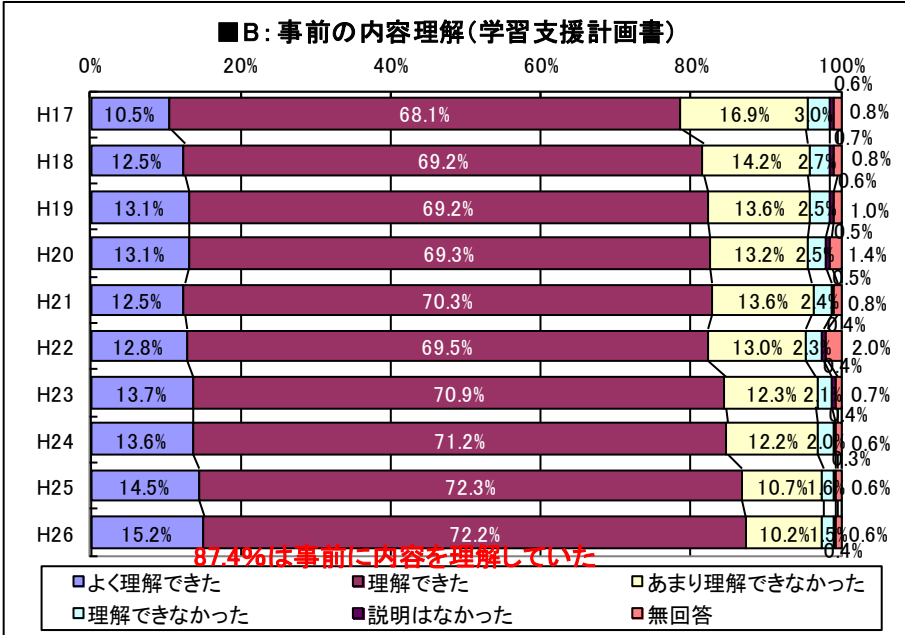
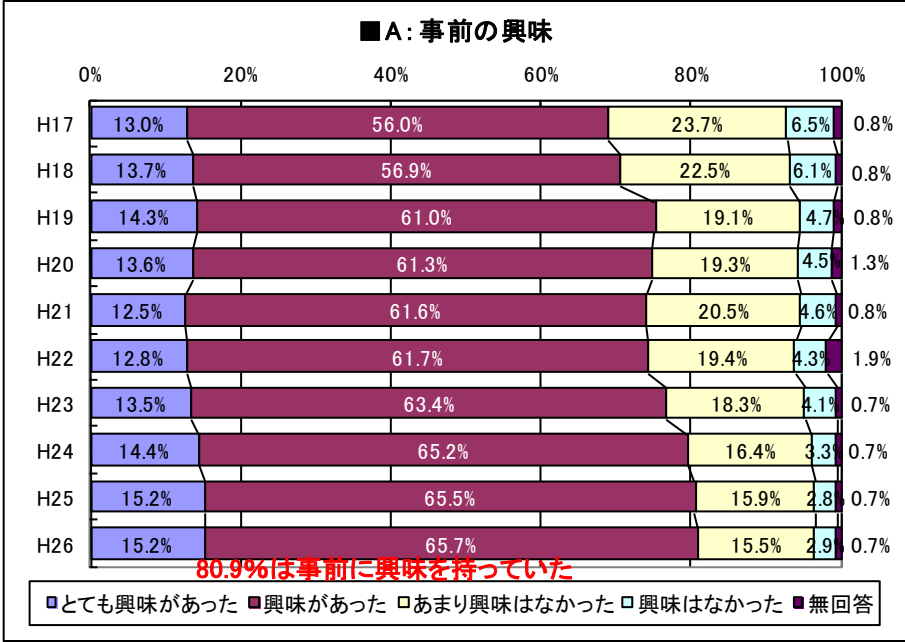


※上記はすべて4学部制の学部割合であり、H20年度は「1年次生のみ」、H21年度は「1年次生～2年次生」、H22年度は「1年次生～3年次生」、H23年度以降は「1年次生～4年次生」の割合となる。
 ※H24年度以降は「I:情報学部」と「F:情報フロンティア学部」を一緒にして「情報系」として扱っている。

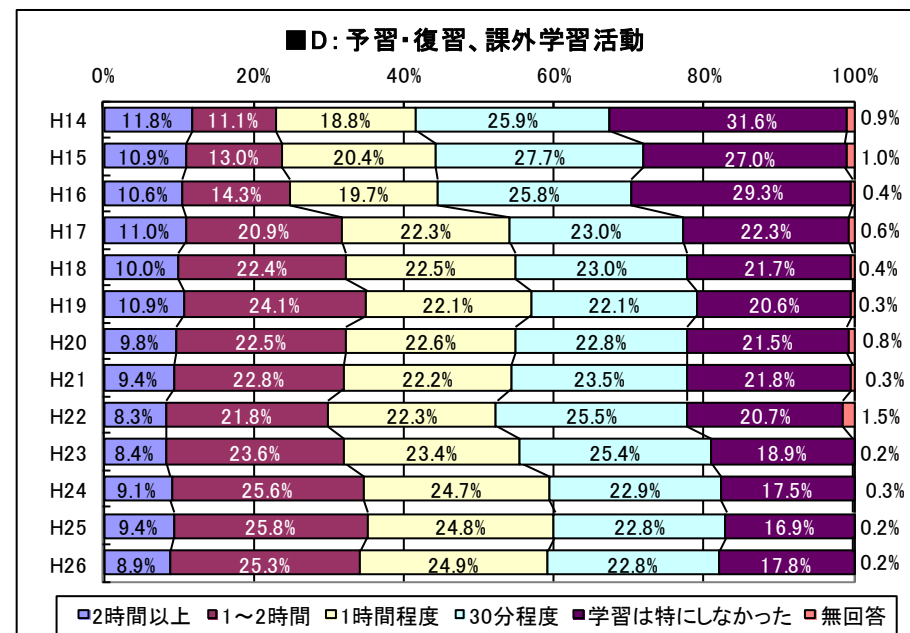
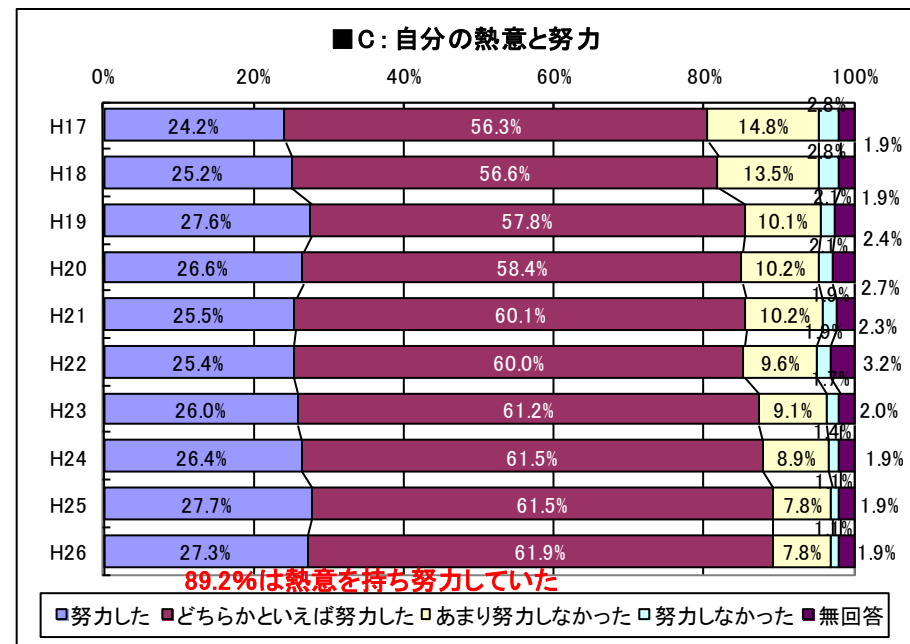
<2> 基本的な分析

<2-1>全項目の基本集計と経年変化

- 「A:事前の興味」では「とても興味があった」が15.2%、「興味があった」が65.7%であり、合わせると80.9%が授業に興味を持っていたと答えていた。
- 時系列の変化を見ると、授業に対する興味はH22から継続的に高まっており、今回はこれまでで最も高くなっていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では「よく理解できた」が15.2%、「理解できた」が72.2%で、合わせると87.4%が事前に内容を理解していたという回答であった。
- 「事前の内容理解」はH19からH22までは大きな変化が見られなかったが、H23以降は肯定的な評価は継続して増加してきており、今回の評価はこれまでで最も高くなっていた。

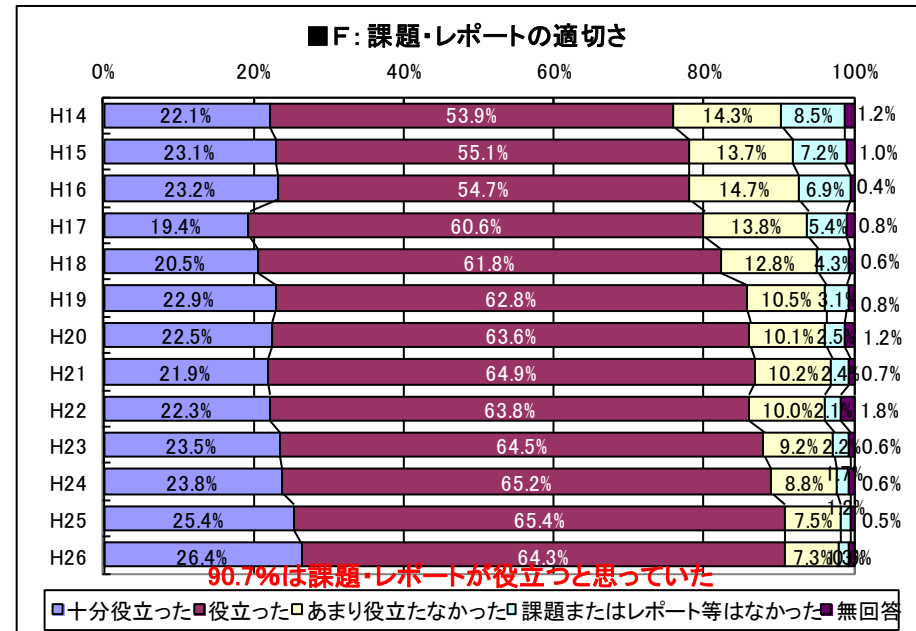
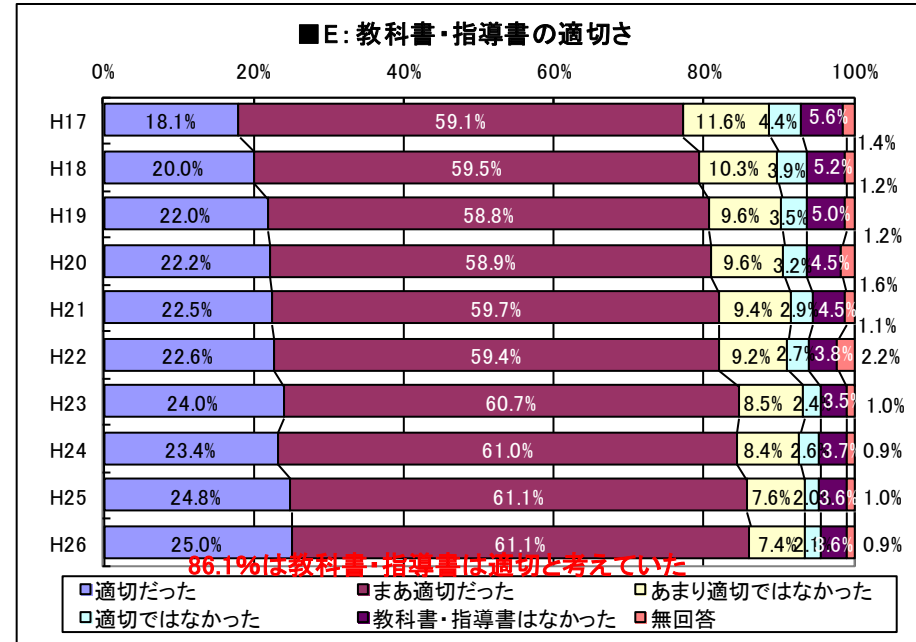


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、それに対して「努力した」が27.3%、「どちらかといえば努力した」が61.9%であり、合わせると89.2%が熱意を持って努力したという回答であった。
- 経年変化を見ると、H23から継続して肯定的な回答が増加する傾向が続いていたが、今回は前回と同じで、横這いとなっていた。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか?」という質問であるが、「2時間以上」が8.9%、「1～2時間」が25.3%、「1時間程度」が24.9%、「30分程度」が22.8%で、ここまでを合わせると81.9%であり、8割の学生が日常的に予習や復習をしていると回答していた。
- 経年変化を見ると、わずかな差ではあるが「1時間程度」がこれまでで最も高くなっていた。また、「2時間以上」から「30分程度」までの合計はH25、H24に次ぐ高さとなっており、この4年間はほぼ横這いであった。



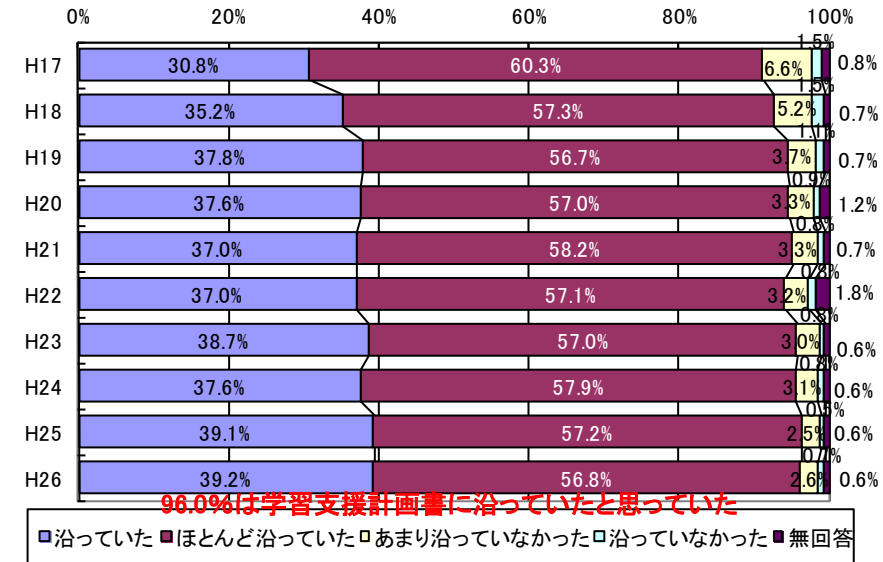
※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は25.0%で過去最高となり、「まあ適切だった」は前回と同じ61.1%で、合わせた肯定的な意見は86.1%であった。
- 経年変化を見ると、肯定的な意見は前回は0.2ポイント上回っており、これまでで最も高くなっていた。そして、横這いになる期間もあったが、調査開始から継続的に評価は上がっている。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」が26.4%、「役立った」が64.3%であり、肯定的な意見は90.7%であった。
- 経年変化を見ると、肯定的な意見は前回より0.1ポイント減少していた。いくつか例外はあるものの、この項目も調査開始から継続的に肯定的意見が増加する傾向が続いていたが、今回は横這いとなっていた。

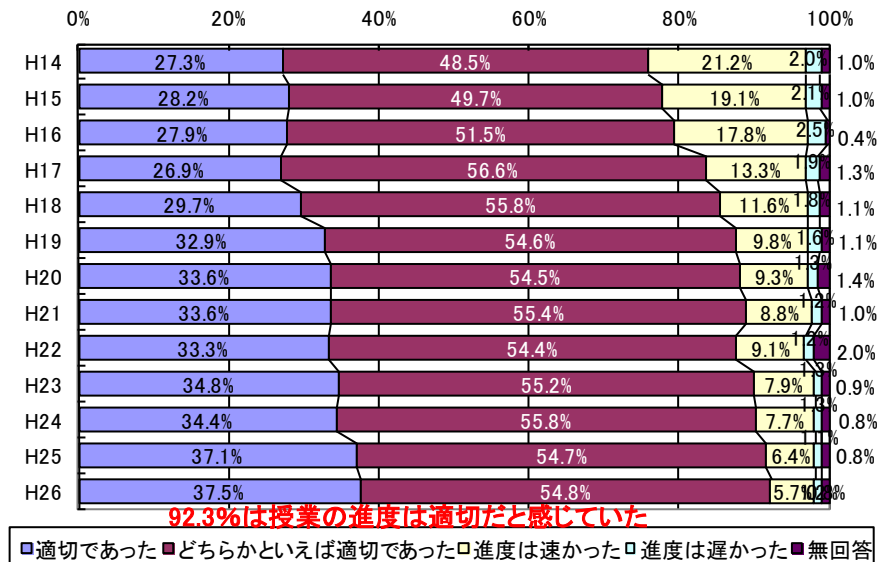


- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」は39.2%でこれまでで最も高く、「ほとんど沿っていた」の56.8%と合わせると、96.0%が学習支援計画書と一致していると評価していた。
- 経年変化を見ると肯定的な意見は前回より0.3ポイント低下していたが、この項目の肯定的な意見は調査当初よりずっと9割を超えており、非常に高い評価が継続していると言える。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は前回は0.4ポイント上回ってこれまでで最高となっており、「どちらかといえば適切であった」の54.8%を加えると、92.3%が授業の進度は適切であったと評価していた。
- 経年変化を見ると、肯定的な意見は前回は0.5ポイント上回ってこれまでで最も高くなっており、例外はあるものの調査開始時期から継続的に評価が上がっていた。

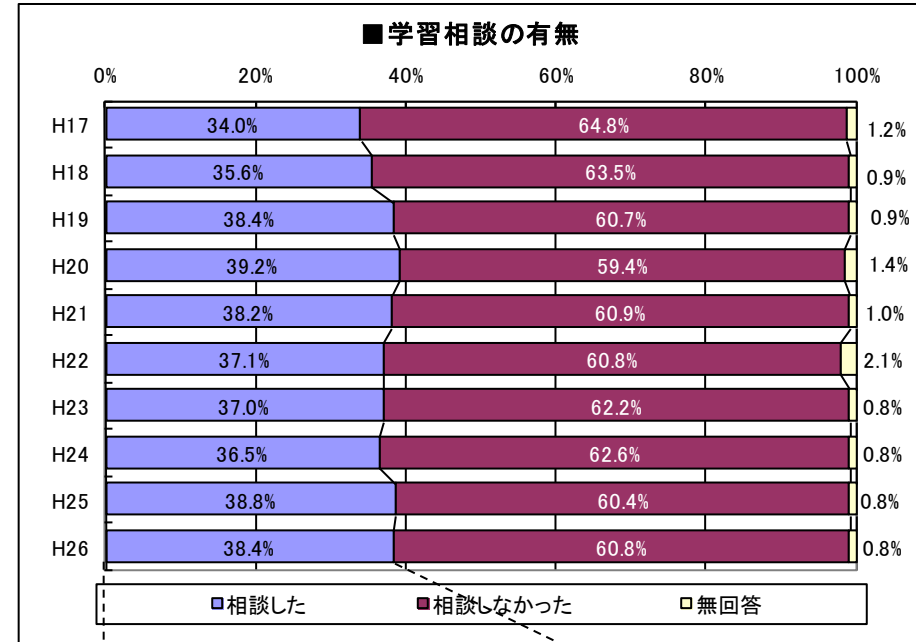
■ G: 学習支援計画書との一致



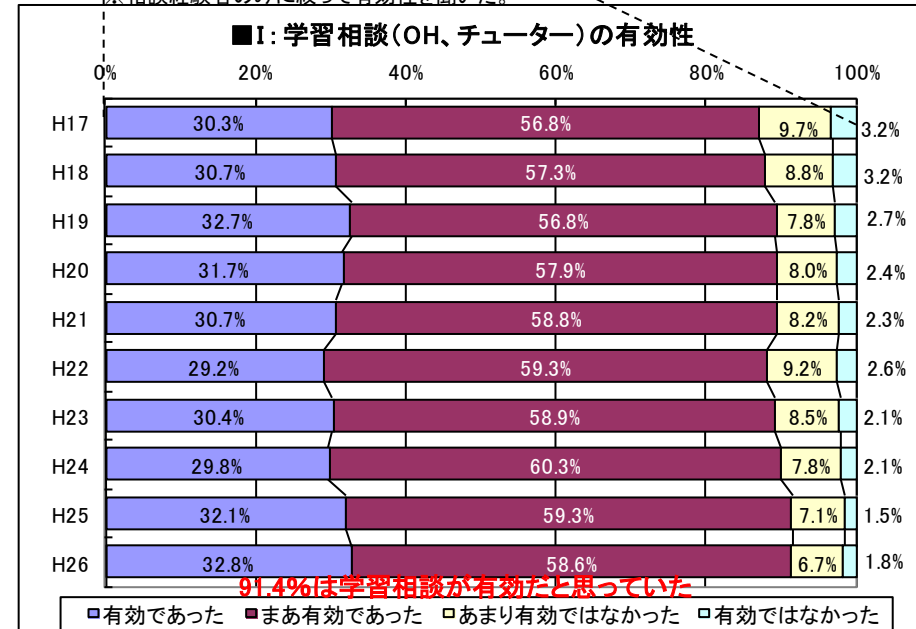
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であるが、まず「学習相談の有無」だけを見たところ、「相談した」が38.4%、「相談しなかった」が60.8%となっていた。
- 「相談した」の経年変化を見ると、前回を0.4ポイント下回っていたものの、ほぼ横這い状態が続いていると言える。
- 学習相談の有無に関して、「相談した」と回答した学生に「学習相談の有効性」を聞いたところ、「有効であった」が32.8%で過去最高となっており、「まあ有効であった」の58.6%と合わせると91.4%が学習相談は有効であったと評価していた。
- 学習相談が有効であったという評価の割合は前回と同じであり、以前との比較を見ると、わずかずつではあるが評価が上がる傾向が続いていた。



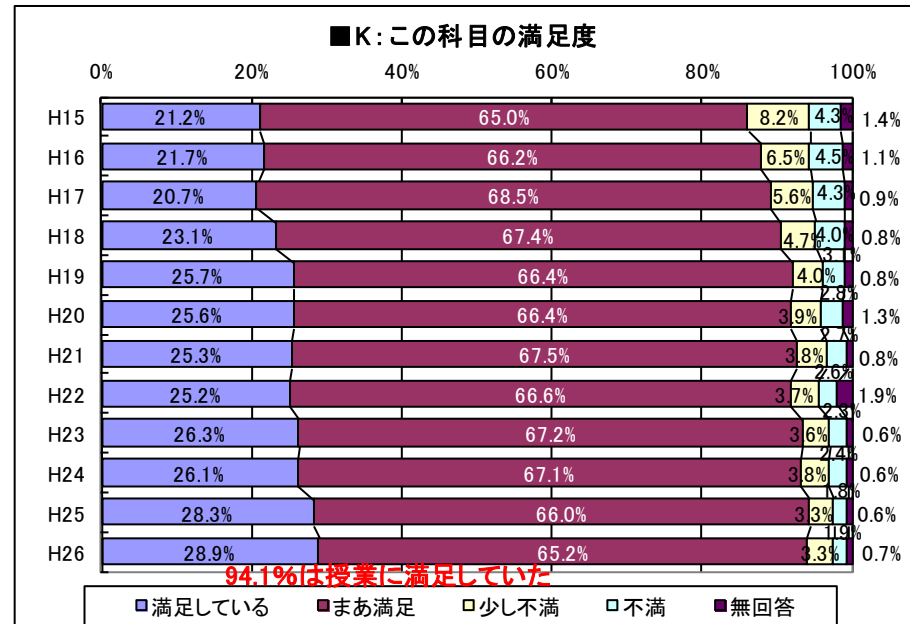
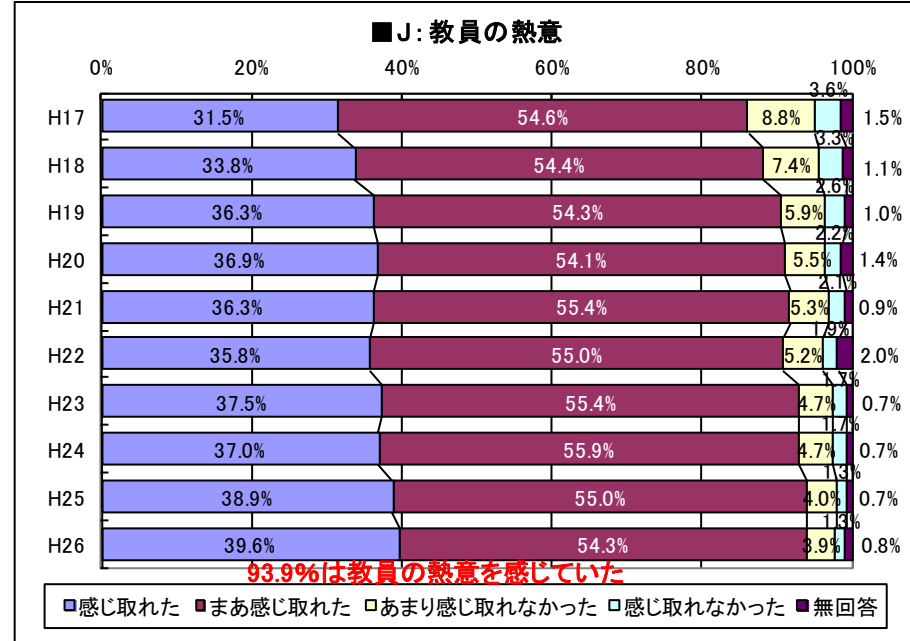
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が39.6%であり、前回は0.7ポイント上回って過去最高であった。そして、「まあ感じ取れた」の54.3%を加えると93.9%が教員の熱意を感じたという意見であった。
- 経年変化を見ると、上で確認したように「感じ取れた」は過去最高であったが、肯定的な意見の合計は前回と同じであり、H23あたりから横這い傾向が続いていた。
- 「K:この科目の満足度」を見ると、「満足している」が28.9%でこれまでで最高であり、「まあ満足」の65.2%を加えると、94.1%が授業に満足しているという回答であった。
- 経年変化を見ると前回より0.2ポイント減少していたが、満足度はH19あたりから非常に高い状態が続いており、今回もこれまでで2番目に高い満足度となっていた。

■満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0
H23	93.5%	+1.7
H24	93.2%	-0.3
H25	94.3%	+1.1
H26	94.1%	-0.2



<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

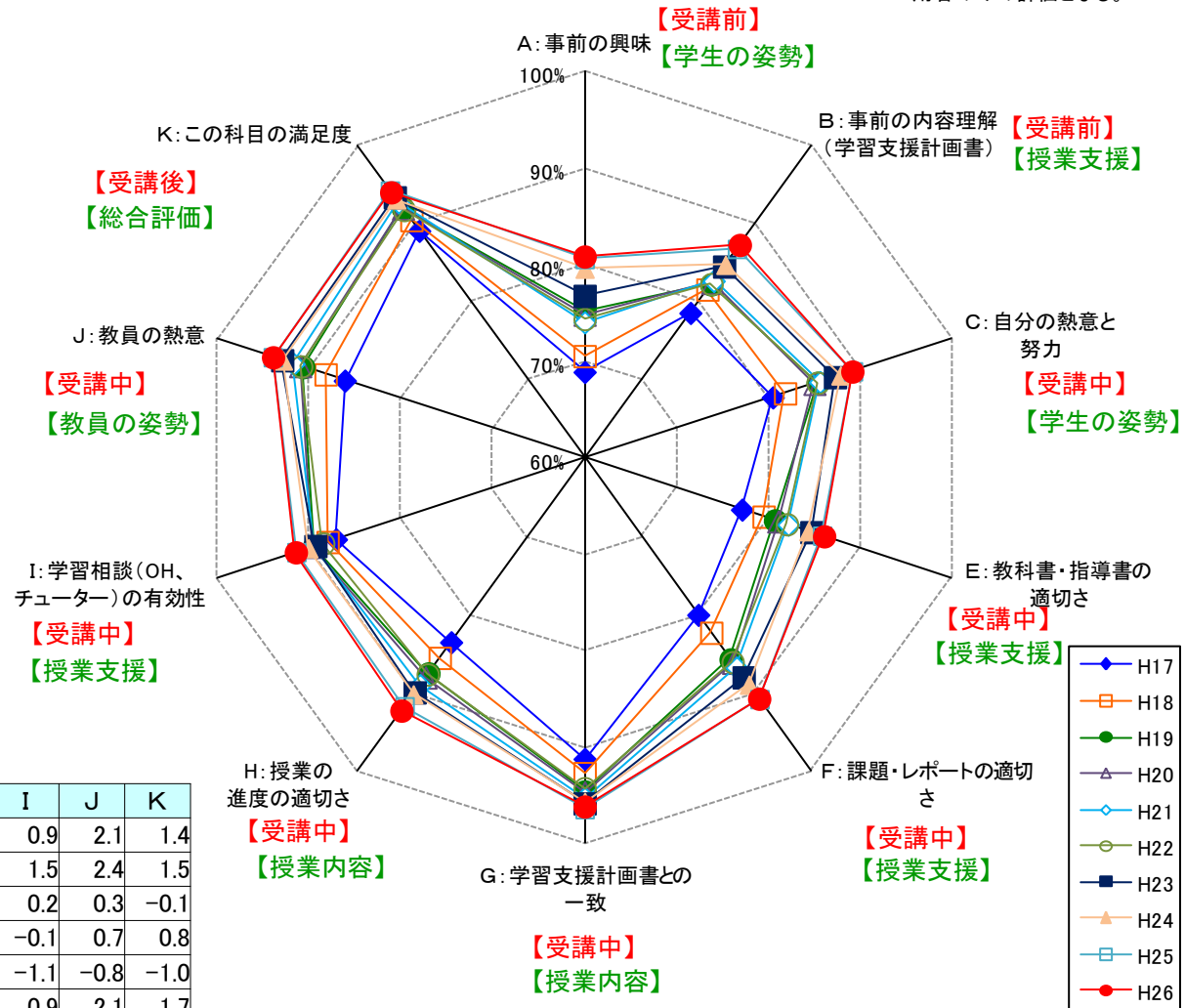
- 肯定的意見の合計をレーダーチャートで比較した。比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- H26の結果を見ると、ほとんどの項目でこれまでで最も高いレベルの評価となっていた。例外はあるもののH17から継続的に評価が上がる傾向が続いており、改善が進んでいるものと思われる。ただし、前回から増加した項目は最大で0.6ポイントの増加であり、横這い傾向にあるとも言える。
- 評価としては上がっているものの、全体的な傾向は以前から変わっておらず、「A: 事前の興味」では肯定的な意見がやや少なめであり、「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」「K: この科目の満足度」の評価が高い傾向が続いていた。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26の上昇	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2

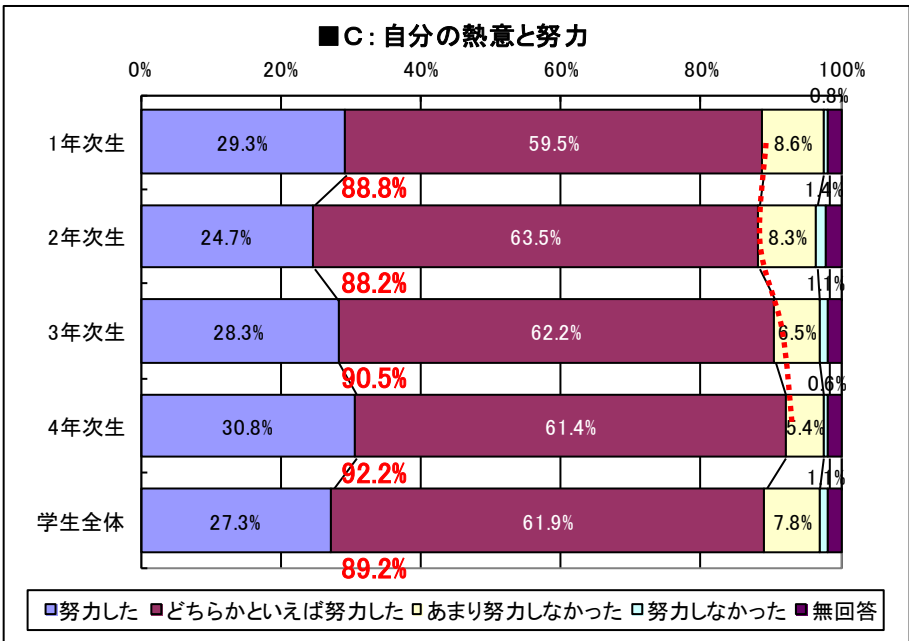
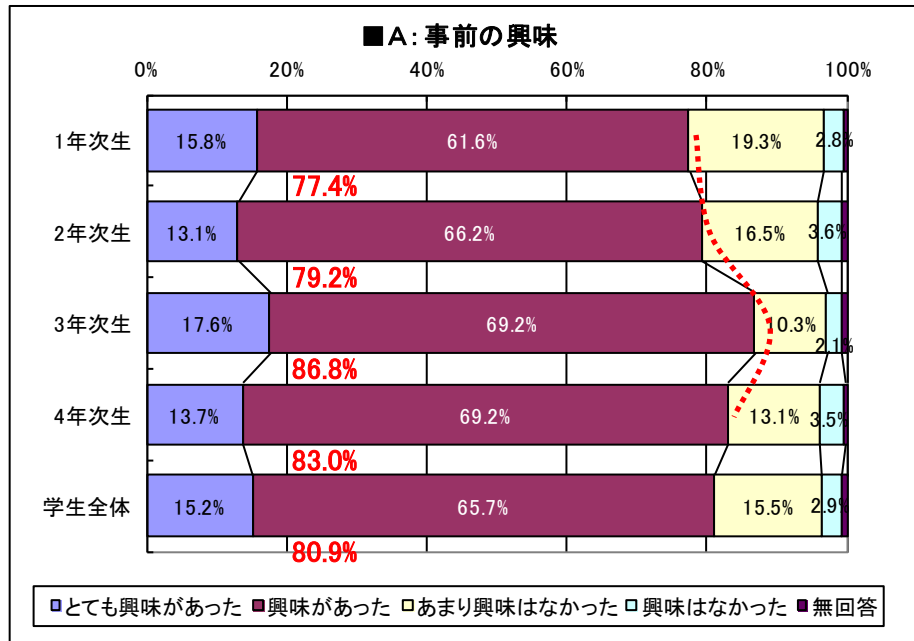
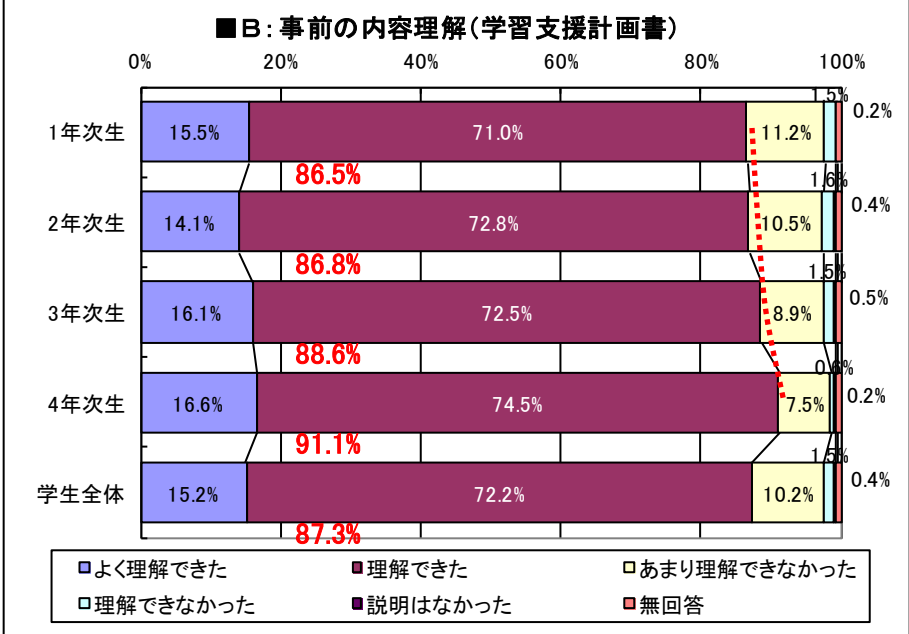
■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者だけの評価となる。

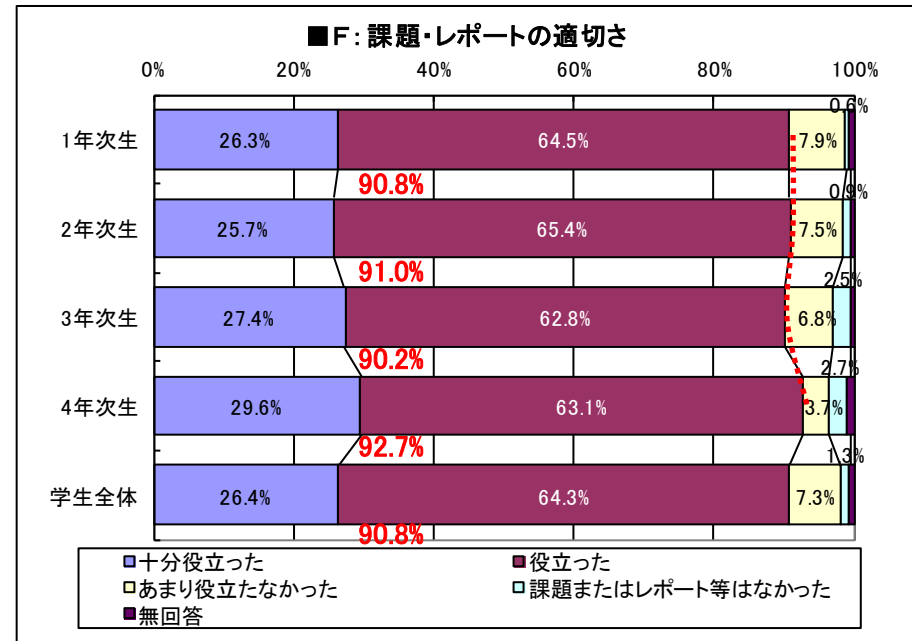
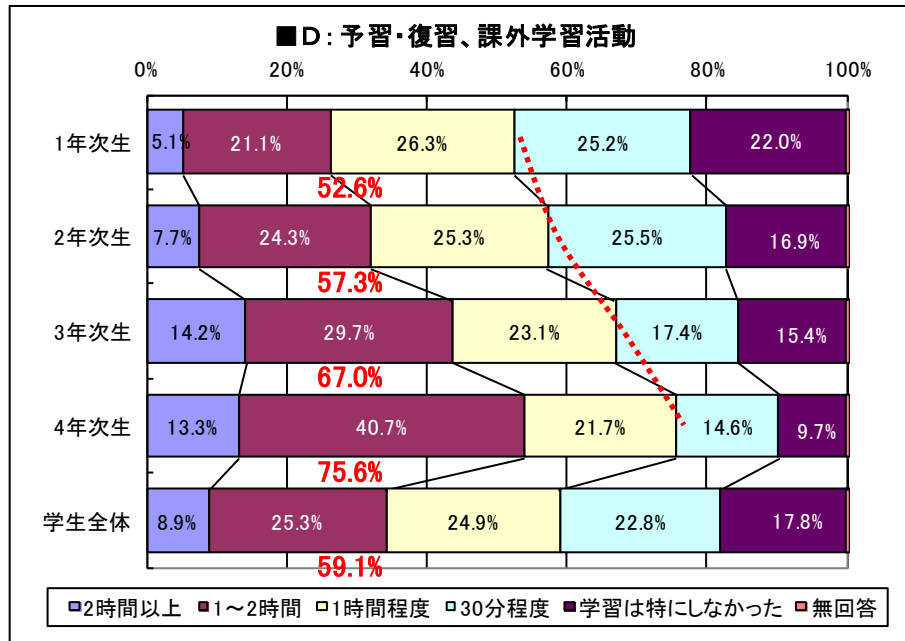
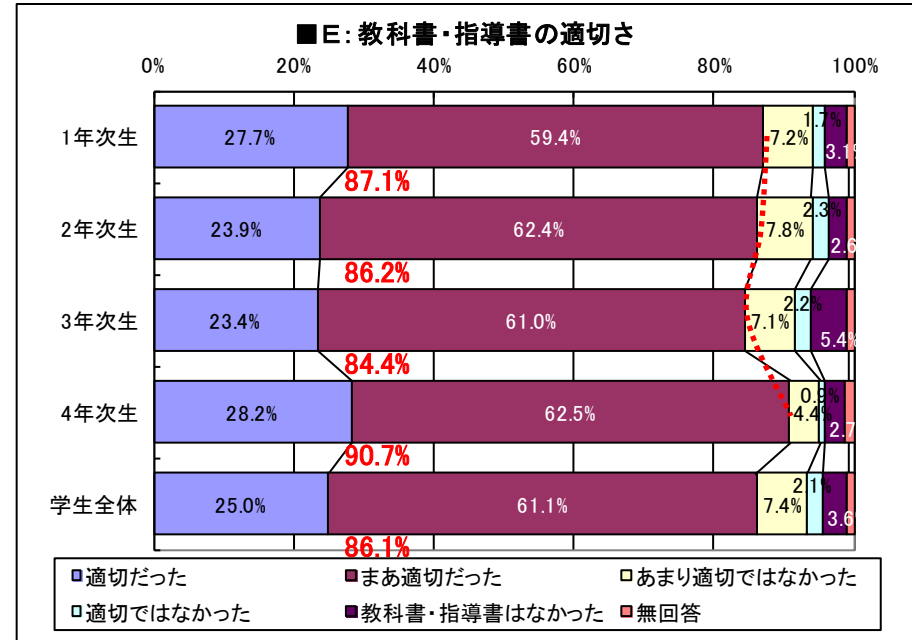


<3> 学年別の分析

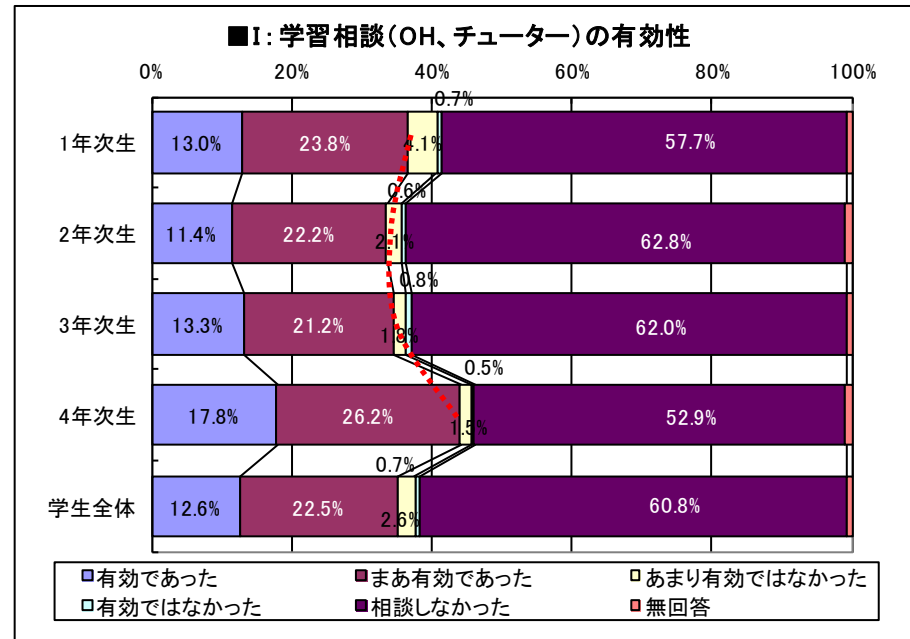
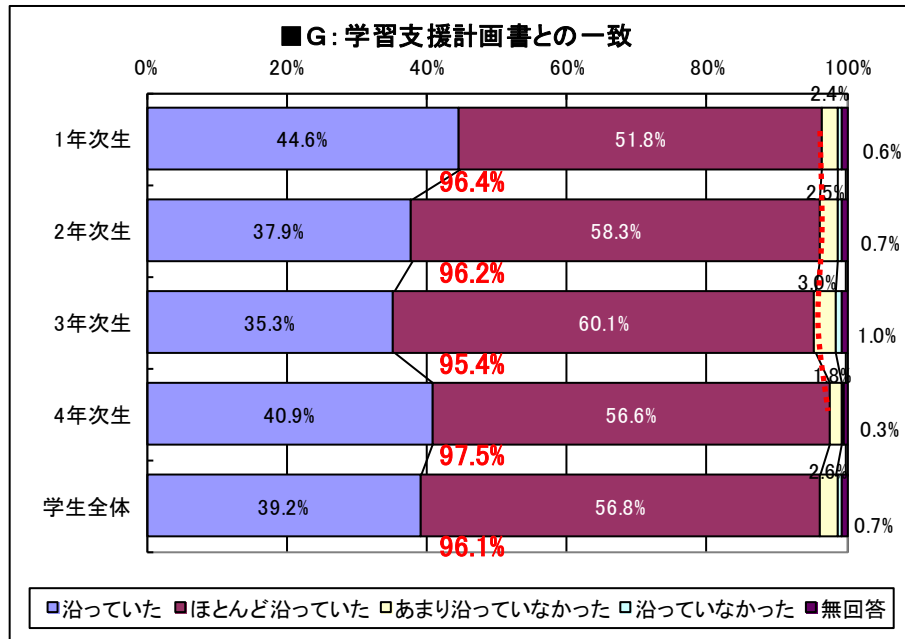
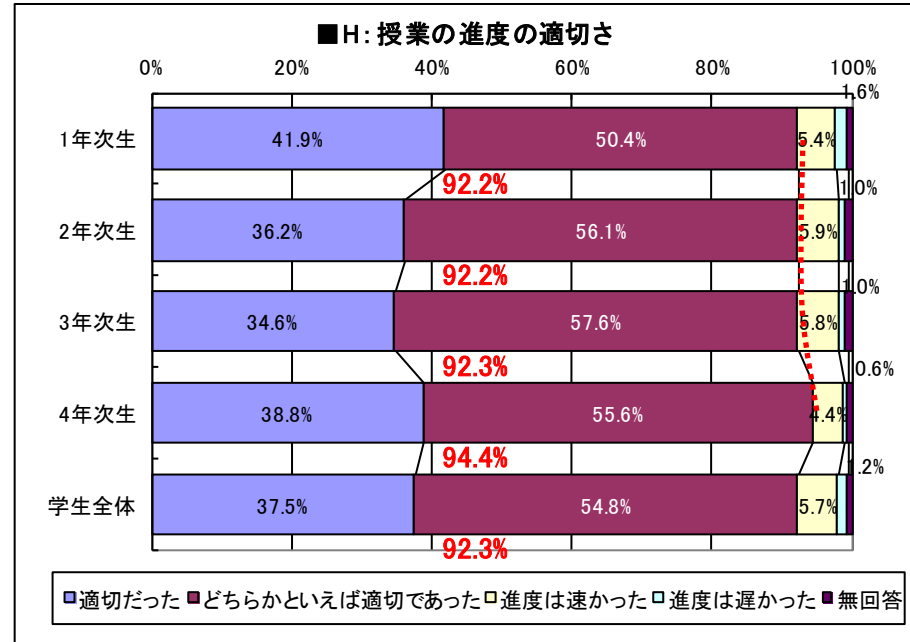
- 「A: 事前の興味」を学年別に比較したところ、肯定的な意見は「3年次生」で86.8%とやや多く、「4年次生」が83.0%、「2年次生」が79.2%、「1年次生」が77.4%と、低学年の低さが目立っており、「3年次生」と「1年次生」の差は9.4ポイントであった。
- 「B: 事前の内容理解」では「4年次生」で理解できたという意見が91.1%と多かったが、他の学年の差は少なめであった。「4年次生」と、最も低い「1年次生」(86.5%)との差は4.6ポイントであった。
- 「C: 自分の熱意と努力」も「4年次生」で努力をしたという意見が多く、92.2%が肯定的な回答をしていた。そして、「3年次生」が90.5%、「1年次生」が88.8%、「2年次生」が88.2%であり、高学年の積極性の高さがうかがえた。



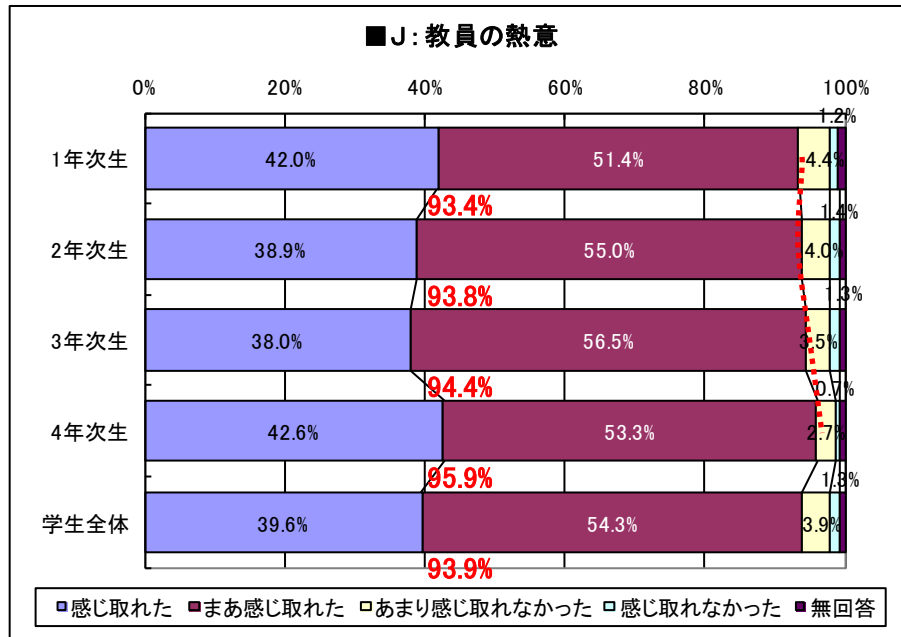
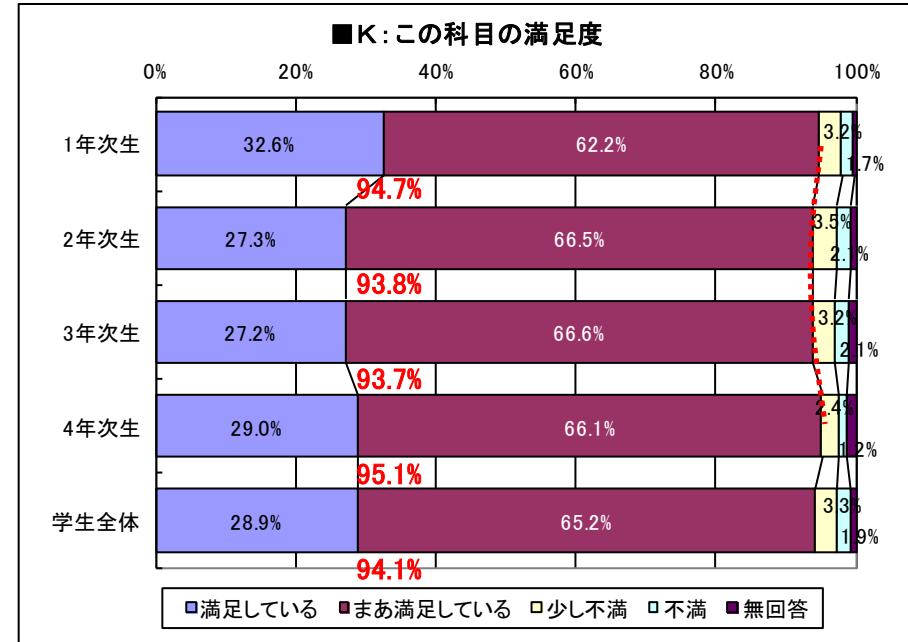
- 「D:予習・復習、課外学習活動」について、「1時間程度」までを合わせたもので比較すると、高学年ほど勉強をしている傾向が見られ、「1年次生」の52.6%に対して「4年次生」では75.6%であり、その差は23.0ポイントと大きかった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」も「4年次生」で肯定的な意見が多く、90.7%が教科書・指導書が適切であると評価していた。次いで、「1年次生」が87.1%、「2年次生」が86.2%、「3年次生」が84.4%と続いており、「4年次生」以外の学年では、低学年ほど評価が高かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は学年による差が非常に小さく、肯定的な意見が最も多い「4年次生」(92.7%)と、最も少ない「3年次生」(90.2%)との差は2.5ポイントと小さく、いずれの学年も課題・レポートを高く評価していると言える。



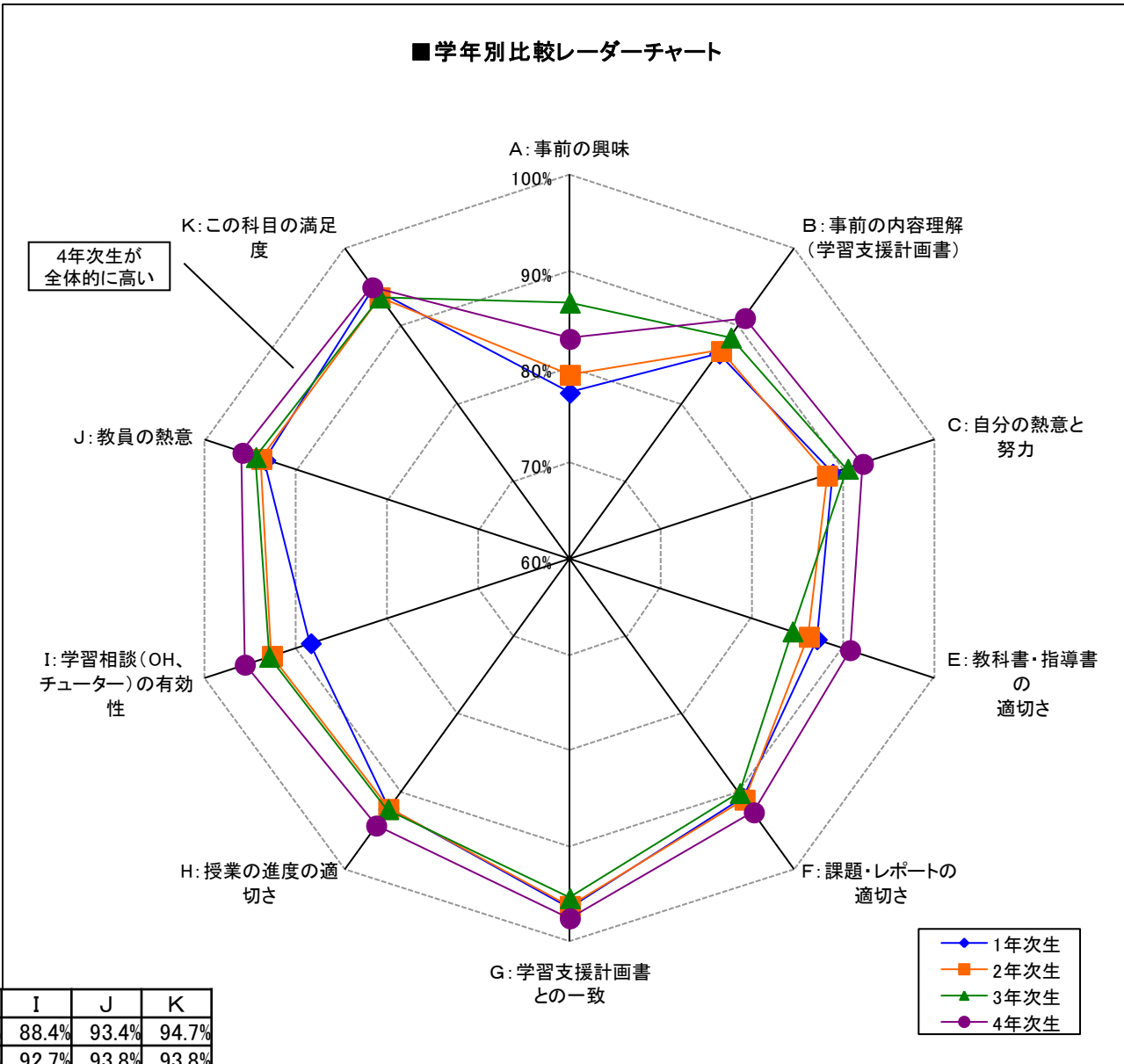
- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的な意見を比較すると、学年間の差は非常に小さく、いずれの学年でも95.0%以上が肯定的な意見であり、しっかりと学習支援計画書に沿って授業が進められていることが分かる。そして、「沿っていた」だけで比較すると「1年次生」が44.6%で最も高く、「3年次生」が35.3%で最も低かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」でも肯定的な意見の合計は学年によって大きな差が見られず、いずれの学年でも90%以上が授業の進度は適切であったと答えていた。そして、「適切だった」だけで比較すると「1年次生」が41.9%でやや高く、「4年次生」(38.8%)、「2年次生」(36.2%)、「3年次生」(34.6%)の順になっていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較したところ、「2年次生」が62.8%と最も高く、「3年次生」が62.0%、「1年次生」が57.7%となり、最も低かったのは「4年次生」の52.9%で、学習相談の利用率の高さがうかがえた。そして、内容の評価に関しても「4年次生」の肯定的な意見の合計は44.0%であり、非常に高く評価をしていることが分かった。



- 「J:教員の熱意」についても、肯定的な意見の合計で比較をすると学年間の差は小さく、最も高い「4年次生」が95.9%であり、次いで「3年次生」が94.4%、「2年次生」が93.8%、「1年次生」が93.4%であった。いずれの学年も9割以上が肯定的な意見であったが、高学年ほど教員の熱意を強く感じている傾向が見られた。
- 「K:この科目の満足度」も肯定的な意見はいずれの学年も9割を超えており、満足度が非常に高いことが確認できた。最も高かったのは「4年次生」の95.1%であり、次いで「1年次生」の94.7%、「2年次生」の93.8%、「3年次生」の93.7%と続いており、「4年次生」を除くとわずかな差ではあるが低学年ほど満足度が高い傾向が見られた。そして、「満足している」だけを見ると「1年次生」は32.6%で、「4年次生」の29.0%を上回っており、満足度の強さに差が見られた。



- 学年別に肯定的な意見の割合をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的の傾向を見ると、「A:事前の興味」以外は「4年次生」が最も高くなっており、授業に対する評価の高さ、満足度の高さがうかがえる結果となっていた。
- 差は少なかったが、「3年次生」は「A:事前の興味」の高さが目立っており、「E:教科書・指導書の適切さ」と「F:課題・レポートの適切さ」がやや低めであった。
- 「1年次生」は「A:事前の興味」と「I:学習相談の有効性」の低さが目立っていた。
- 「2年次生」は特に目立った傾向は見られず、全体的に中庸な結果となっていた。

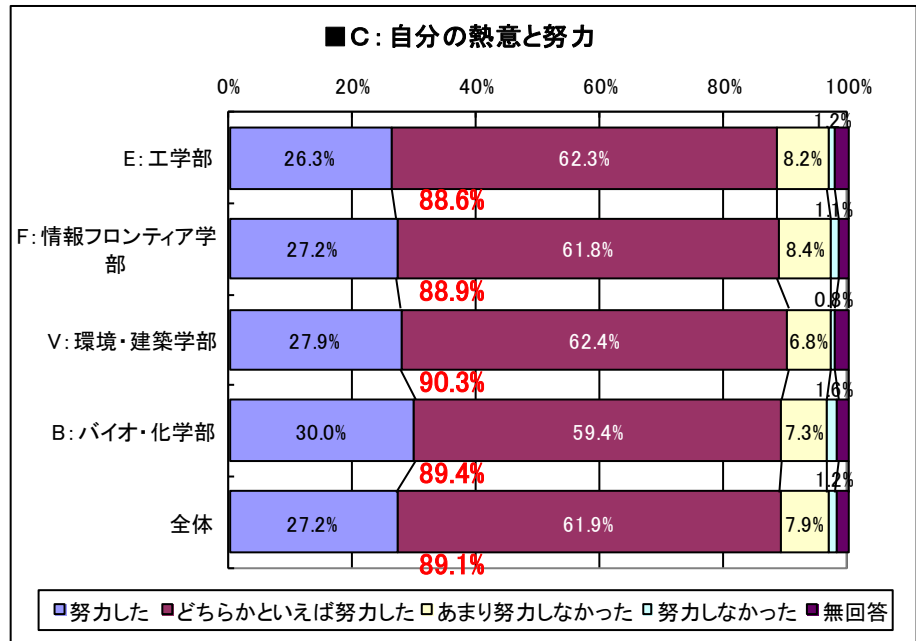
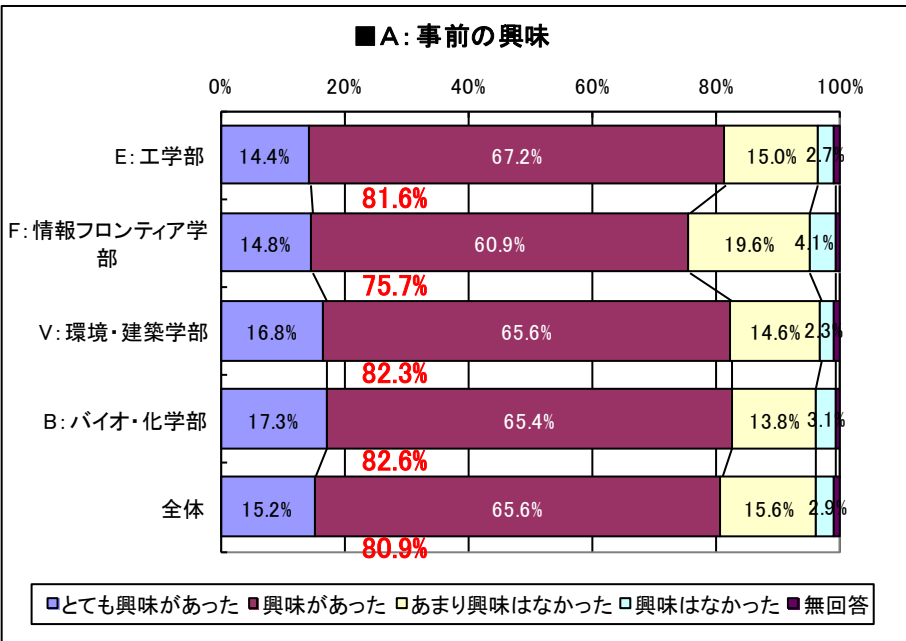
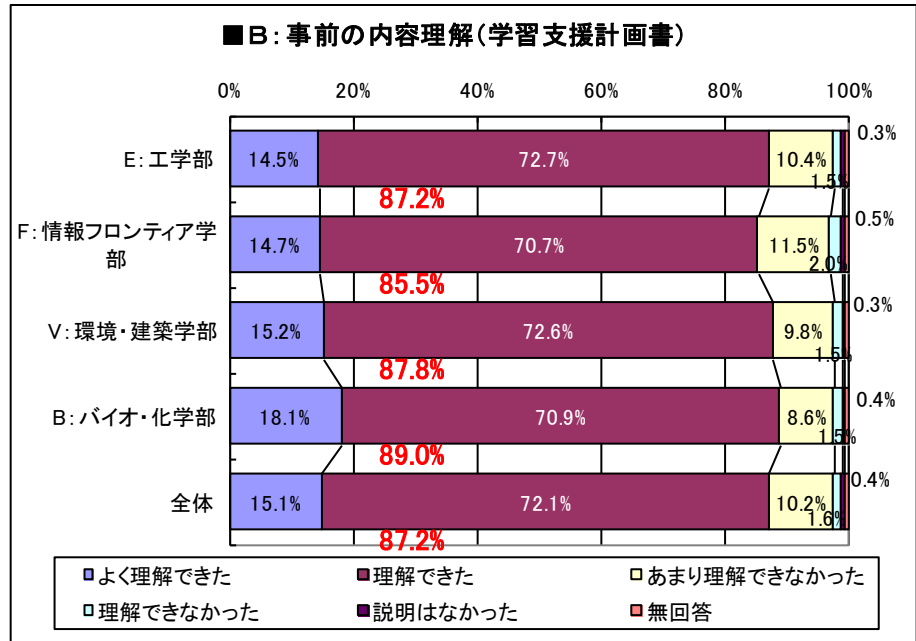


■ 学年別比較

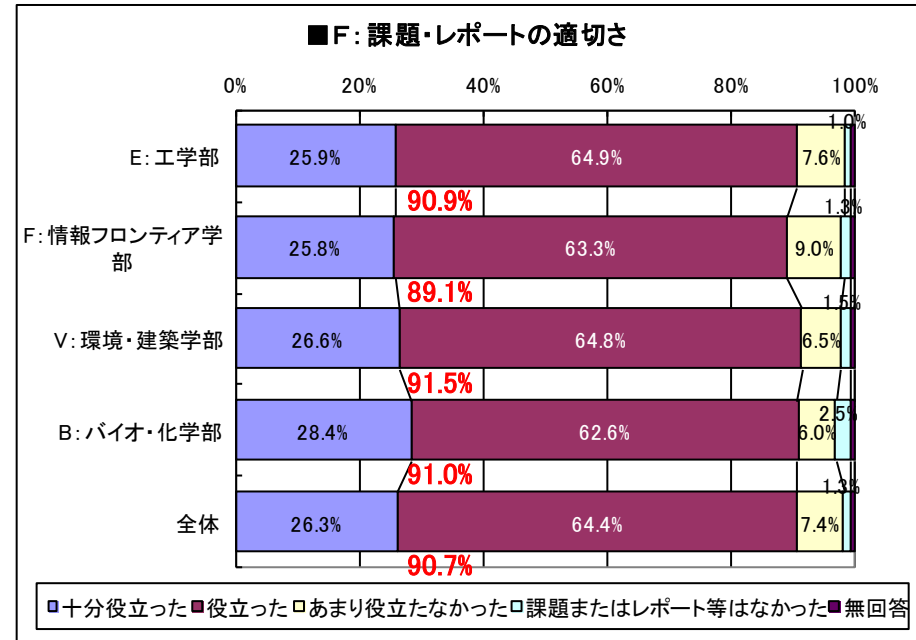
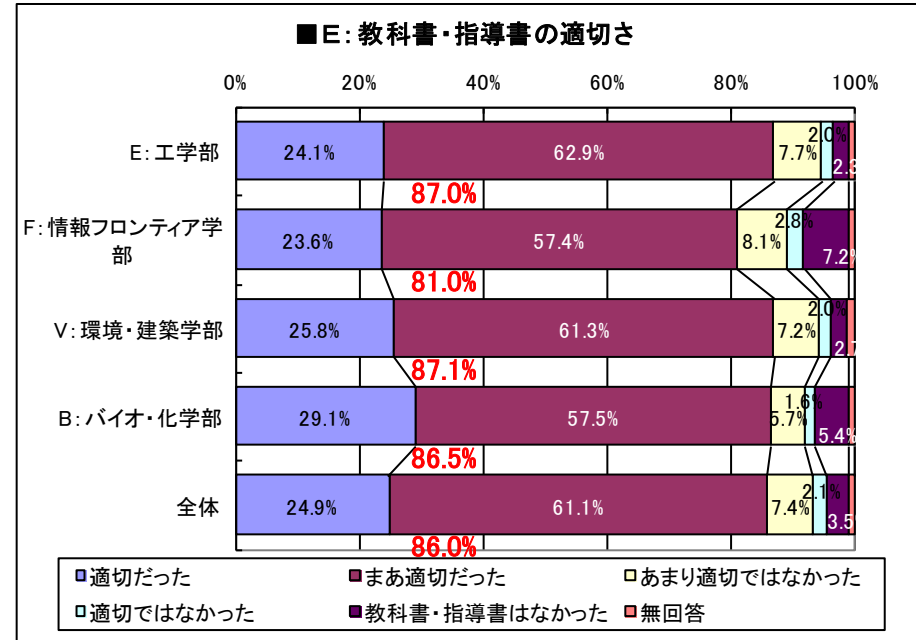
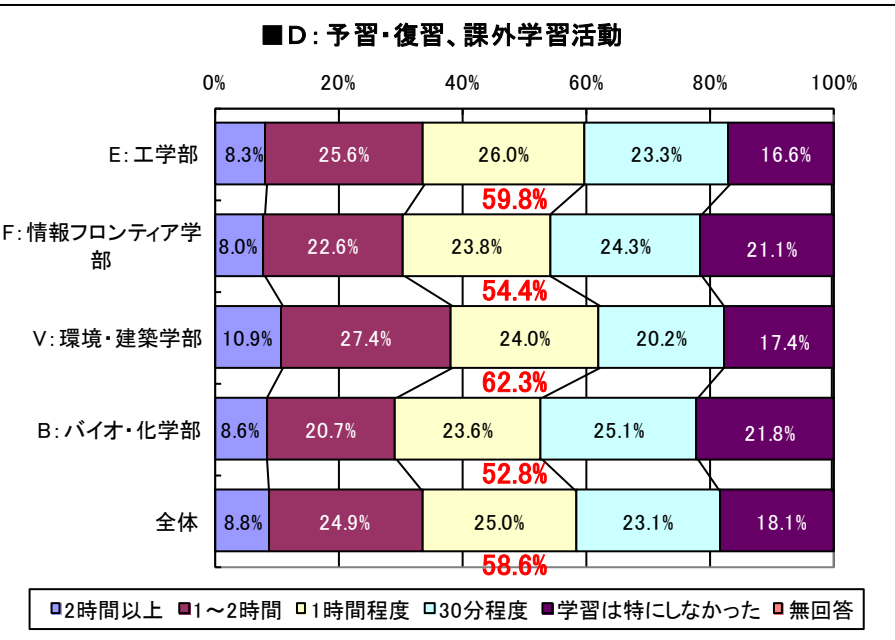
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	77.4%	86.5%	88.8%	87.1%	90.8%	96.4%	92.2%	88.4%	93.4%	94.7%
2年次生	79.2%	86.8%	88.2%	86.2%	91.0%	96.2%	92.2%	92.7%	93.8%	93.8%
3年次生	86.8%	88.6%	90.5%	84.4%	90.2%	95.4%	92.3%	93.0%	94.4%	93.7%
4年次生	83.0%	91.1%	92.2%	90.7%	92.7%	97.5%	94.4%	95.6%	95.9%	95.1%

<4> 学部・学科別の分析

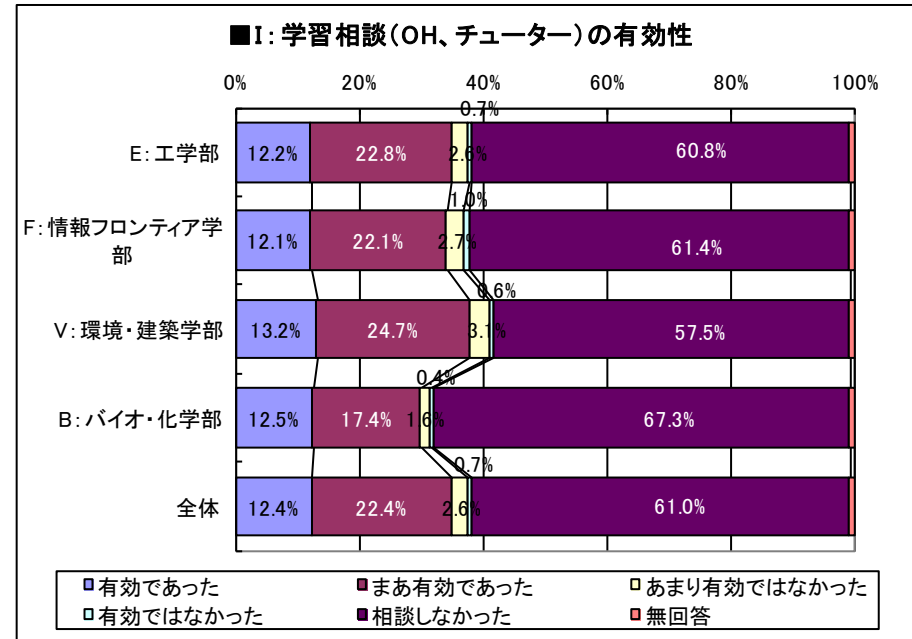
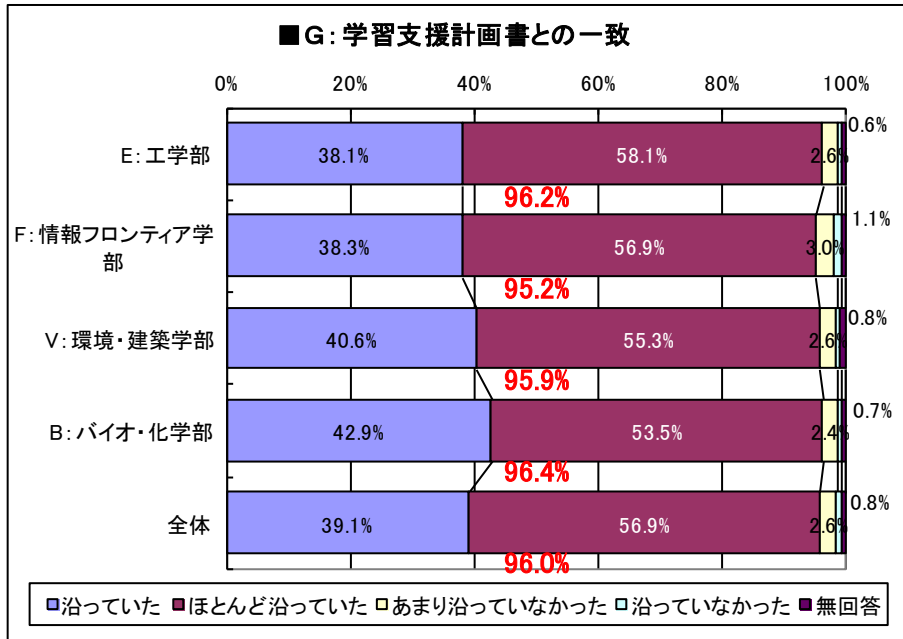
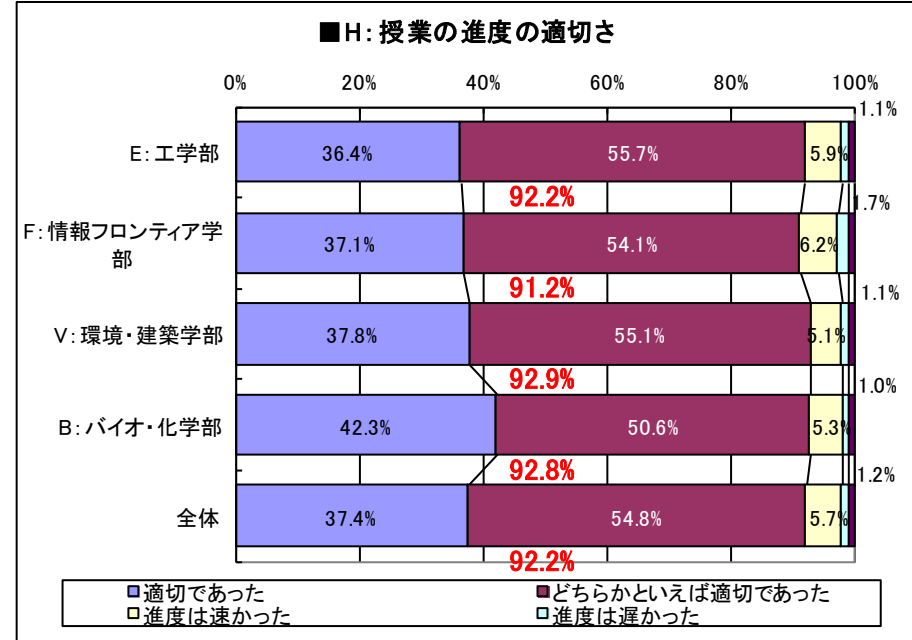
- 今回は「1年次生」～「3年次生」が新しい学部構成になるため、この3学年をまとめて学部別に集計を行い、古い学部構成の「4年次生」だけは別集計とした。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見の合計を比較すると、「F:情報フロンティア学部」が75.7%とやや低めであったが、他の3学部では肯定的な意見が8割を超えており、興味の高さがうかがえた。特に「B:バイオ・化学部」(82.6%)、「V:環境・建築学部」(82.3%)の2学部がやや高かった。
- 「B:事前の内容理解」は学部による差が小さく、肯定的な意見の割合が最も高い「B:バイオ・化学部」(89.0%)と、最も低い「F:情報フロンティア学部」(85.5%)との差は3.5ポイントであった。そして、いずれの学部も9割近くが肯定的な意見であり、事前にしっかりと内容を理解している様子がうかがえた。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部による差が小さく、肯定的な意見はいずれの学部でも9割近く、全体的に努力している傾向が見られた。ただし、「努力した」だけで比較すると「V:環境・建築学部」が30.0%で最も高く、「E:工学部」の26.3%とは3.7ポイントの差が見られた。



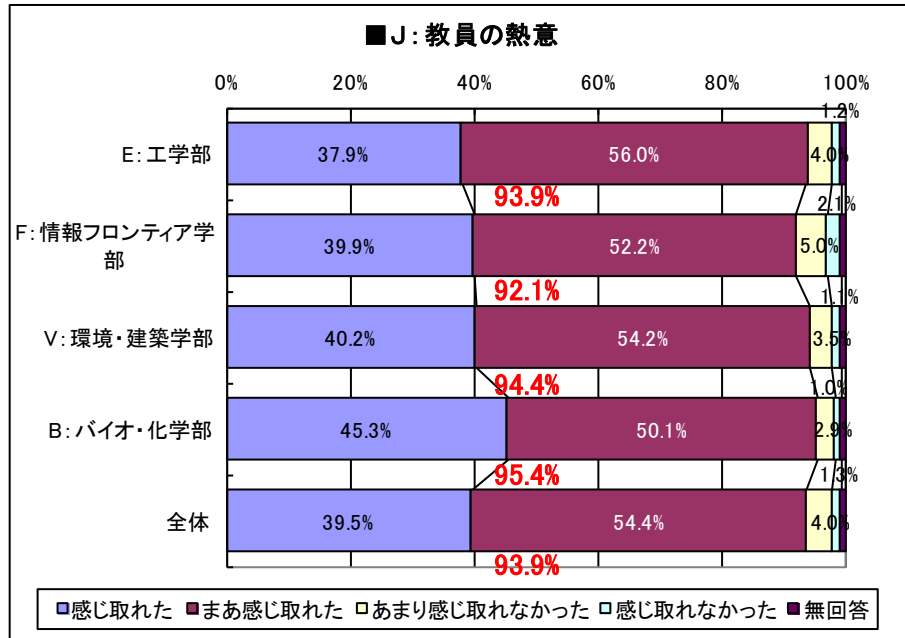
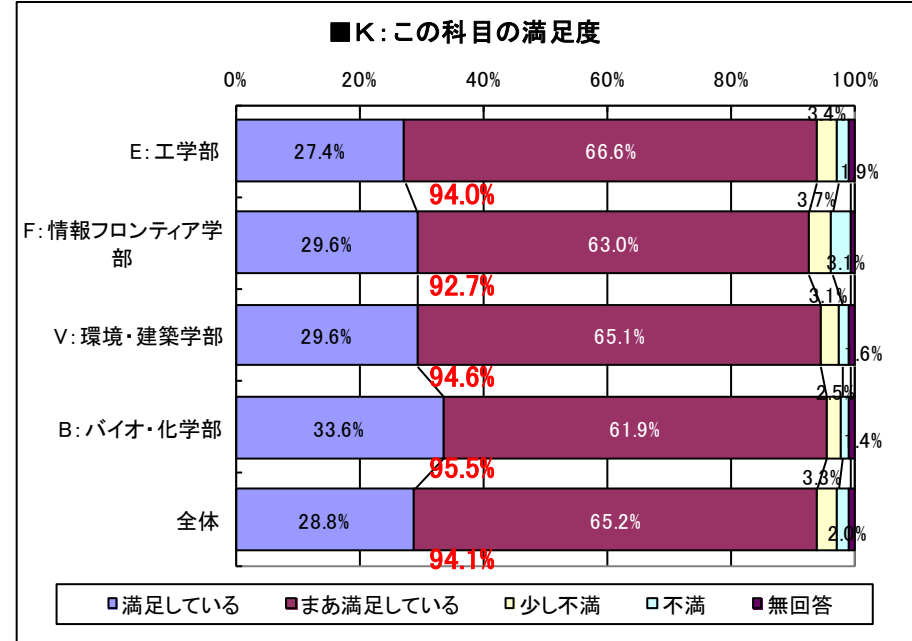
- 「D:予習・復習、課外学習活動」について「1時間程度」までの合計で比べると、「V:環境・建築学部」が62.3%で最も多く、次いで「E:工学部」が59.8%、「F:情報フロンティア学部」が54.4%、「B:バイオ・化学部」が52.8%であり、「V:環境・建築学部」と「B:バイオ・化学部」の差は9.5ポイントであった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、「F:情報フロンティア学部」が81.0%でやや少なかったが、他の3学部はいずれも87.0%前後と差が小さかった。ただし、「適切だった」だけを見ると、「B:バイオ・化学部」が29.1%でやや高かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も学部間の差が小さく、最も評価の高い「V:環境・建築学部」(91.5%)と最も低い「F:情報フロンティア学部」(89.1%)との差は2.4ポイントであった。



- 「G:学習支援計画書との一致」は全学部で肯定的な意見の合計が95%を超えており、授業内容がしっかりと学習支援計画書と一致していることがうかがえた。学部間の差も少なく、最も高かった「B:バイオ・化学部」(96.4%)と最も低かった「F:情報フロンティア学部」(95.2%)との差は1.2ポイントであった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学部間の差が少なく、いずれの学部でも90%以上が肯定的な意見であり、授業の進度に大きな課題はないようであった。ただし、「適切であった」だけを見ると「B:バイオ・化学部」が42.3%と高く、「E:工学部」の36.4%とは5.9ポイントの差がついていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」については「相談しなかった」という回答の割合で比較した。「B:バイオ・化学部」の相談しなかった割合が67.3%で目立って高く、学習相談の利用率の低さが確認できた。そして、「F:情報フロンティア学部」が61.4%、「E:工学部」が60.8%、「V:環境・建築学部」が57.5%と減ってきていた。



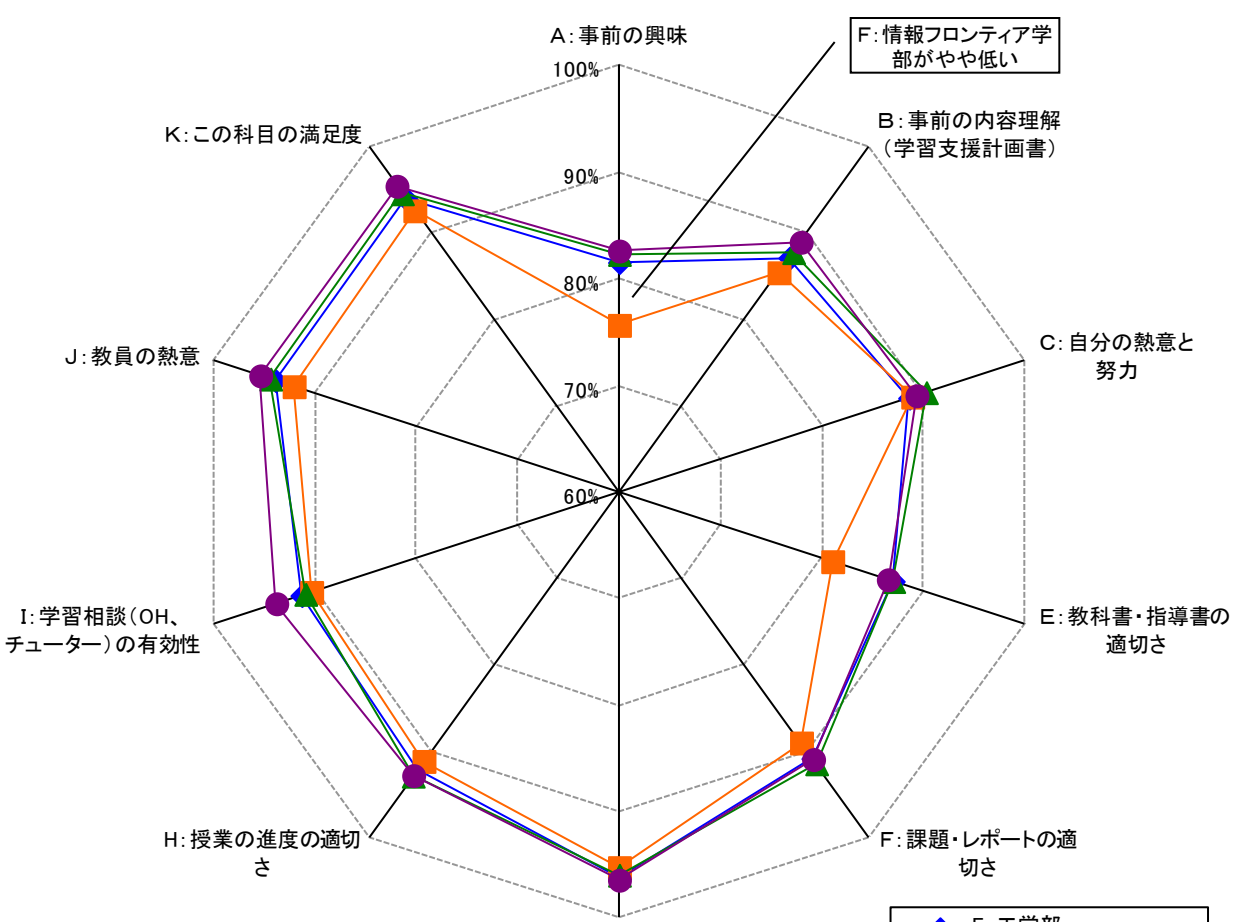
- 「J:教員の熱意」も全ての学部で9割以上が肯定的な意見であった。そして、最も高い「B:バイオ・化学部」では95.4%が肯定的な意見であり、「感じ取れた」だけでも45.3%と高く、他の学部と比べても教員の熱意を強く感じている傾向が見られた。
- 「K:この科目の満足度」も9割以上が肯定的な意見であり、全体的に満足度の高さがうかがえた。最も高い「B:バイオ・化学部」は95.5%であり、最も低い「F:情報フロンティア学部」(92.7%)との差は2.8ポイントであった。また、「満足している」だけを見ても「B:バイオ・化学部」が33.6%で、高さが目立っていた。



- 新学部構成である「1年次生」から「3年次生」の肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートでまとめた。
- 学部の差は大きくなかったが、「F:情報フロンティア学部」が全体的に低く、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っていた。
- 一方、大きな差ではないがやや高め項目が見られたのは「B:バイオ・化学部」で、他の学部に対して「I:学習相談の有効性」がやや高かった。
- 上記以外では、「V:環境・建築学部」は「C:自分の熱意と努力」が高いなど、全体的にやや高めであり、「E:工学部」とは特に目立った項目は見られなかった。

■ 学部別比較レーダーチャート
(1~3年次生のみ)

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



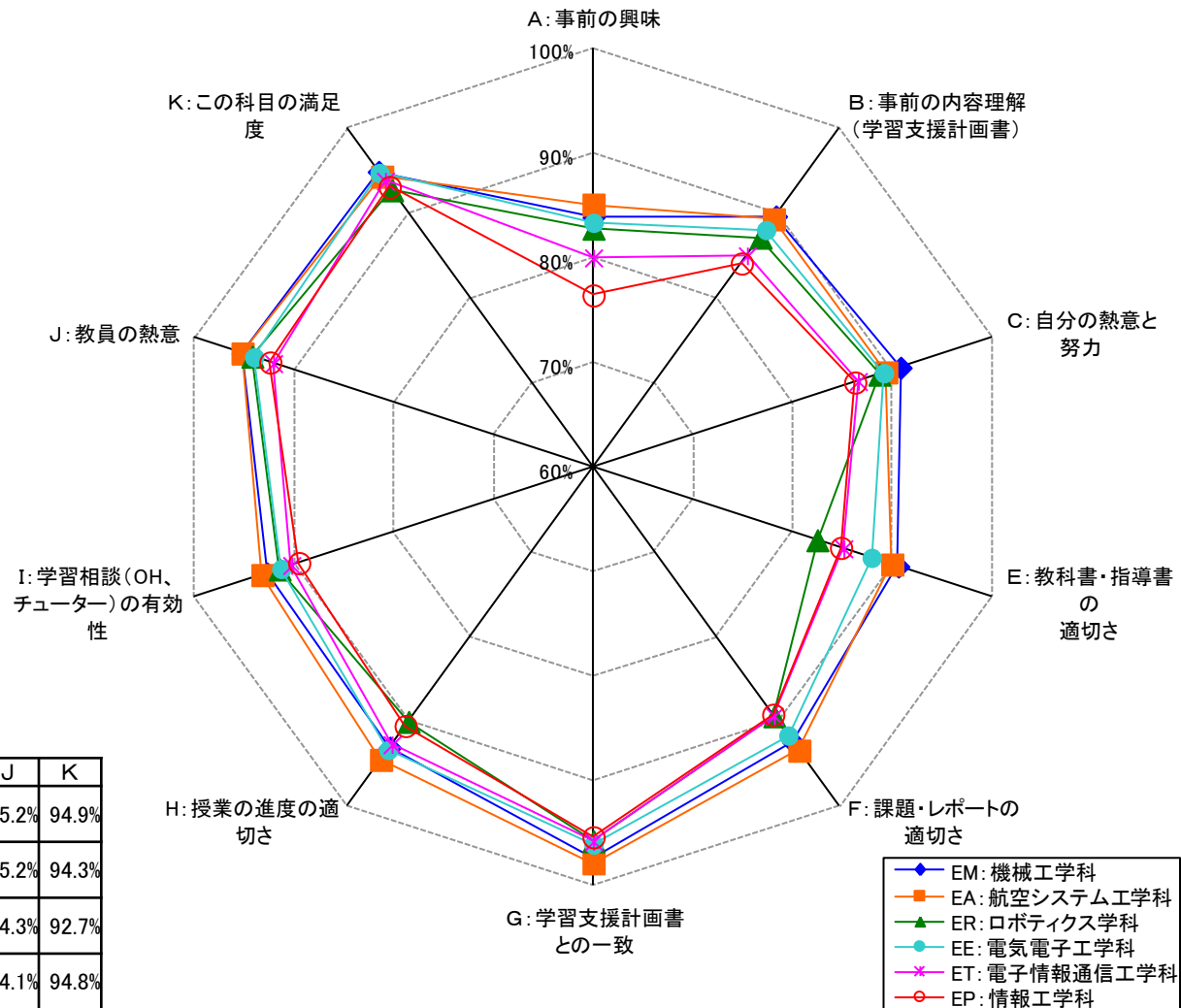
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	81.6%	87.2%	88.6%	87.0%	90.9%	96.2%	92.2%	91.3%	93.9%	94.0%
F: 情報フロンティア学部	75.7%	85.5%	88.9%	81.0%	89.1%	95.2%	91.2%	90.4%	92.1%	92.7%
V: 環境・建築学部	82.3%	87.8%	90.3%	87.1%	91.5%	95.9%	92.9%	90.9%	94.4%	94.6%
B: バイオ・化学部	82.6%	89.0%	89.4%	86.5%	91.0%	96.4%	92.8%	93.8%	95.4%	95.5%

<4-3> 肯定的な意見の学科別比較(1~3年次生)

- 「1年次生」から「3年次生」は学科構成が同じなので、学科別集計はこの3学年を合わせて行った。また、学科数が多いので学部毎に分けて比較をしている。
- 「工学部」の6学科の比較では、全体的に「EA:航空システム工学科」で肯定的な意見が多かったが、目立って高いものは見られなかった。
- 一方、全体的に低かったのは「EP:情報工学科」と「ET:電子情報通信工学科」であり、「EP:情報工学科」は特に「A:事前の興味」の低さが目立っていた。また、「ER:ロボティクス学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っていた。
- 学科間の差を見ると、「G:学習支援計画書との一致」と「K:この科目の満足度」の2項目は学科による差が非常に小さく、評価が一致していると言える。
- 一方で「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」は学科による差がやや大きく、評価が分かれていた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

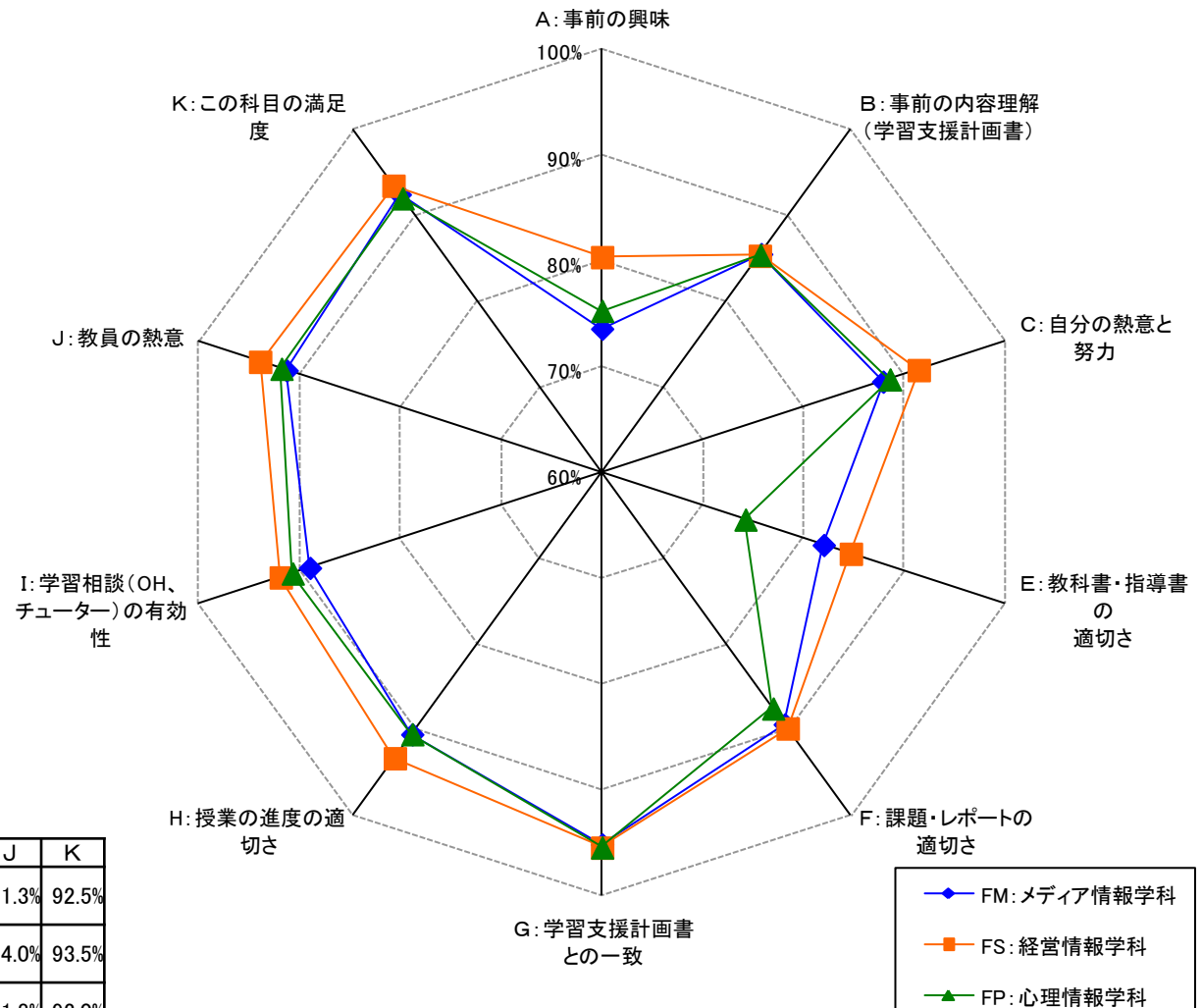


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	83.9%	89.6%	90.8%	90.6%	92.4%	97.3%	93.1%	92.8%	95.2%	94.9%
EA: 航空システム工学科	85.1%	89.3%	89.4%	90.0%	93.4%	97.8%	94.5%	93.2%	95.2%	94.3%
ER: ロボティクス学科	82.8%	87.1%	88.7%	82.5%	89.4%	95.7%	90.0%	91.5%	94.3%	92.7%
EE: 電気電子工学科	83.4%	88.0%	89.2%	87.9%	91.6%	96.0%	93.3%	91.3%	94.1%	94.8%
ET: 電子情報通信工学科	80.0%	85.0%	86.6%	85.1%	89.4%	95.7%	92.7%	90.3%	92.1%	93.8%
EP: 情報工学科	76.4%	84.1%	86.3%	84.8%	89.2%	95.3%	90.5%	89.6%	92.5%	93.1%

- 情報フロンティア学部の3学科を比較したところ、「FS:経営情報学科」が全体的に高く、特に「A:事前の興味」の高さが目立っていた。
- 上記以外の「FM:メディア情報学科」と「FP:心理情報学科」は比較的傾向が似ていたが、「FP:心理情報学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」が非常に低い点が特徴的であった。この低さは全学科を通して最も低いものであった。
- 「FM:メディア情報学科」は目立つものはなかったが、「A:事前の興味」と「I:学習相談の有効性」がやや低めであった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

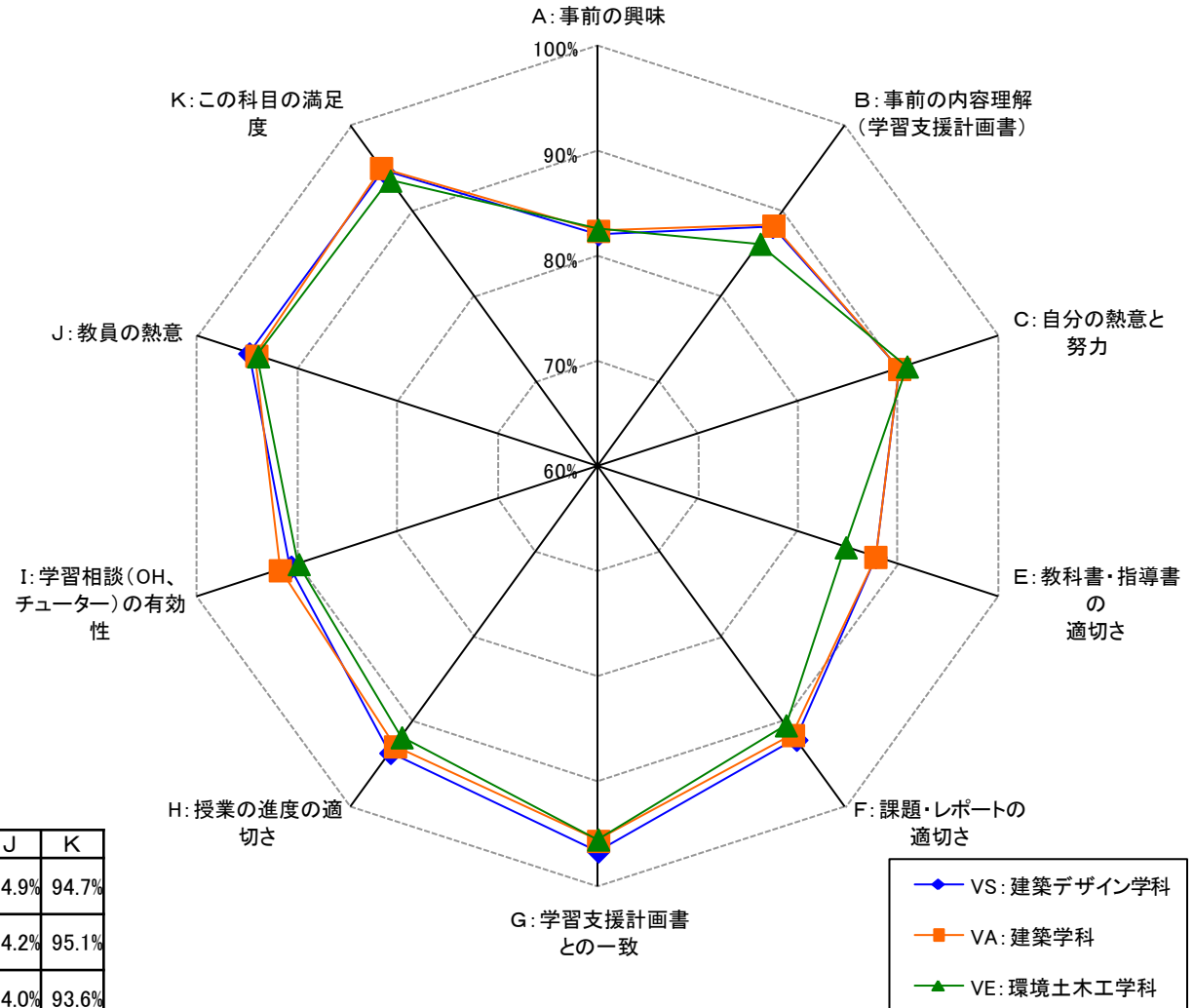


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	73.6%	85.5%	87.9%	82.0%	89.3%	95.1%	90.5%	89.0%	91.3%	92.5%
FS:経営情報学科	80.4%	85.3%	91.4%	84.7%	89.8%	95.4%	93.3%	91.9%	94.0%	93.5%
FP:心理情報学科	75.3%	85.4%	88.6%	74.2%	87.5%	95.3%	90.5%	90.7%	91.8%	92.0%

- 環境・建築学部の3学科では、学科間の差が非常に小さかった。
- 「VS:建築デザイン学科」と「VA:建築学科」は同じような評価で、グラフとして重なっているものが多く、大きな特徴は見られなかった。
- 「VE:環境土木工学科」も大きな特徴は見られなかったものの、「B:事前の内容理解」と「E:教科書・指導書の適切さ」が他の2学科に比べてやや低めだった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

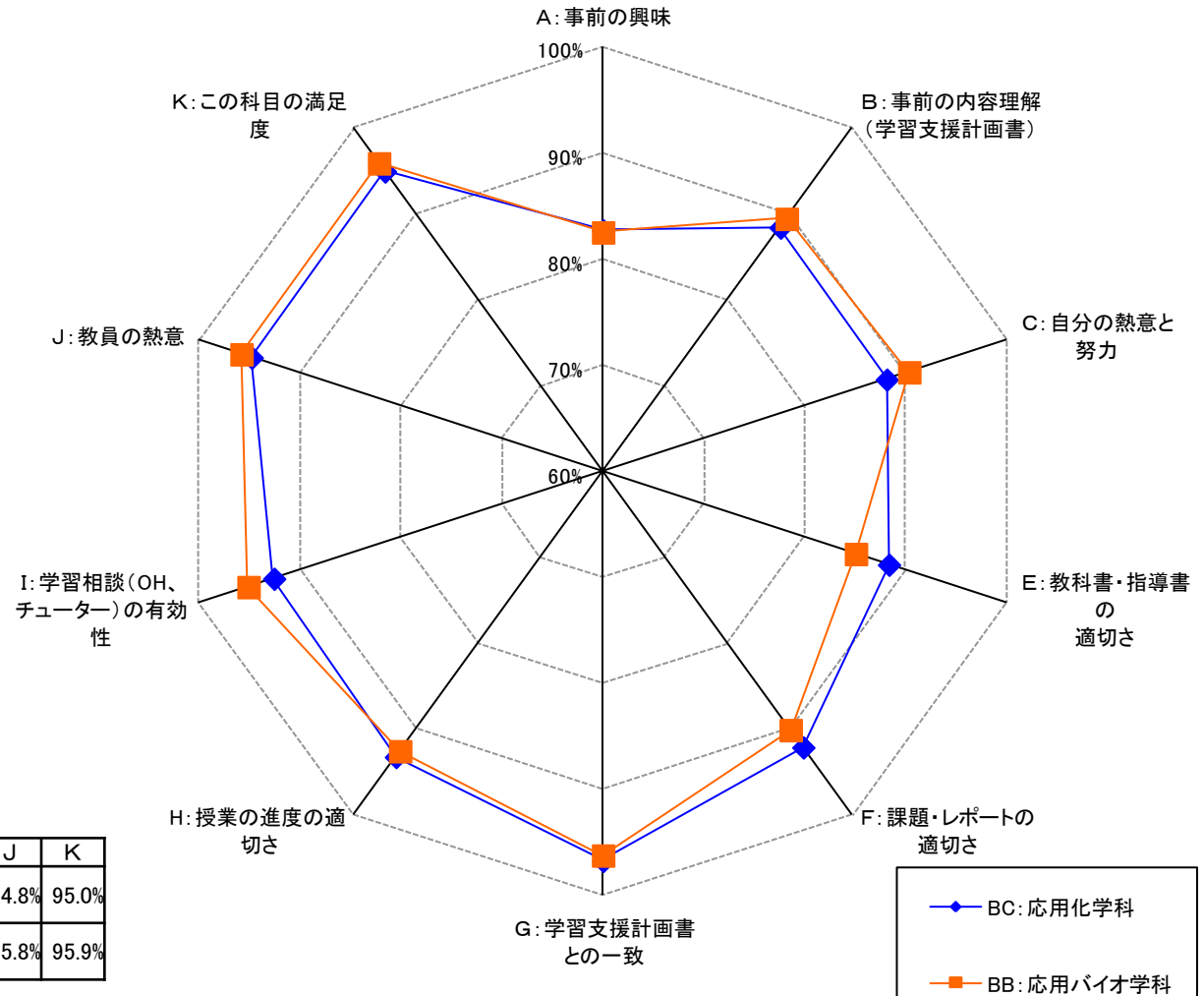


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VS: 建築デザイン学科	82.1%	88.2%	90.2%	87.7%	92.1%	96.5%	93.6%	90.7%	94.9%	94.7%
VA: 建築学科	82.4%	88.3%	90.1%	87.7%	91.5%	95.6%	92.8%	91.8%	94.2%	95.1%
VE: 環境土木工学科	82.5%	86.2%	90.9%	84.7%	90.4%	95.4%	91.8%	89.9%	94.0%	93.6%

- バイオ・化学部は2学科だけの比較となるが、大きくはないもののいくつかの項目で差が見られた。
- 「BC:応用化学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」と「F:課題・レポートの適切さ」の評価がやや高く、「C:自分の熱意と努力」と「I:学習相談の有効性」がやや低かった。
- 「BB:応用バイオ学科」は基本的には上記とは逆であったが、全体的に高めであり、「C:自分の熱意と努力」と「I:学習相談の有効性」の他にも高めの項目が見られ、特に「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」の評価は他の学部他学科と比べても目立って高かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



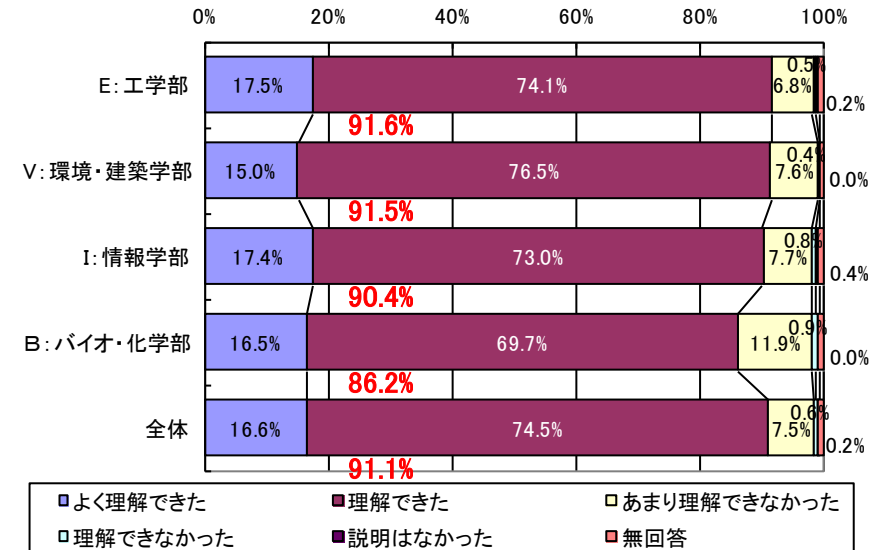
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	82.8%	88.4%	88.1%	88.3%	92.1%	96.7%	93.2%	92.6%	94.8%	95.0%
BB: 応用バイオ学科	82.6%	89.5%	90.3%	85.1%	90.1%	96.2%	92.5%	95.1%	95.8%	95.9%

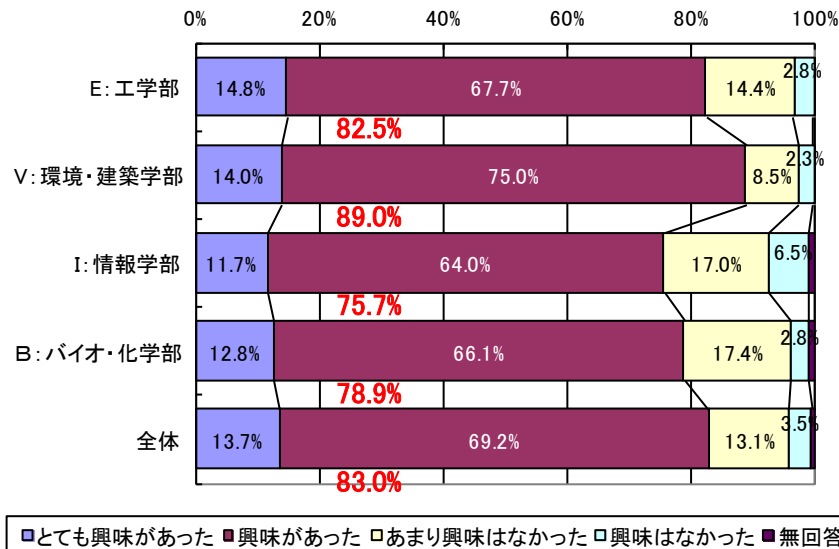
<4-4> 学部別の比較(4年次生)

- 「4年次生」は旧学部構成となるため、単独で集計を行った。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見の合計を見ると学部による差は大きめで、「V:環境・建築学部」が89.0%で最も高く、次いで「E:工学部」が82.5%、「B:バイオ・化学部」が78.9%と続き、「I:情報学部」が最も低く75.7%であった。「V:環境・建築学部」と「I:情報学部」との差は13.3ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解」で肯定的な意見の合計を比較すると、「B:バイオ・化学部」が86.2%とやや少なかったものの、他の3学部は9割以上が肯定的な意見であり、しっかりと事前の内容理解が進んでいることが確認できた。
- 「C:自分の熱意と努力」も全体的に肯定的な意見が多く、積極的な様子が見えかけたが、特に「E:工学部」では95.0%と高く、「I:情報学部」が92.3%、「B:バイオ・化学部」が89.9%、「V:環境・建築学部」が89.0%と続いていた。

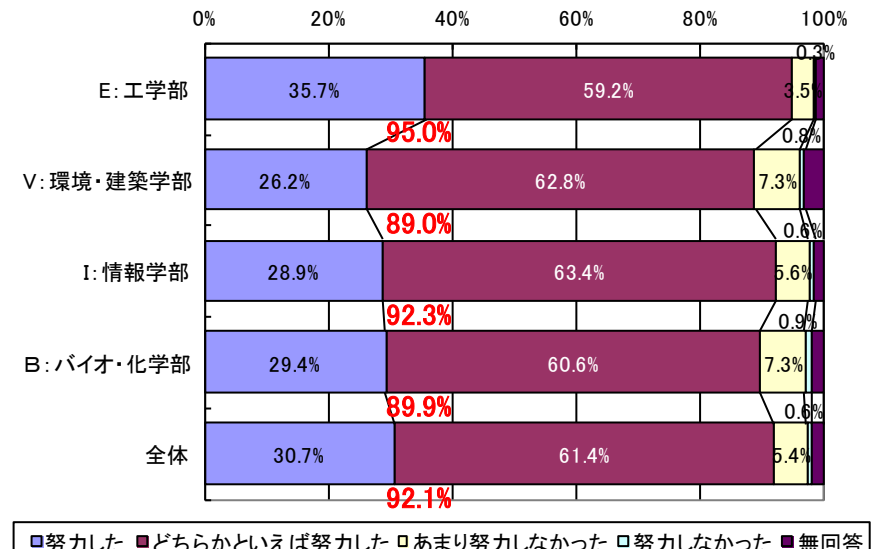
■B:事前の内容理解(学習支援計画書)



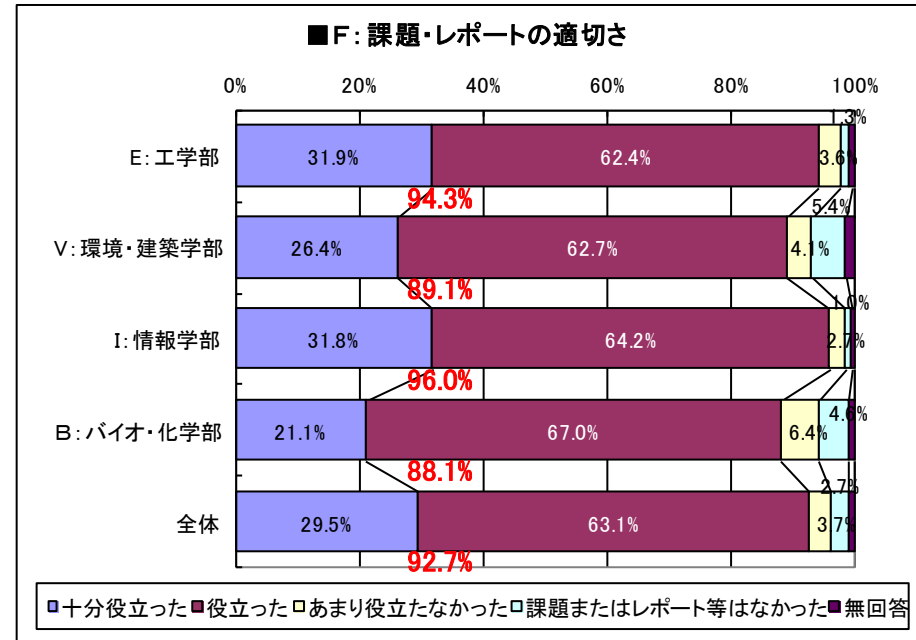
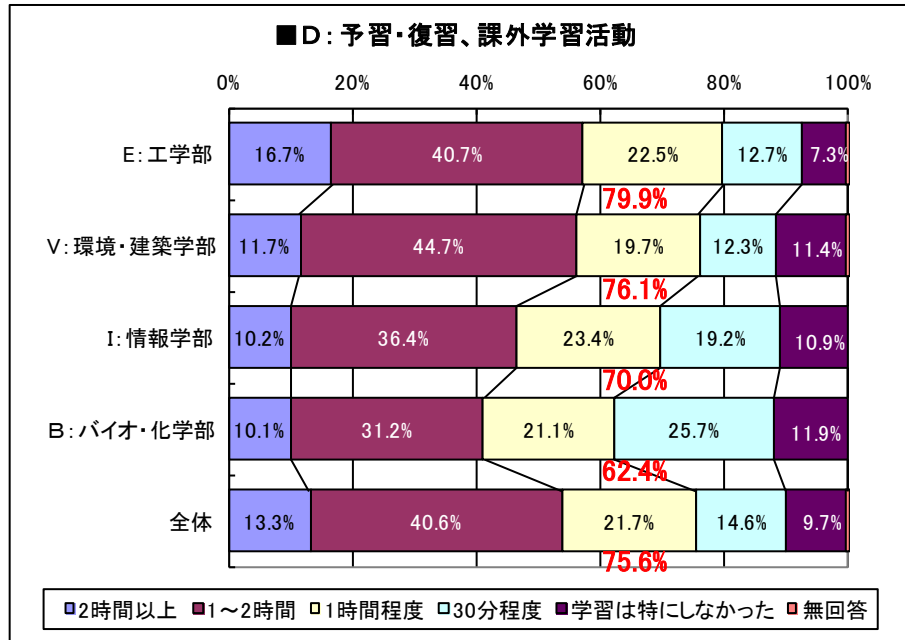
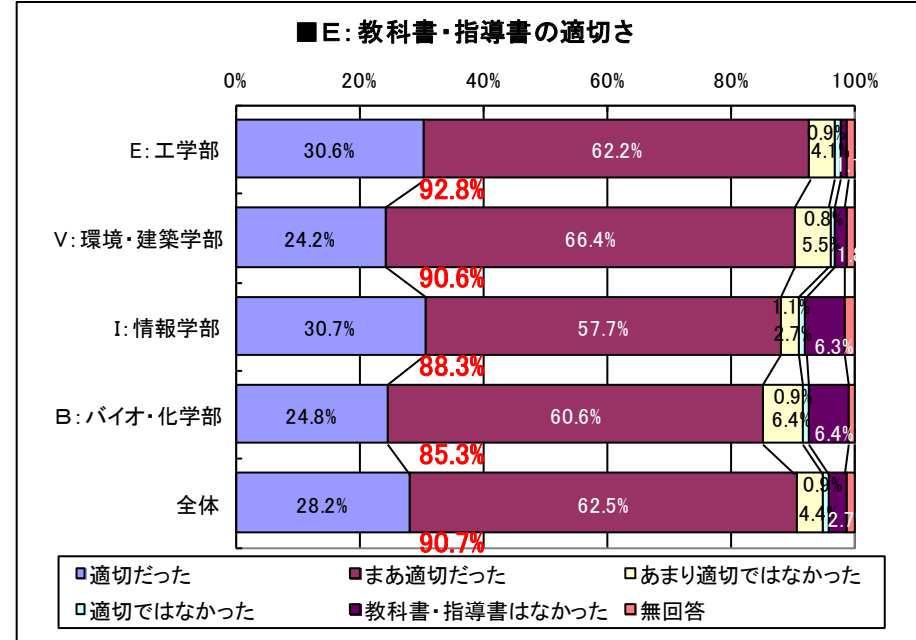
■A:事前の興味



■C:自分の熱意と努力

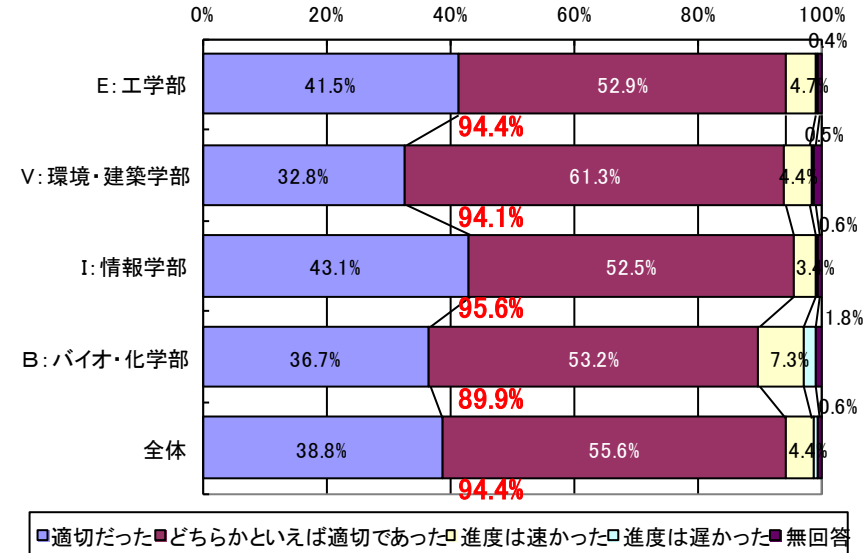


- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「1時間程度」までの合計で比べたところ、「E:工学部」が79.9%、「V:環境・建築学部」が76.1%となっており、この2学部は勉強している時間が長めだった。そして、「I:情報学部」が70.0%、「B:バイオ・化学部」が62.4%と続いており、「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」との差は17.5ポイントと、大きな差がついていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、「E:工学部」が92.8%で最も高く、次いで、「V:環境・建築学部」が90.6%、「I:情報学部」が88.3%、「B:バイオ・化学部」が85.3%と続いていた。ただし、「適切だった」だけを見ると「I:情報学部」が30.7%で最も高くなっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は全体的に肯定的な意見が多かったが、最も評価が高かったのは「I:情報学部」であり、肯定的な意見の合計は96.0%であった。次いで「E:工学部」が94.3%、「V:環境・建築学部」が89.1%、「B:バイオ・化学部」が88.1%と続いていた。

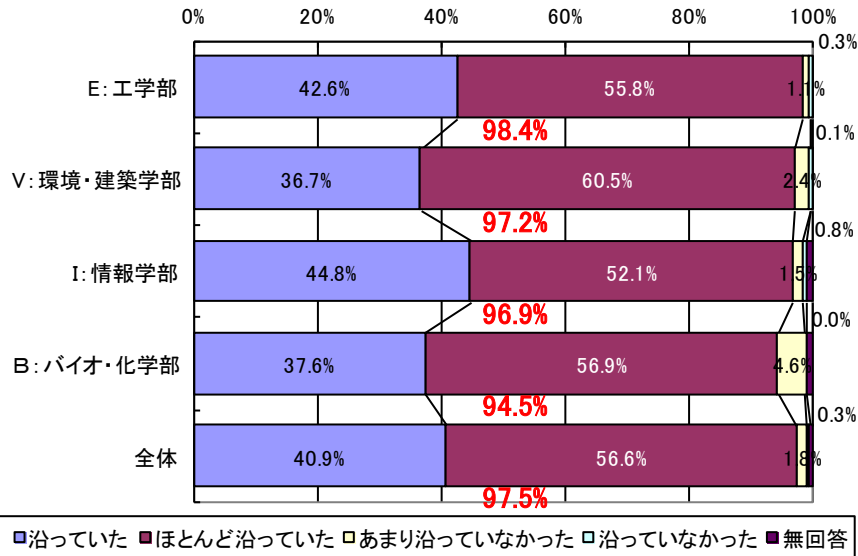


- 「G:学習支援計画書との一致」も4学部共に高い評価となっていた。中でも最も高かったのは「E:工学部」であり、肯定的な意見が98.4%であった。次いで、「V:環境・建築学部」が97.2%、「I:情報学部」が96.9%、「B:バイオ・化学部」が94.5%と続いていた。そして、ここでも「沿っていた」だけを見ると、「I:情報学部」が44.8%と高さが目立っていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全体的に肯定的な意見が多く、「I:情報学部」で95.6%、「E:工学部」で94.4%、「V:環境・建築学部」で94.1%、「B:バイオ・化学部」で89.9%となっていた。そして、ここでも「適切だった」だけを見ると、43.1%の「I:情報学部」の高さが目立っていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を見ると、「E:工学部」が49.9%で最も少なかった。そして、「I:情報学部」が53.4%、「V:環境・建築学部」が55.5%、「B:バイオ・化学部」が58.7%であり、「B:バイオ・化学部」が学習相談を最も利用していないことが分かった。

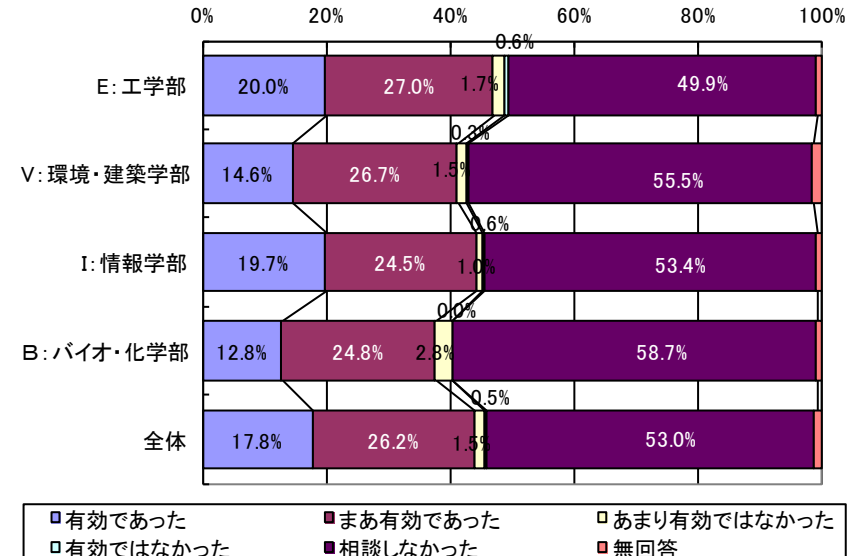
■H: 授業の進度の適切さ



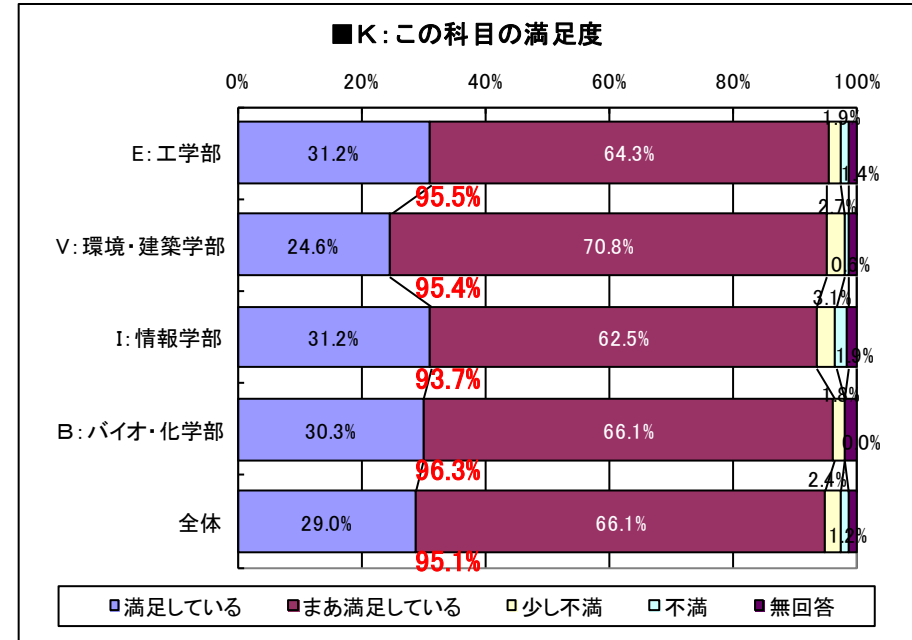
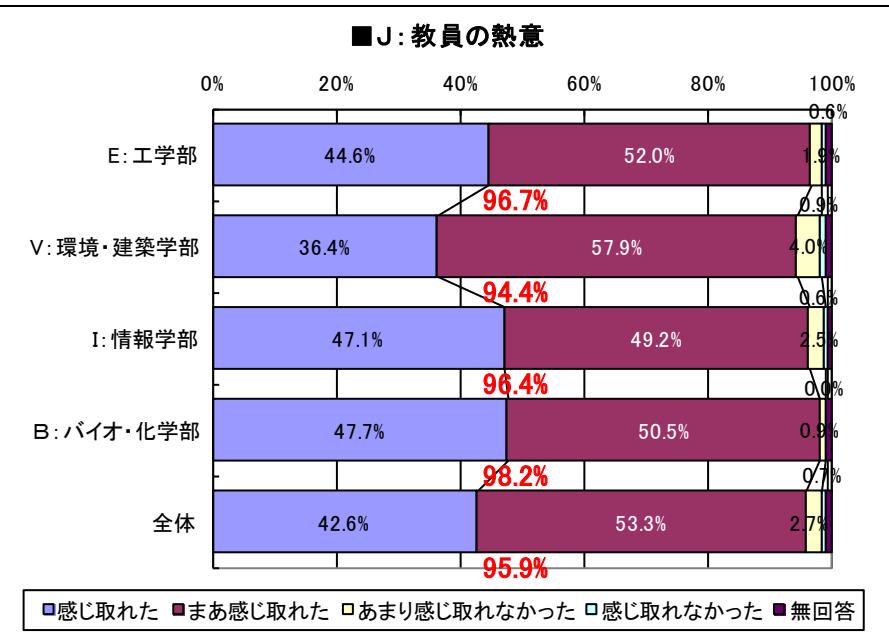
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



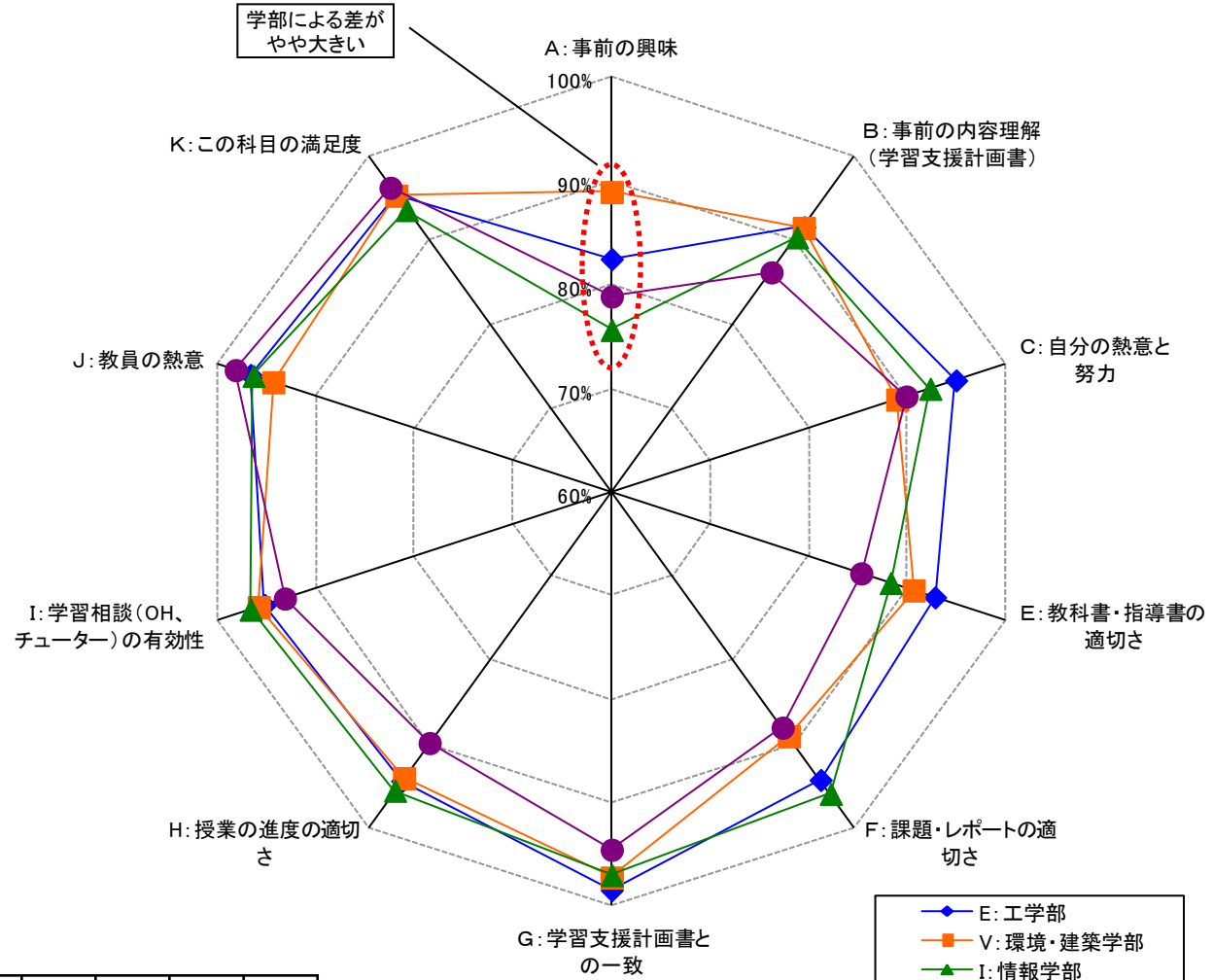
- 「J:教員の熱意」の肯定的な意見の合計は、全学部で9割以上であり、いずれの学部でも教員の熱意をしっかりと感じている様子が見えたと。特に「B:バイオ・化学部」では98.2%と非常に評価が高く、最も評価の低い「V:環境・建築学部」でも94.4%であった。
- 「K:この科目の満足度」も全体的に肯定的な意見が多く、満足度の高さがうかがえた。最も満足度が高かったのは「B:バイオ・化学部」の96.3%であり、次いで、「E:工学部」が95.5%、「V:環境・建築学部」が95.4%、「I:情報学部」が93.7%と続いていた。また、「満足している」という回答だけを見ると、「V:環境・建築学部」では24.6%であったが、他の3学部では3割以上であり、学生の1/3は強く満足しているようであった。



- 「4年次生」の肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートでまとめた。
- 最初に特徴的な指標を見ると、「A:事前の興味」は学部による差が大きく、「K:この科目の満足度」は差が非常に小さいという特徴が見られた。そして、「C:自分の熱意と努力」はやや差があるという傾向であった。
- 学部別の特徴を見ると、「B:バイオ・化学部」でやや低めのものが見られ、「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」「E:教科書・指導書の適切さ」「G:学習支援計画書との一致」「H:授業の進度の適切さ」などの低さが目立っていた。ただし、差は少ないものの「J:教員の熱意」と「K:この科目の満足度」では肯定的な意見が多く、授業に対して様々な意見を持っているものの、満足度は高いと言える。
- 一方、全体的に肯定的な意見が多いという学部は見られず、項目により様々であった。「E:工学部」は「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」が高く、特に低いものは見られなかった。そして、「V:環境・建築学部」は「A:事前の興味」が非常に高い点が特徴的であり、「J:教員の熱意」がやや低めであった。
- 「I:情報学部」は「F:課題・レポートの適切さ」など、いくつかの項目が少し高めだったが、「A:事前の興味」が低いという特徴が見られた。

■ 学部別比較レーダーチャート

(4年次生のみ)

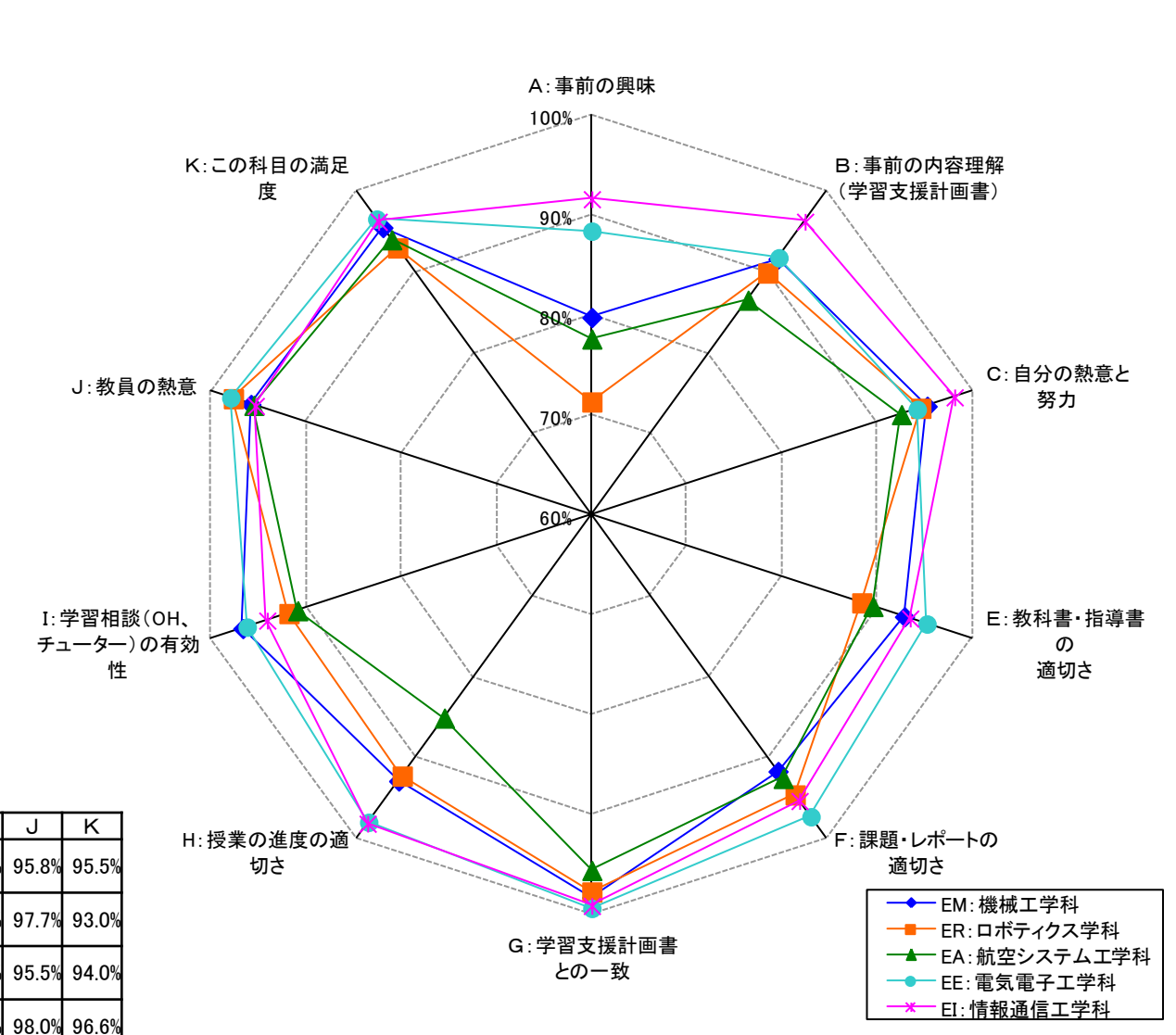


■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	82.5%	91.6%	95.0%	92.8%	94.3%	98.4%	94.4%	95.2%	96.7%	95.5%
V: 環境・建築学部	89.0%	91.5%	89.0%	90.6%	89.1%	97.2%	94.1%	95.8%	94.4%	95.4%
I: 情報学部	75.7%	90.4%	92.3%	88.3%	96.0%	96.9%	95.6%	96.7%	96.4%	93.7%
B: バイオ・化学部	78.9%	86.2%	89.9%	85.3%	88.1%	94.5%	89.9%	93.2%	98.2%	96.3%

- 「4年次生」は古い学科構成なので、単独で集計を行った。
- 工学部の5学科の学科による差は比較的大きかったが、特に「A:事前の興味」の差が大きく、「G:学習支援計画書との一致」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」は差が小さめであった。
- 学科別に見ると、「EI:情報通信工学科」で高めのもが多く、特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」が高かった。そして、「EE:電気電子工学科」も「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」が高かった。
- 一方、全体的に低かったのは「ER:ロボティクス学科」であり、特に「A:事前の興味」が非常に低かった。そして、「EA:航空システム工学科」も全体的に低めで、特に「H:授業の進度の適切さ」の低さが目立っていた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

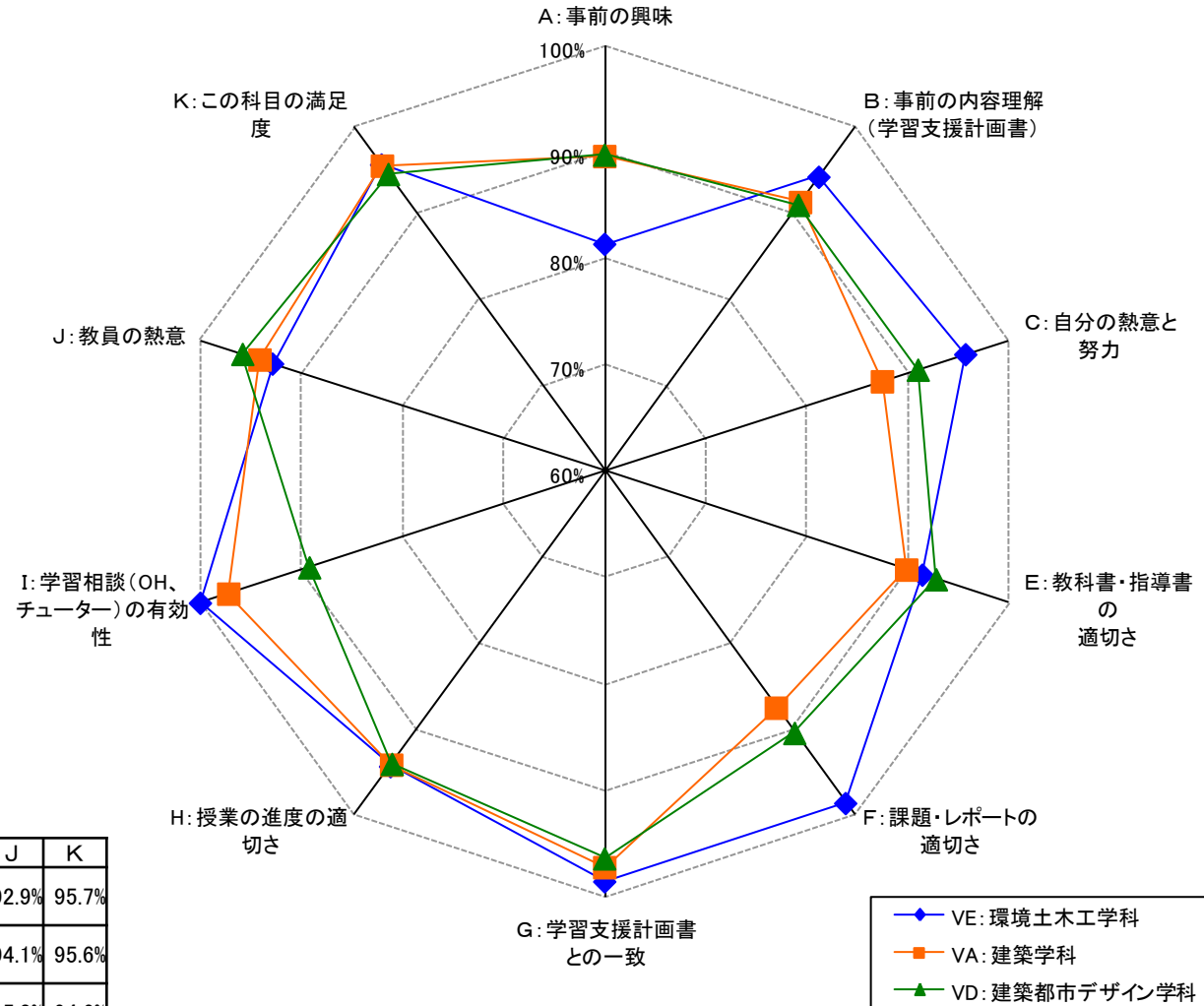


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM:機械工学科	79.8%	91.7%	95.2%	92.9%	91.7%	98.2%	92.9%	96.7%	95.8%	95.5%
ER:ロボティクス学科	71.3%	89.9%	94.6%	88.4%	94.6%	97.7%	92.2%	91.8%	97.7%	93.0%
EA:航空システム工学科	77.6%	86.6%	92.5%	89.6%	92.5%	95.5%	85.1%	90.9%	95.5%	94.0%
EE:電気電子工学科	88.4%	91.8%	94.2%	95.2%	97.3%	99.3%	98.0%	96.2%	98.0%	96.6%
EI:情報通信工学科	91.6%	96.3%	98.1%	93.5%	95.3%	99.1%	98.1%	94.1%	95.3%	96.3%

- 環境・建築学部の3学科の学科による比較では、「VE:環境土木工学科」が特徴的で、高いもの、低いものが目立っていた。「VE:環境土木工学科」は「C:自分の熱意と努力」「F:課題・レポートの適切さ」などの高さが目立ち、「B:事前の内容理解」「I:学習相談の有効性」も他の学科に比べてやや高かった。一方で「A:事前の興味」は低さが目立っていた。
- 「VA:建築学科」はやや低めの項目が多く、特に「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」が低かった。一方、特に高いものは見られなかった。
- 「VD:建築都市デザイン学科」は「I:学習相談の有効性」が非常に低い点が特徴的であったが、その他では目立つ項目は見られなかった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

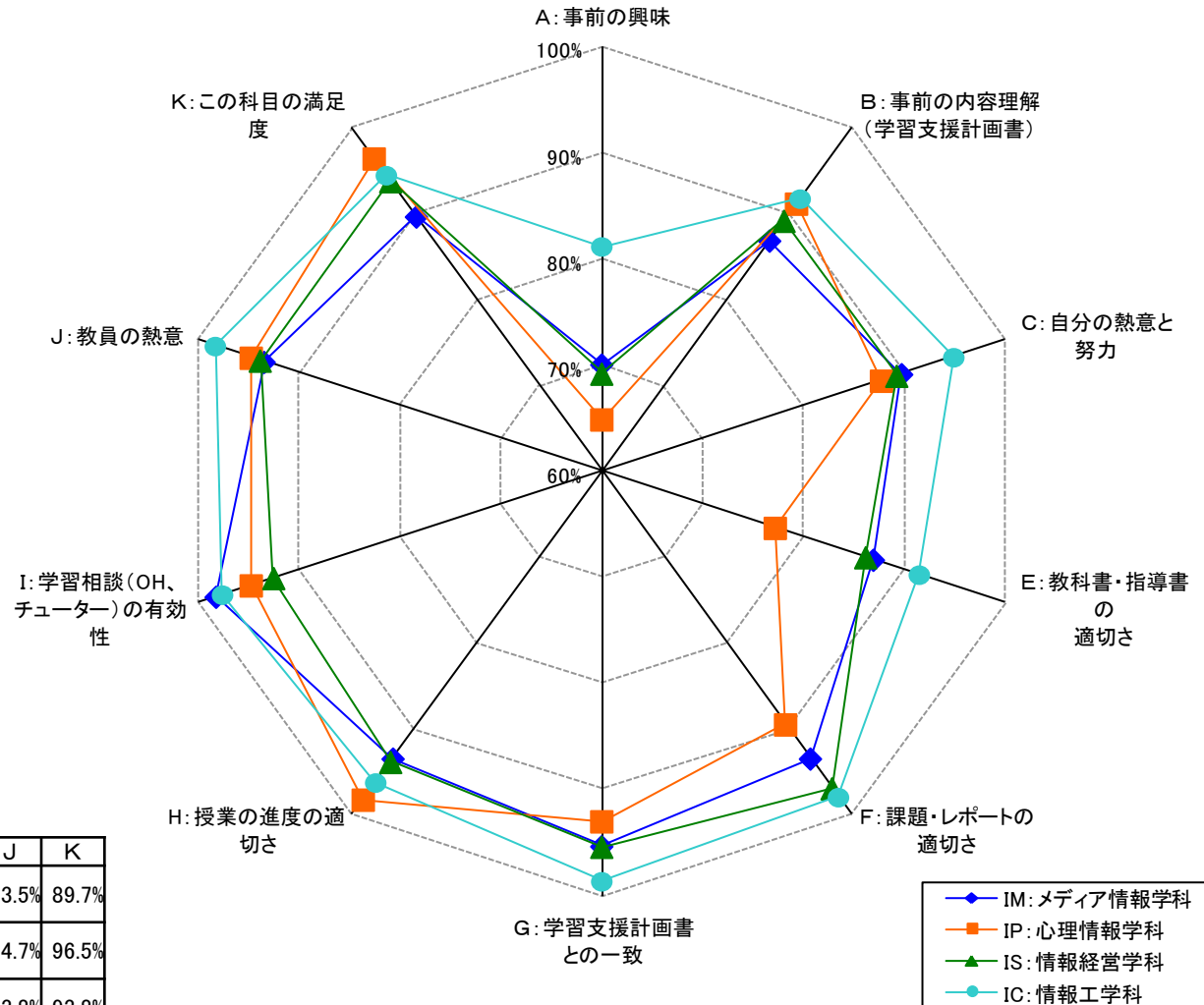


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE:環境土木工学科	81.4%	94.3%	95.7%	91.4%	98.6%	98.6%	94.3%	100.0%	92.9%	95.7%
VA:建築学科	89.7%	91.3%	87.5%	89.9%	87.5%	97.2%	94.1%	97.2%	94.1%	95.6%
VD:建築都市デザイン学科	89.8%	91.0%	91.0%	92.8%	90.4%	96.4%	94.0%	89.2%	95.8%	94.6%

- 情報学部の4学科を比較すると、全体的に「IC:情報工学科」が高めであった。特に「A:事前の興味」の高さが目立っており、「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」なども高く、低いものは見られなかった。
- 上記以外の3学科を見ると、いずれの学科でも「A:事前の興味」が非常に低く、他の学部を含めても低さが目立っていた。
- 「IP:心理情報学科」は「A:事前の興味」が他学部を含めた全学科の中でも最も低く、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」の低さも目立っていたが、「K:この科目の満足度」はわずかな差ではあるが最も高かった。
- 「IM:メディア情報学科」と「IS:情報経営学科」は全体的に中庸な結果で、特に目立つものは見られなかった。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート

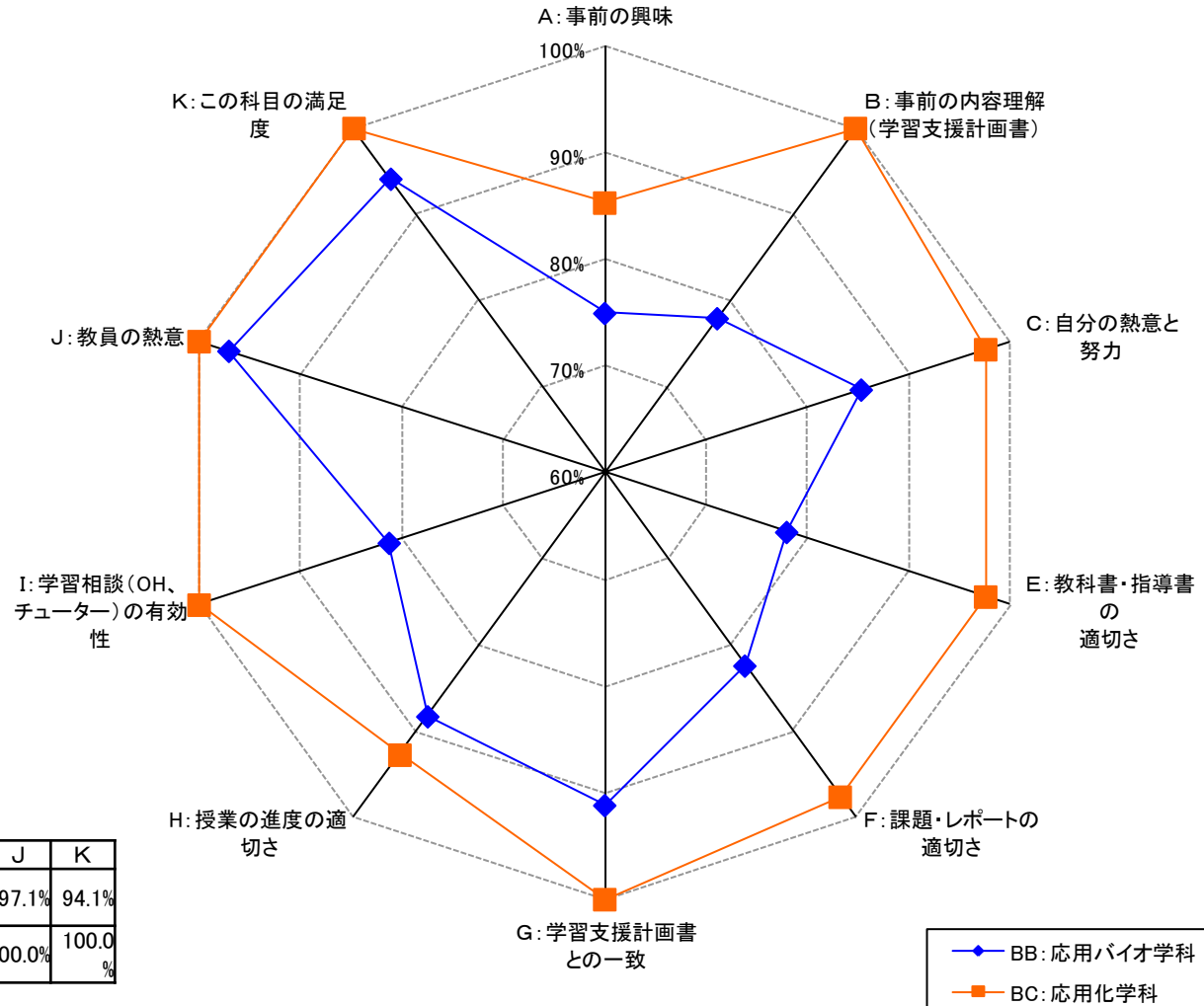


■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM: メディア情報学科	70.1%	86.9%	89.7%	86.9%	93.5%	95.3%	93.5%	98.2%	93.5%	89.7%
IP: 心理情報学科	64.9%	91.2%	87.7%	77.2%	89.5%	93.0%	98.2%	94.7%	94.7%	96.5%
IS: 情報経営学科	69.2%	89.2%	89.2%	86.2%	96.9%	95.4%	93.8%	92.5%	93.8%	93.8%
IC: 情報工学科	81.2%	91.8%	94.9%	91.5%	98.0%	98.6%	96.2%	97.6%	98.3%	94.5%

- バイオ・化学部の2学科を比較すると、全体的に「BC:応用化学科」が非常に高く、「BB:応用バイオ学科」の低さと対照的であった。
- 「BC:応用化学科」は対象者が41人と少ない影響もあるが、全体的に肯定的な意見が非常に多く、他の学部を含めた全学科の中でも非常に特徴的であった。特に「B:事前の内容理解」「G:学習支援計画書との一致」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」では全員が肯定的な意見となっていた。
- 一方、「BB:応用バイオ学科」は全体的に低めであり、「BC:応用化学科」とは逆に他の学部を含めた全学部の中でも低さが目立っており、ほとんどの項目が最も低くなっていた。ただし、「J:教員の熱意」と「K:この科目の満足度」は低くはなく、授業の各項目に対する不満は大きいものの、最終的な満足度は低くないという状況であった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



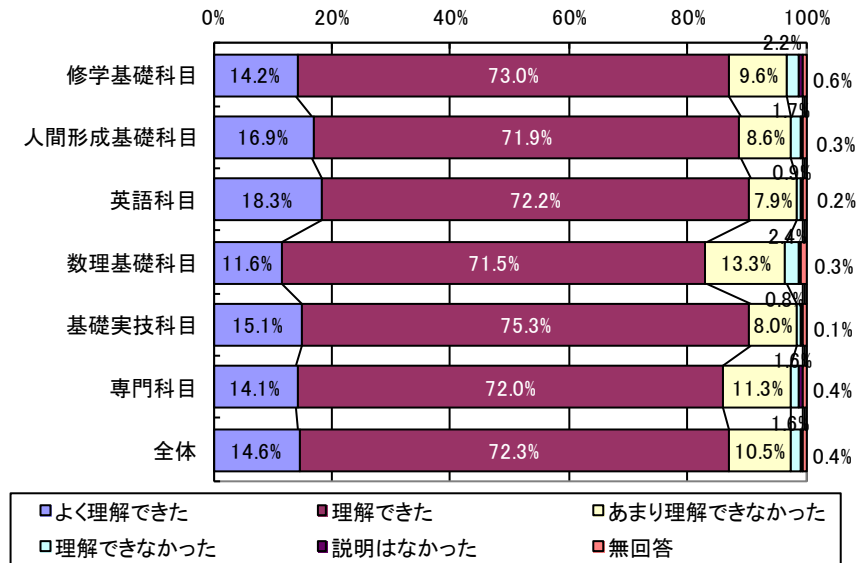
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	75.0%	77.9%	85.3%	77.9%	82.4%	91.2%	88.2%	81.3%	97.1%	94.1%
BC: 応用化学科	85.4%	100.0%	97.6%	97.6%	97.6%	100.0%	92.7%	100.0%	100.0%	100.0%

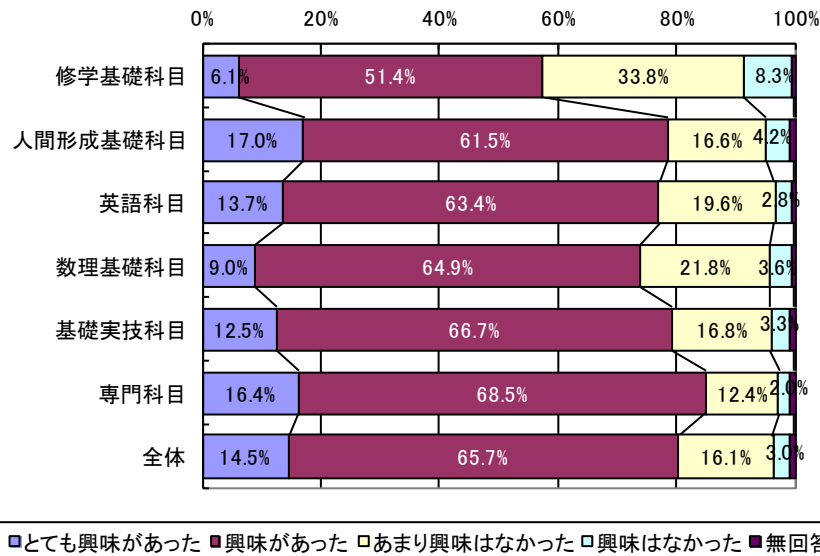
<5>科目区分別の分析

- 科目区分は「1年次生」から「3年次生」が同じになっているため、この3学年を合わせて6つの科目区分別に比較した。
- 「A:事前の興味」では「修学基礎科目」で肯定的な意見が57.5%と非常に低い点が特徴的であった。一方、最も高かったのは「専門科目」の84.9%で、2つの差は27.4ポイントと大きかった。
- 「B:事前の内容理解」では科目区分別の差はそれほど大きくなかったが、「数理基礎科目」がやや低かった。一方、「英語科目」「基礎実技科目」はやや高めで、事前の内容理解が進んでいる様子が見えられた。
- 「C:自分の熱意と努力」についても科目区分による差が小さめであった。「修学基礎科目」「数理基礎科目」はやや低めで、「英語科目」が少し高かった。また、「英語科目」では「努力した」という回答が32.3%で、唯一、3割を超えており、英語に熱意を持って取り組んでいる学生がいることが分かる。

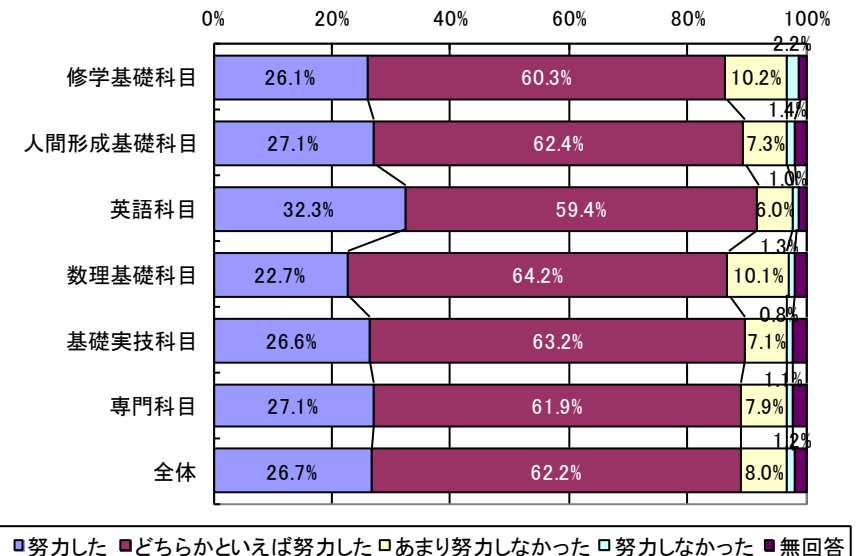
■B: 事前の内容理解(学習支援計画書)



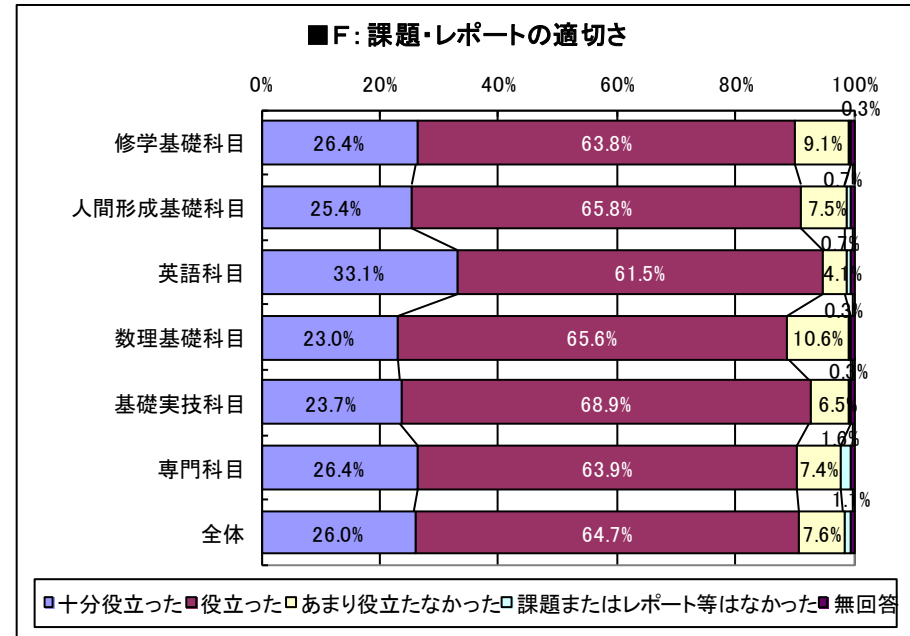
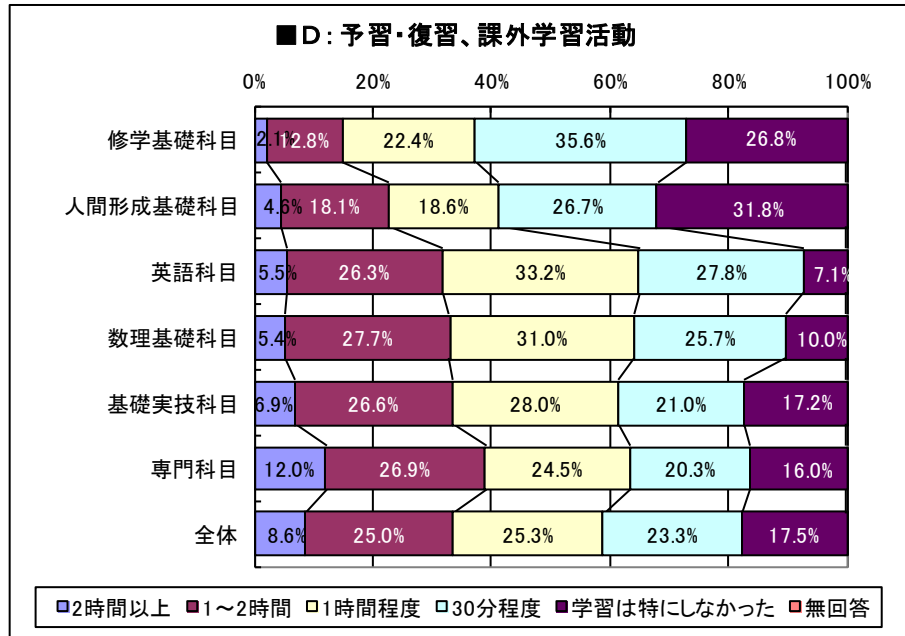
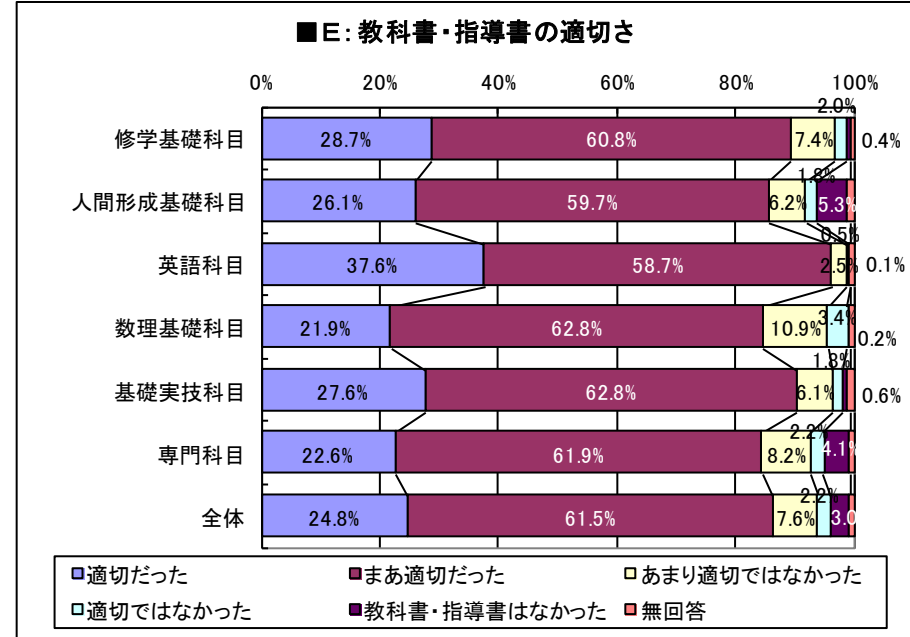
■A: 事前の興味



■C: 自分の熱意と努力

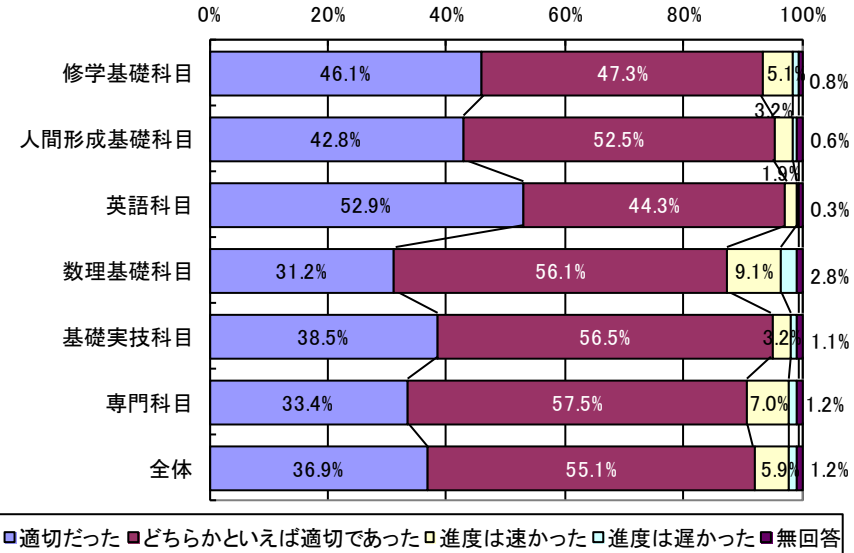


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「学習は特にしなかった」の割合を比較すると、最も多かったのは「人間形成基礎科目」の31.8%であり、「修学基礎科目」も26.8%と多めであった。一方、最も少なかったのは「英語科目」の7.1%で、「数理基礎科目」が10.0%で続いていた。「1～2時間」までの勉強時間で比較すると「専門科目」で最も勉強に時間をかけているようであり、「基礎実技科目」「数理基礎科目」「英語科目」が似た傾向となっていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、「英語科目」が96.3%と非常に高い評価であり、「基礎実技科目」(90.4%)、「修学基礎科目」(89.5%)と続いていた。一方、最も評価が低かったのは「専門科目」の84.5%で、「数理基礎科目」が84.7%、「人間形成基礎科目」が85.8%と続いていた。ただし、「専門科目」と「人間形成基礎科目」では「教科書・指導書はなかった」という回答が多いという特徴も見られた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は科目区分による差が少なかったが、「十分役立った」を見ると「英語科目」が33.1%と目立って評価が高かった。一方、「数理基礎科目」の評価は低めだった。

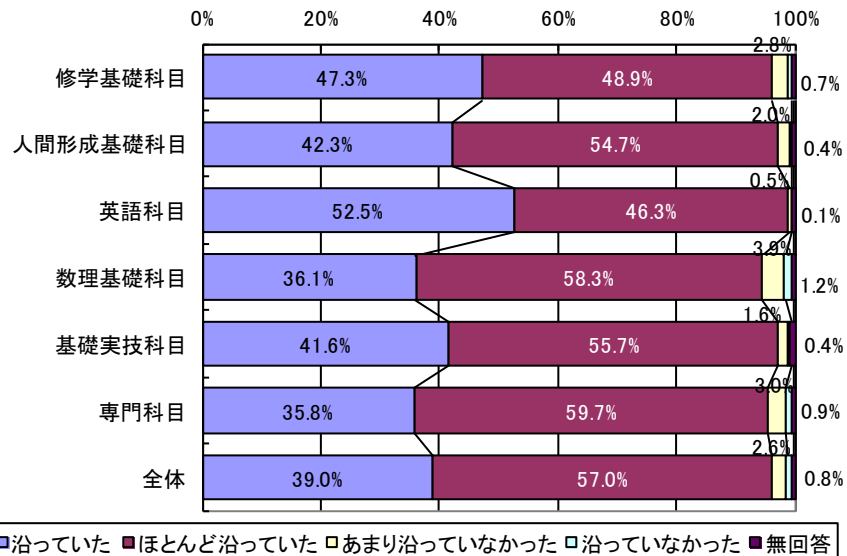


- 「G:学習支援計画書との一致」を肯定的な意見の合計で比較すると、科目区分ごとの差はそれほど大きくなく、いずれの科目区分でも9割以上が肯定的な意見であった。「沿っていた」だけで比較すると「英語科目」が52.5%と評価が高く、「修学基礎科目」が47.3%、「人間形成基礎科目」が42.3%と続いていた。一方、「専門科目」(35.8%)、「数理基礎科目」(36.1%)はやや低めであった。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見の合計を見ると、「数理基礎科目」が87.3%とやや低く、「専門科目」が90.9%で続いていた。一方、最も高かったのは「英語科目」(97.2%)で、「適切だった」だけを見ると52.9%で他と大きな差が見られた。
- 「I:学習相談の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「人間形成基礎科目」が66.4%、「専門科目」が63.4%で、これらの科目での利用率が低かった。一方、「基礎実技科目」は49.6%で、唯一、5割を下回っていた。そして、「有効であった」の割合を比較すると、「基礎実技科目」「英語科目」「修学基礎科目」がやや高めであった。

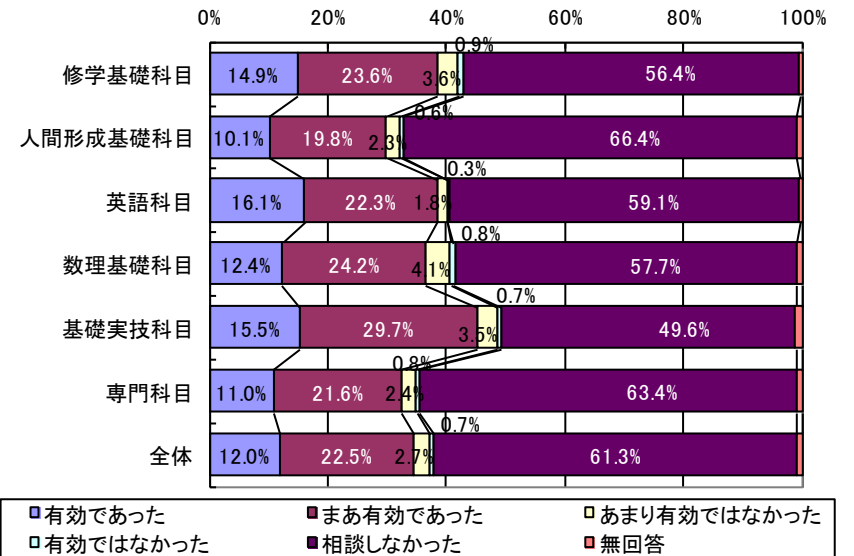
■H: 授業の進度の適切さ



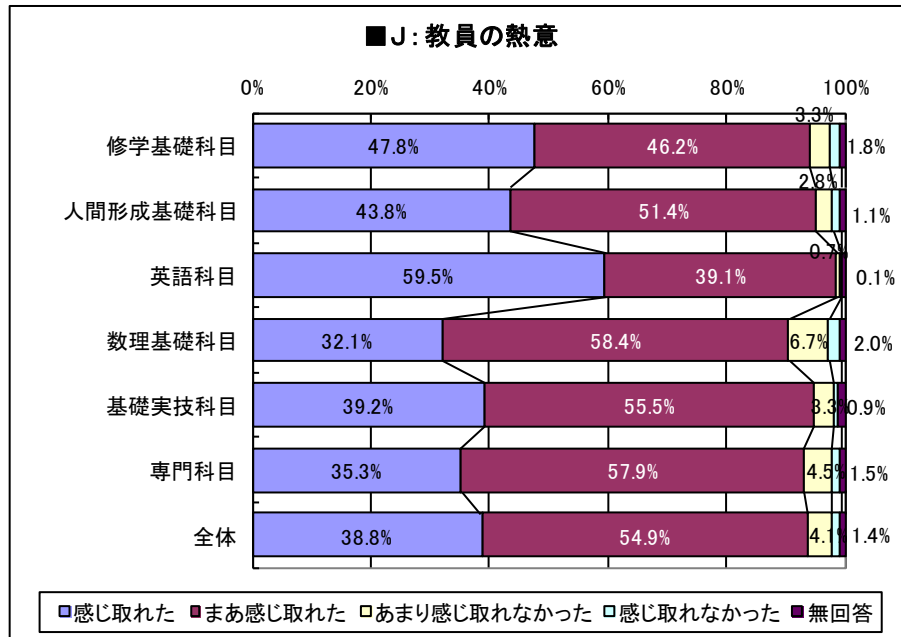
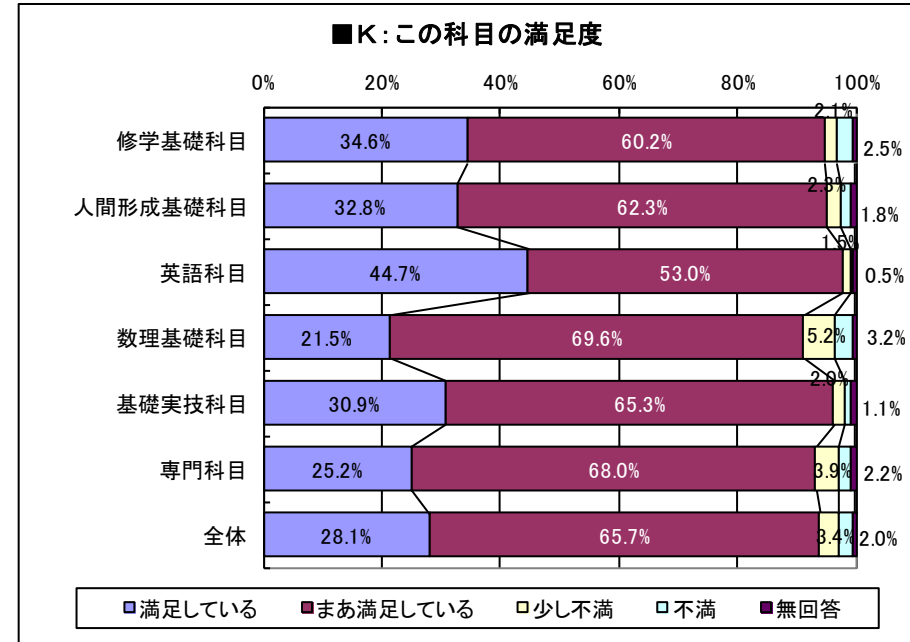
■G: 学習支援計画書との一致



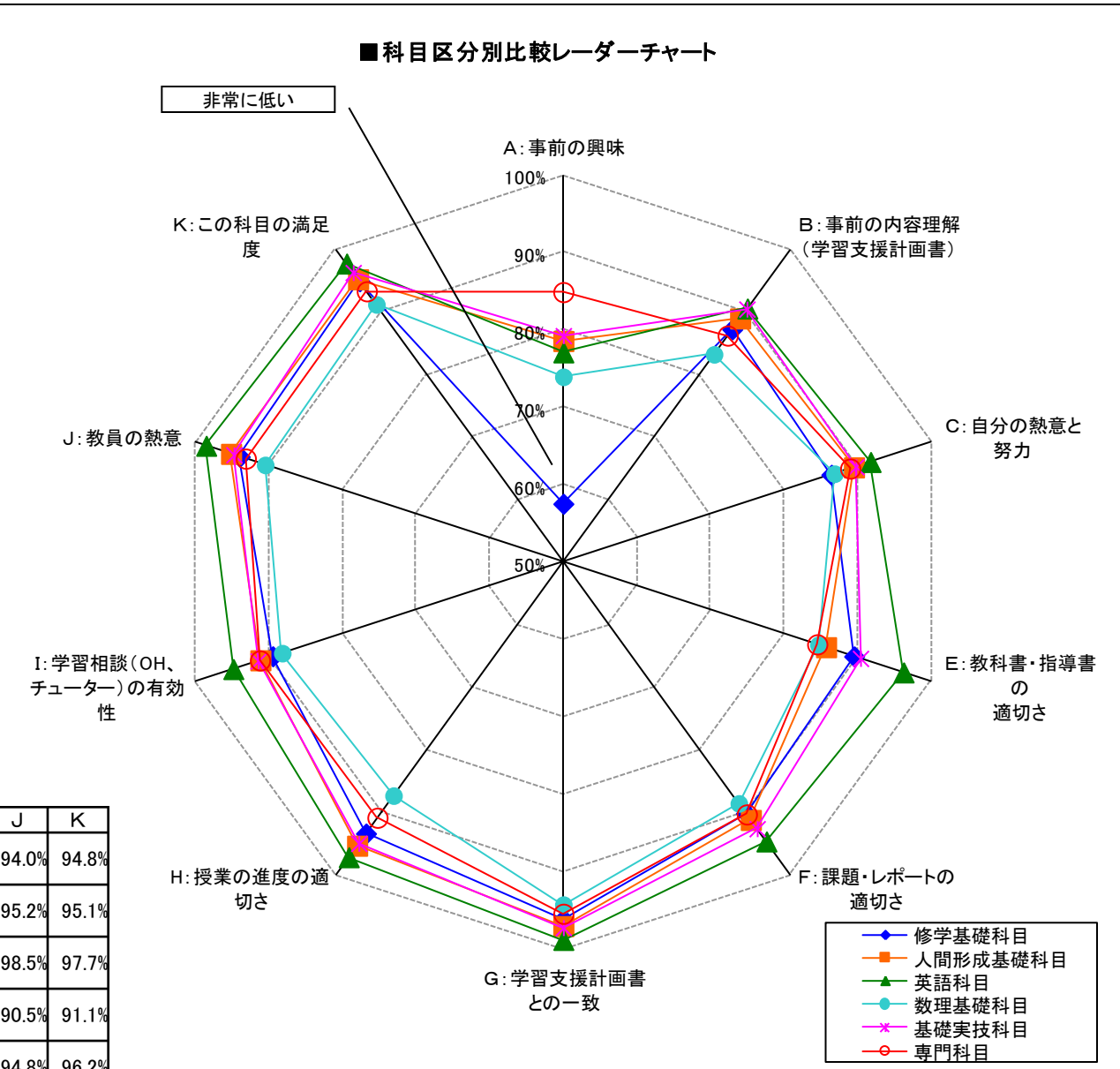
■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



- 「J:教員の熱意」では、全ての科目区分で9割以上が肯定的な意見で、最も低い「数理基礎科目」でも90.5%と評価は高く、いずれの科目区分でもしっかりと教員の熱意を感じていることが分かった。特に「英語科目」では98.6%が肯定的な意見であり、「感じ取れた」だけでも59.5%と非常に高く、他との差が大きかった。
- 「K:この科目の満足度」も全ての科目で肯定的な回答が9割を超えており、満足度は非常に高かった。「満足している」という回答だけを見ると「英語科目」が44.7%と非常に高く、「修学基礎科目」(34.6%)、「人間形成基礎科目」(32.8%)が続いていた。一方、最も低かったのは「数理基礎科目」の21.5%であった。



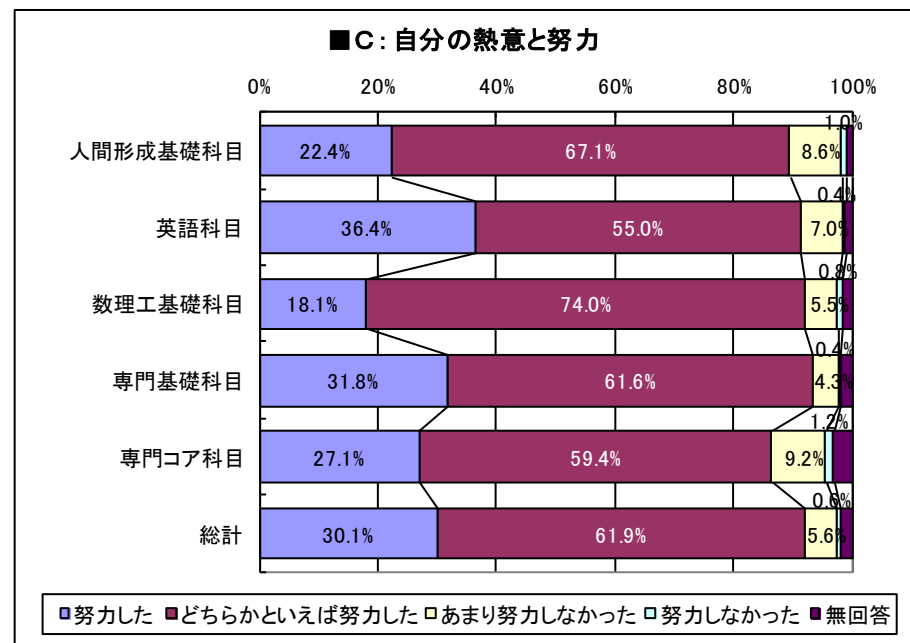
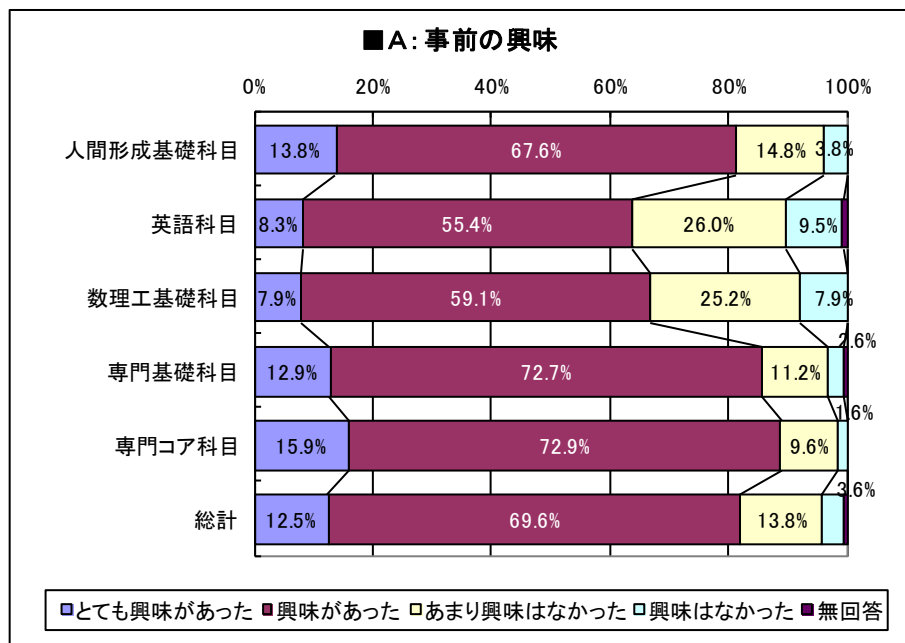
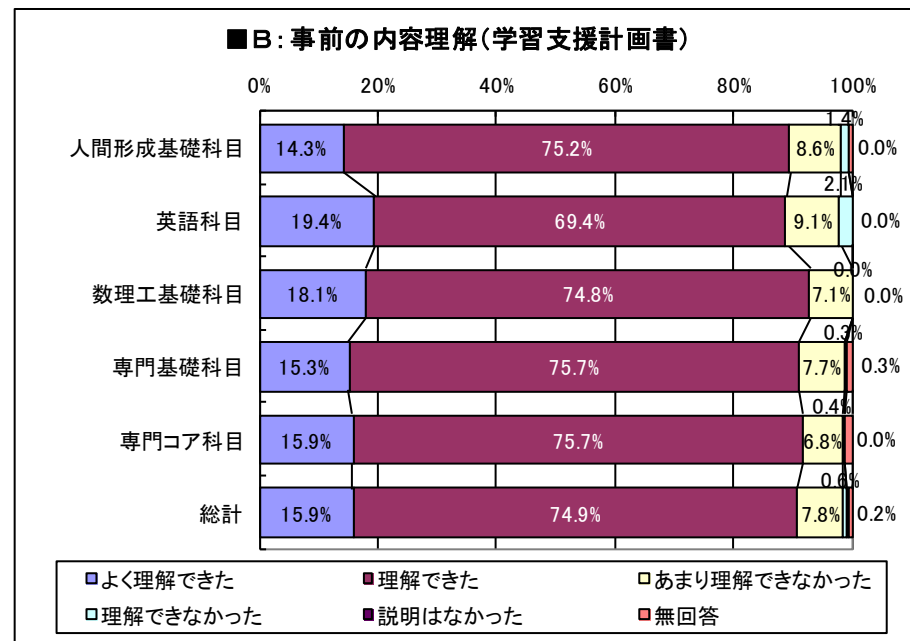
- 新学部構成で科目区分が同じである「1年次生」から「3年次生」の肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートで比較した。
- 全体を見て目についたのは、「A:事前の興味」であり、「修学基礎科目」が非常に低く、他と比べて20ポイント程度の差がついていた。そして、この項目では「専門科目」がやや高く、興味を持って取り組んでいる様子が見えかけた。
- 科目区分別に見ると、「英語科目」が全体的に高く、特に「E:教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。また、「F:課題・レポートの適切さ」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」なども高く、わずかな差ではあるが「K:この科目の満足度」も最も高かった。
- 一方、全体的に低かったのは「数理基礎科目」で、ほとんどの項目で最も低くなっており、わずかな差ではあるものの「K:この科目の満足度」でも最も低くなっていた。



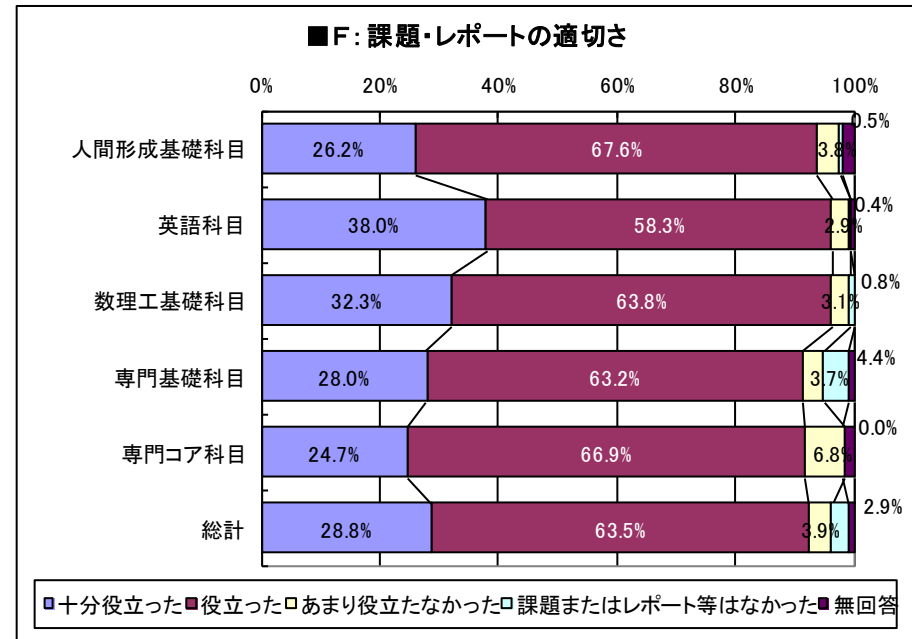
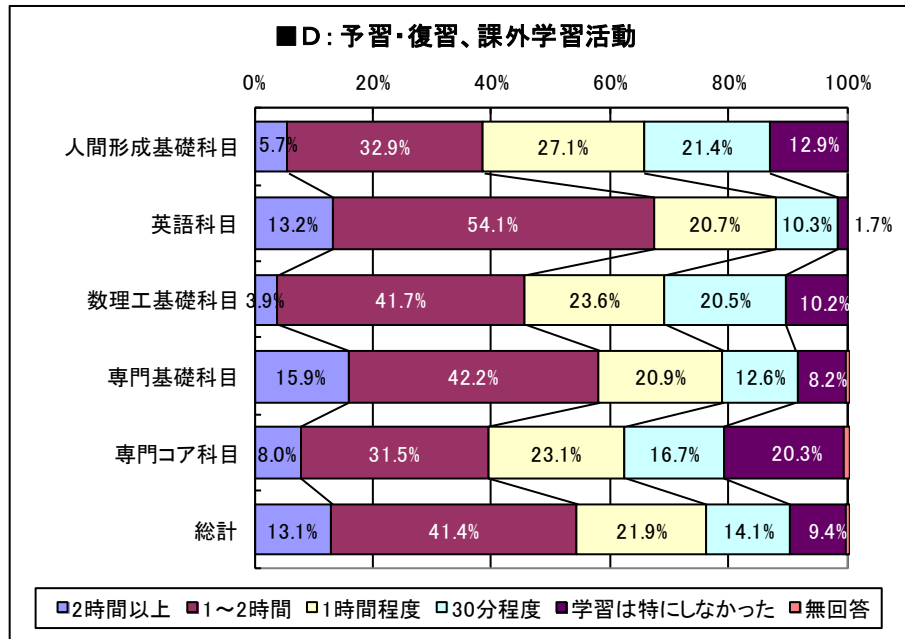
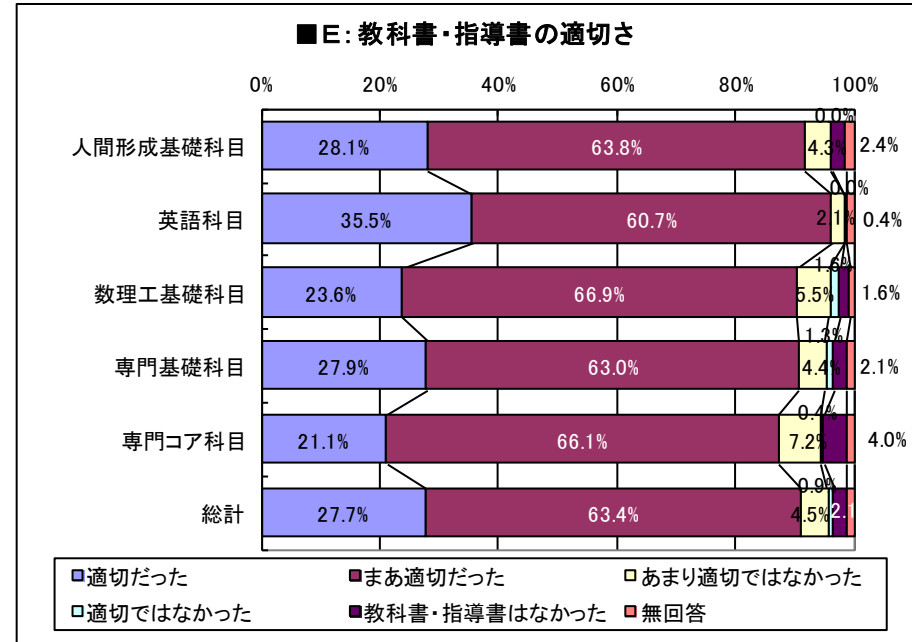
■科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	57.5%	87.2%	86.4%	89.5%	90.2%	96.2%	93.4%	89.5%	94.0%	94.8%
人間形成基礎科目	78.5%	88.9%	89.5%	85.7%	91.2%	97.1%	95.4%	91.2%	95.2%	95.1%
英語科目	77.1%	90.5%	91.8%	96.3%	94.7%	98.9%	97.2%	94.9%	98.5%	97.7%
数理基礎科目	73.9%	83.2%	86.9%	84.7%	88.6%	94.3%	87.4%	88.2%	90.5%	91.1%
基礎実技科目	79.2%	90.4%	89.8%	90.4%	92.6%	97.3%	95.0%	91.5%	94.8%	96.2%
専門科目	84.9%	86.1%	89.0%	84.5%	90.4%	95.5%	90.9%	91.2%	93.2%	93.2%

- 「4年次生」だけは旧科目区分であるため、独自に集計を行った。なお、「修学基礎科目」「基礎実技科目」は該当件数が少ないので集計から除外している。
- 「A:事前の興味」に関して、肯定的な意見の割合の合計で比較すると、「専門コア科目」が最も高く、「専門基礎科目」「人間形成基礎科目」までの3つの科目区分で肯定的な意見の割合が8割を超えていた。一方で「英語科目」と「数理工基礎科目」では肯定的な意見が少なく、事前に興味を持たれていない様子がうかがえる。
- 「B:事前の内容理解」は科目区分による差が小さく、肯定的な意見の合計が最も多かった「数理工基礎科目」の92.9%と、最も少ない「英語科目」の88.8%との差は4.1ポイントであった。
- 「C:自分の熱意と努力」も、肯定的な意見の合計では科目区分ごとの差が小さかった。合計した割合では「専門コア科目」がやや低い程度であったが、「努力した」だけで比較をすると、最も高い「英語科目」の36.4%に対して、最も低い「数理工基礎科目」は18.1%であり、18.3ポイントの差がついていた。

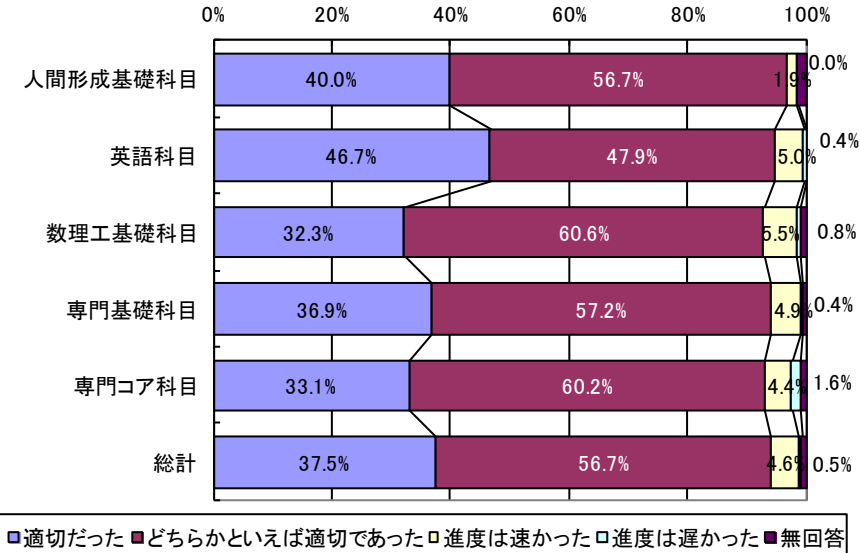


- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関しては「学習は特にしなかった」の割合で比較したところ、「英語科目」が1.7%と非常に低い点が特徴的で、最も高いのは「専門コア科目」の20.3%であった。そして、「1時間程度」までの合計で比較すると、「英語科目」が88.0%で最も高く、「専門基礎科目」も79.0%と高めであった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は科目区分による差は少なく、肯定的な意見の合計を見ると、最も高い「英語科目」の96.2%と、最も低い「専門コア科目」の87.2%との差は9.0ポイントであった。また、「教科書・指導書はなかった」に関しては「専門コア科目」の4.0%が最も高く、科目区分による差は少なかった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」に関しても、肯定的な意見の合計は科目区分によって大きな差が見られず、いずれの科目区分でも9割以上が課題・レポートは適切だったという意見であった。ただし、「十分役立った」だけを見ると、最も高い「英語科目」は38.0%、最も低い「専門コア科目」は24.7%であり、13.3ポイントの差があった。

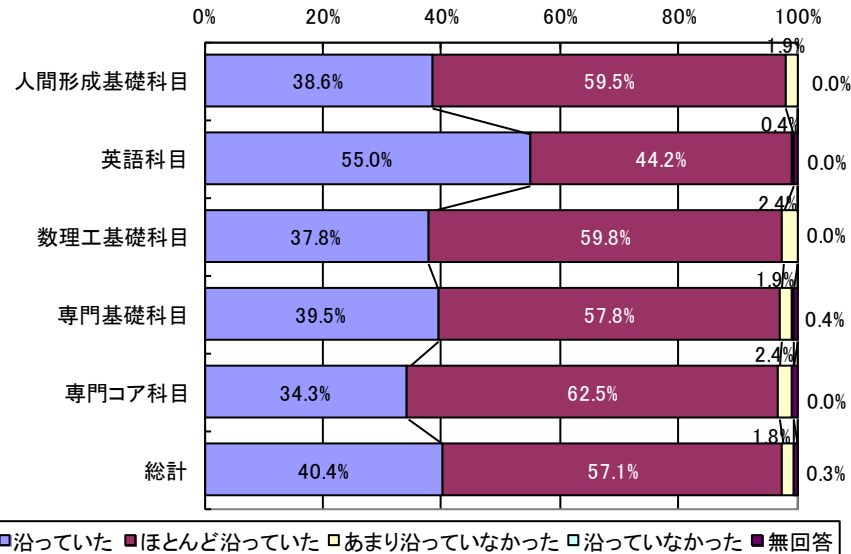


- 「G:学習支援計画書との一致」は肯定的な意見の合計ではほとんど差が見られず、全ての科目区分で100%に近く、授業内容が学習支援計画書にしっかりと沿っていたことが分かる。ただし、「沿っていた」だけを見ると、「英語科目」が55.0%で突出しているという特徴が見られた。
- 「H:授業の進度の適切さ」でも肯定的な意見の合計は全ての科目区分で9割を超えていた。合計で最も高かったのは「人間形成基礎科目」の96.7%であった。しかし、「適切だった」だけを見ると、「英語科目」が46.7%と高さが目立っており、授業の進度を高く評価していることが分かる。
- 「I:学習相談の有効性」で「相談しなかった」の割合で比較すると、「英語科目」が42.1%と最も少なかった。そして、最も多かったのは「専門コア科目」の64.9%で、その差は22.8ポイントと大きく、科目区分による差がうかがえた。学習相談の利用率が高かった「英語科目」では「有効であった」が30.2%、「まあ有効であった」が26.0%であり、学習相談が有効に活用されている様子がうかがえた。

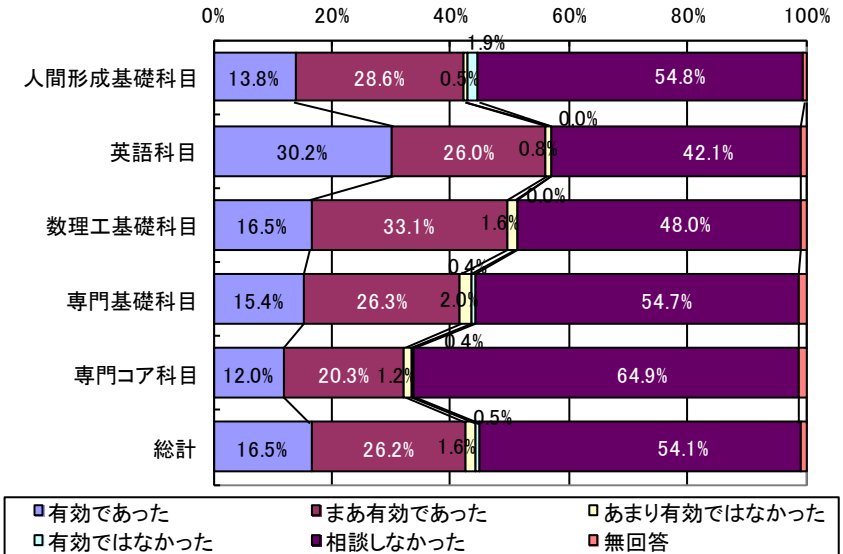
■H: 授業の進度の適切さ



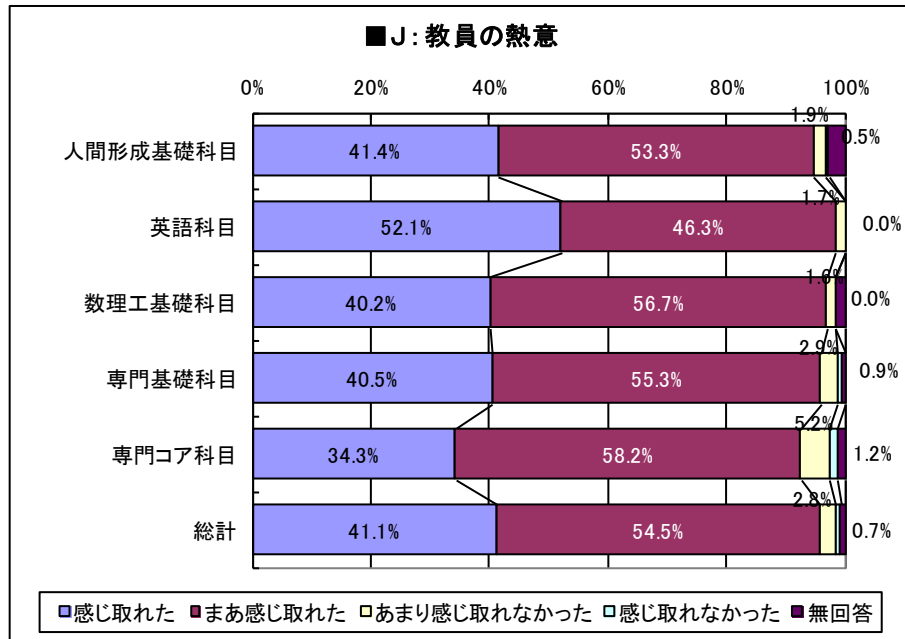
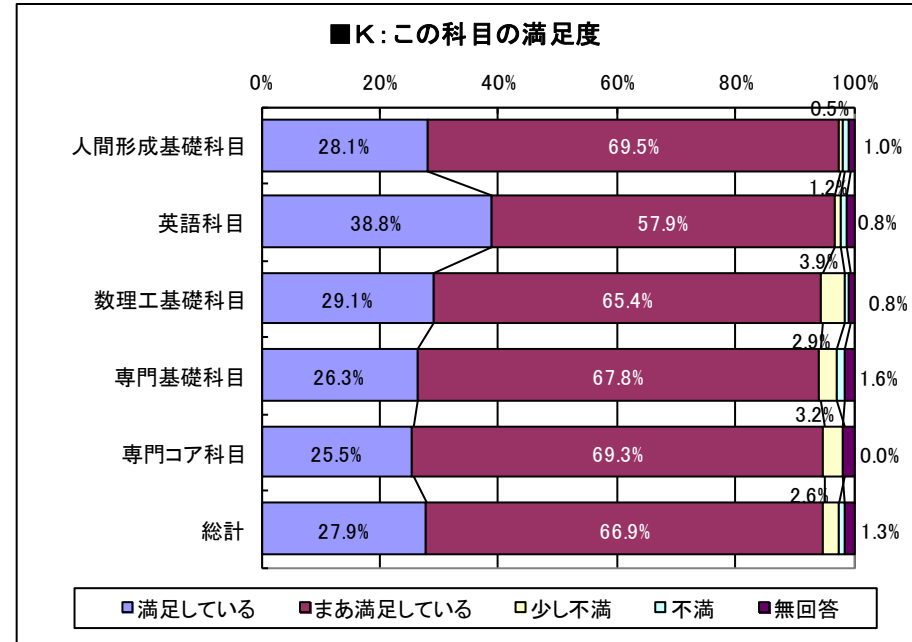
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性

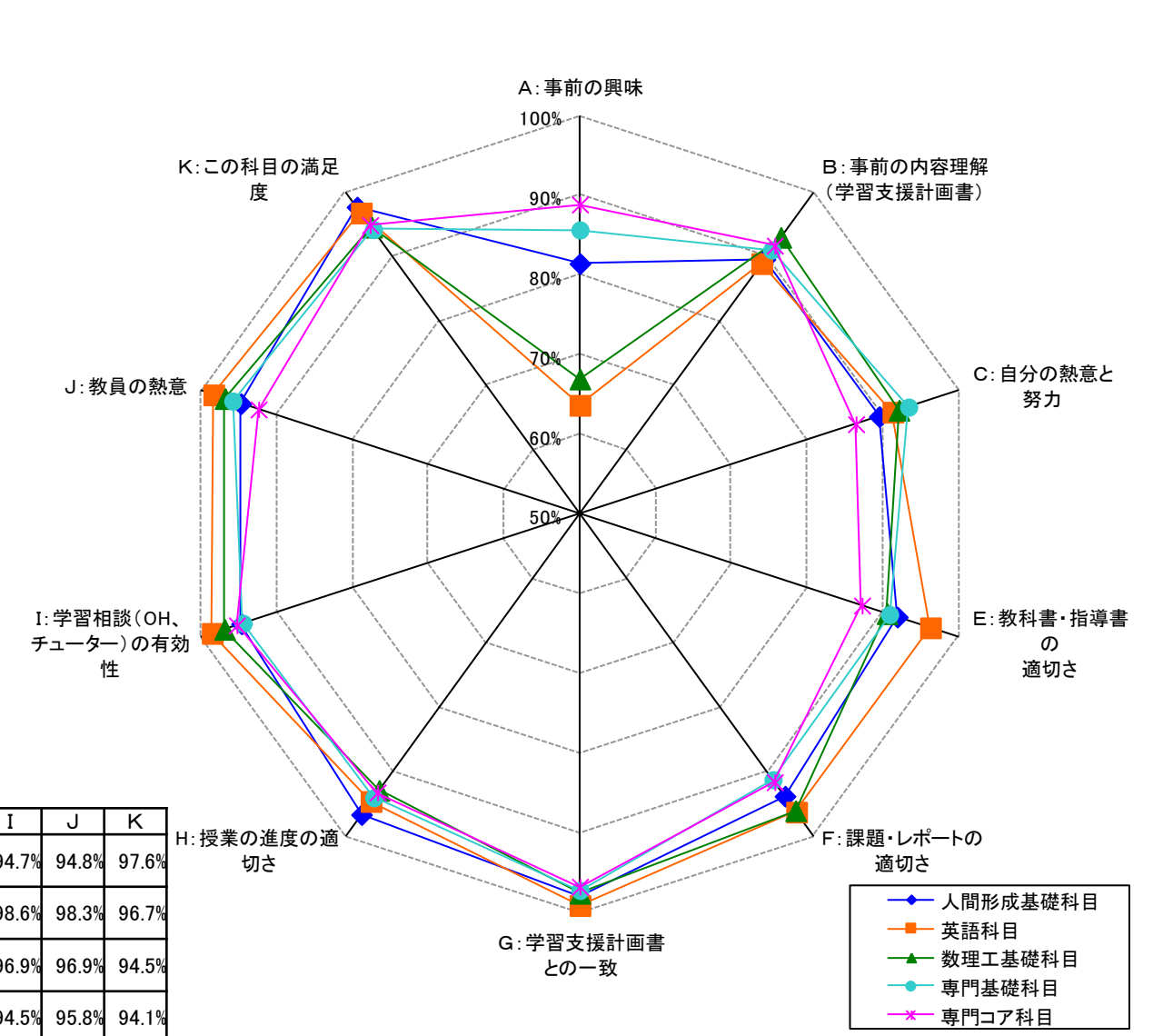


- 「J:教員の熱意」でも肯定的な意見の合計は大きな差が見られず、最も高い「英語科目」(98.4%)と、最も低い「専門コア科目」(92.5%)との差は5.9ポイントであり、いずれの科目区分でも教員の熱意が感じられているようであった。ただし、「感じ取れた」だけを見ると、「英語科目」で52.1%と高さが目立っていた。
- 「K:この科目の満足度」で「満足している」と「まあ満足している」の合計を見ると、「人間形成基礎科目」で97.6%、「英語科目」で96.7%と非常に満足度が高かったが、他の科目区分でも9割以上を占めており、満足度が低い科目区分は見られなかった。また、「満足している」だけを見ると「英語科目」の38.8%が突出しており、強く満足している学生が多いことも分かった。



- 「4年次生」の肯定的な意見の割合を、6つの科目区別にレーダーチャートでまとめた。
- 全体の傾向を見ると、科目区分による差はそれほど大きくなかったが、「A:事前の興味」だけは差が大きく、「英語科目」と「数理工基礎科目」に対する興味の低さが目立っていた。
- 科目区分の特徴を見ると、「英語科目」は上記で見た「A:事前の興味」以外は、全体的に高めであり、特に「E:教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。
- 一方、全体的に低かったのは「専門コア科目」であり、「A:事前の興味」は最も高かったものの、「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」「J:教員の熱意」は最も低かった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



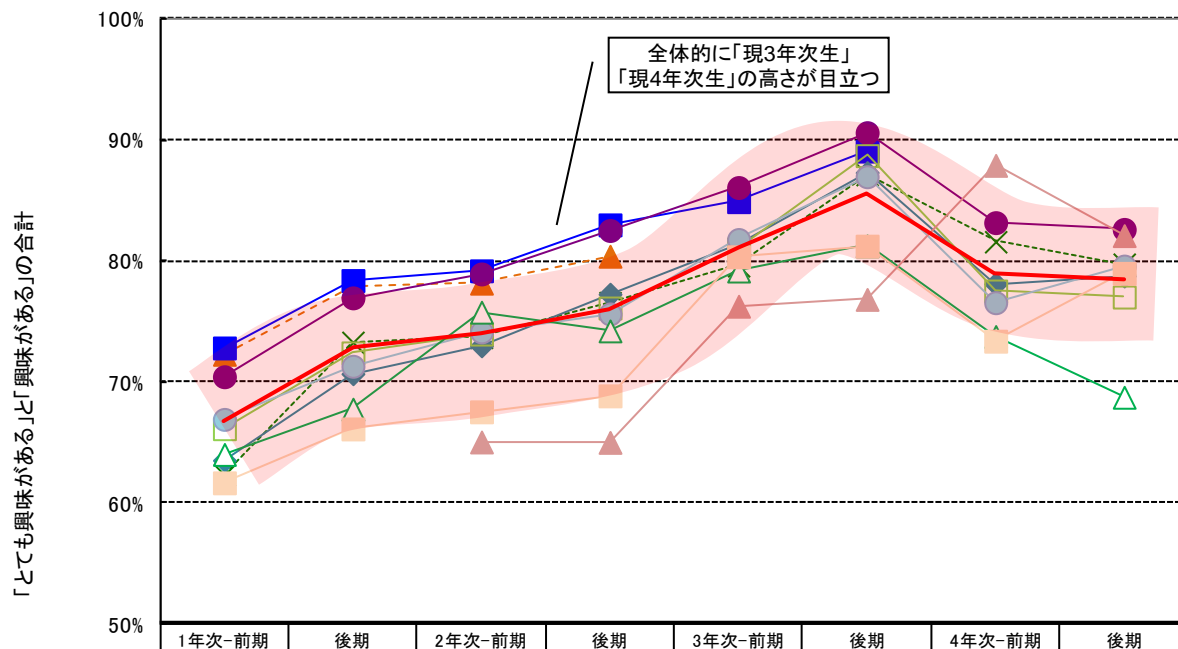
■ 科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
人間形成基礎科目	81.4%	89.5%	89.5%	91.9%	93.8%	98.1%	96.7%	94.7%	94.8%	97.6%
英語科目	63.6%	88.8%	91.3%	96.3%	96.3%	99.2%	94.6%	98.6%	98.3%	96.7%
数理工基礎科目	66.9%	92.9%	92.1%	90.6%	96.1%	97.6%	92.9%	96.9%	96.9%	94.5%
専門基礎科目	85.7%	91.0%	93.4%	90.9%	91.2%	97.3%	94.0%	94.5%	95.8%	94.1%
専門コア科目	88.8%	91.6%	86.5%	87.3%	91.6%	96.8%	93.2%	95.3%	92.4%	94.8%

<6> 同一学生群の分析

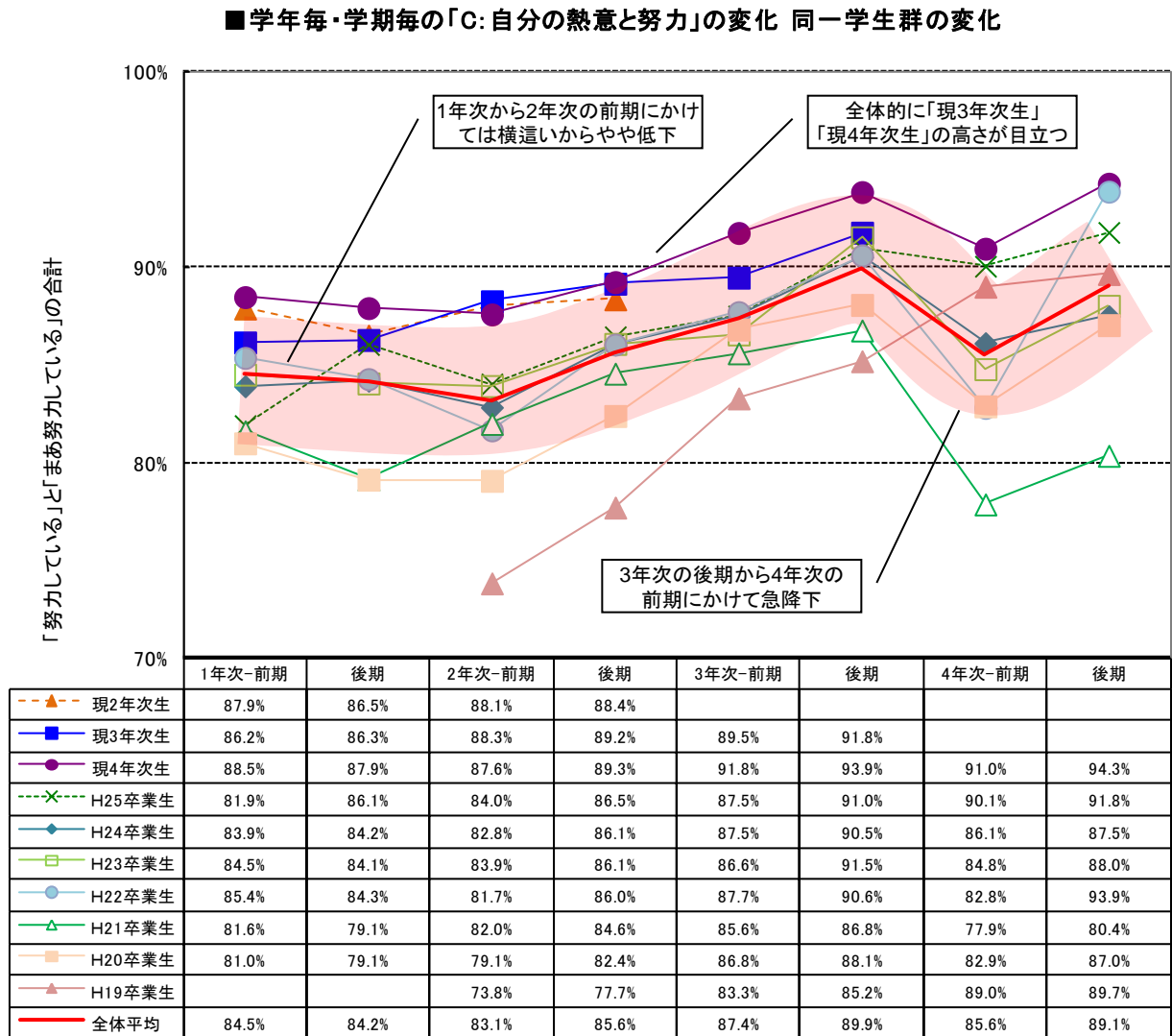
- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのように意識変化をしているのかを確認した。
- 学期制度は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制に変わっているため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」に関して、「全体平均」の赤太線を見ると、「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて徐々に肯定的な意見が増加し、授業に対する事前の興味が増す傾向が続いているが、「4年次-前期」にかけて低下し、横這いに転じている傾向が見られた。
- 学生群として目立っていたのは「現3年次生」と「現4年次生」であった。「現3年次生」は途中までであるが、いずれも肯定的な意見が非常に多い状態で推移していた。また、「現2年次生」も「2年次-後期」までのデータであるが肯定的な意見が多く、現段階での在學生は授業に興味を持っている割合が高いことが分かった。
- 上記と比べると、「H19卒業生」「H20卒業生」「H21卒業生」の学生群は4年間を通して授業に対する興味の低さが目立っていた。そして、「H22卒業生」「H23卒業生」「H24卒業生」「H25卒業生」などは、「全体平均」に近い傾向と言える。

■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



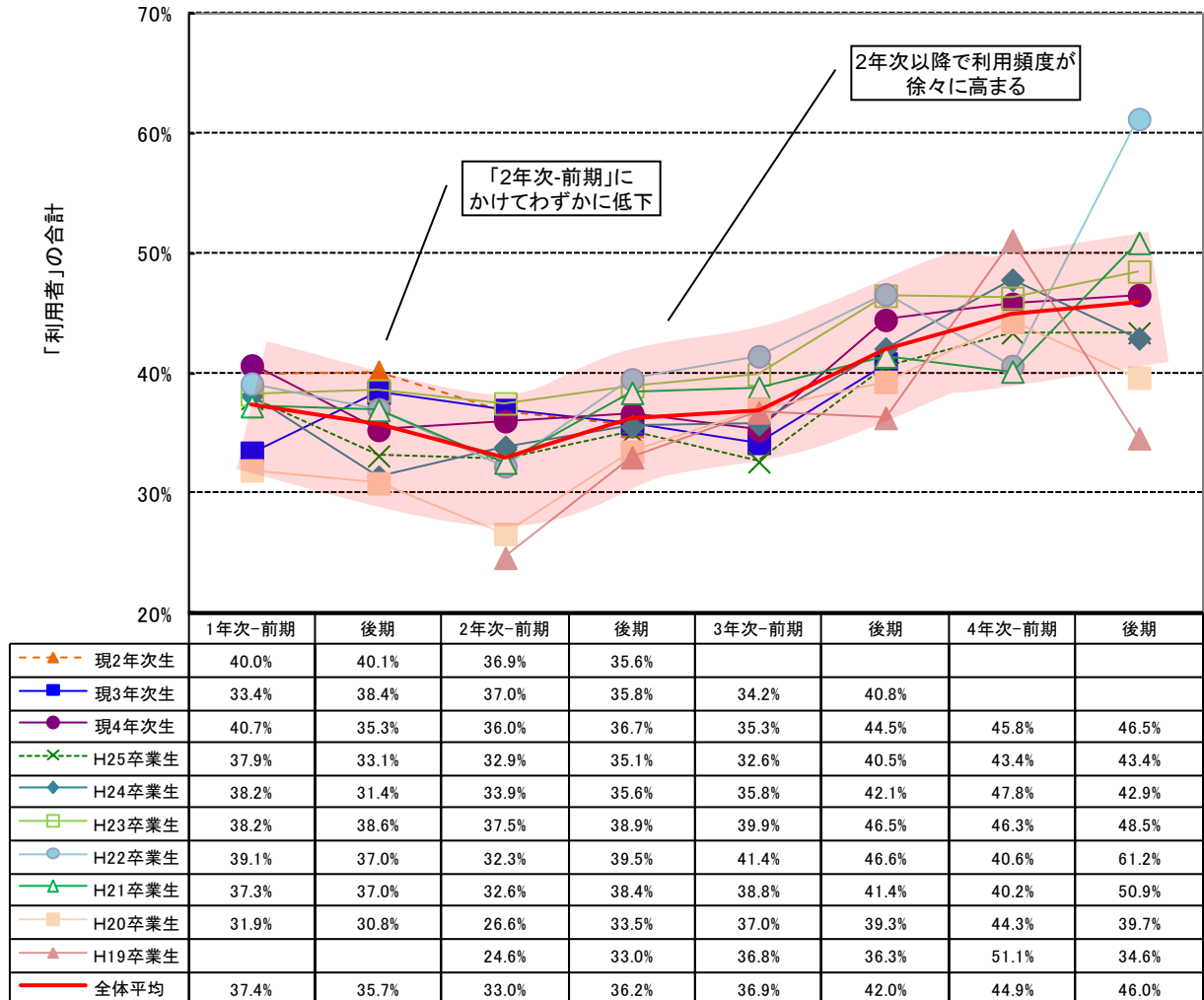
	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%				
---■--- 現3年次生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%		
---●--- 現4年次生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
---×--- H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---◆--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---□--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---●--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---△--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---□--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---▲--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---●--- 全体平均	66.7%	72.8%	74.0%	76.0%	81.2%	85.5%	79.0%	78.4%

- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてはわずかに低下する傾向が見られ、その後、「3年次-後期」にかけてはゆるやかに増加し、授業に対する熱意と努力が高まっている傾向が見られた。そして、残念ながら「4年次-前期」に一気に低下するが、「4年次-後期」にかけては上昇するという傾向となっていた。
- 「3年次生」まではほぼ全ての学生が授業アンケートの対象となるが、「4年次生」の回答者は再履修の学生が多いと考えられ、全体の平均とは言いにくい。そう考えると、横這いの時期はあるものの、入学から3年次にかけて積極性は増してきており、良い傾向にあると言える。
- 特徴的な学生群は「現4年次生」であり、1年次の時から肯定的な意見が非常に多い状態が続いており、他と同様に「4年次-前期」にやや低下したものの、これまでで最も肯定的な意見が多い状態で卒業に至っていた。
- 上記以外にも「現3年次生」「現2年次生」で肯定的な意見が多い状態が続いており、前項と同様に、現在の在学生は以前と比較して非常に積極的であると言える。



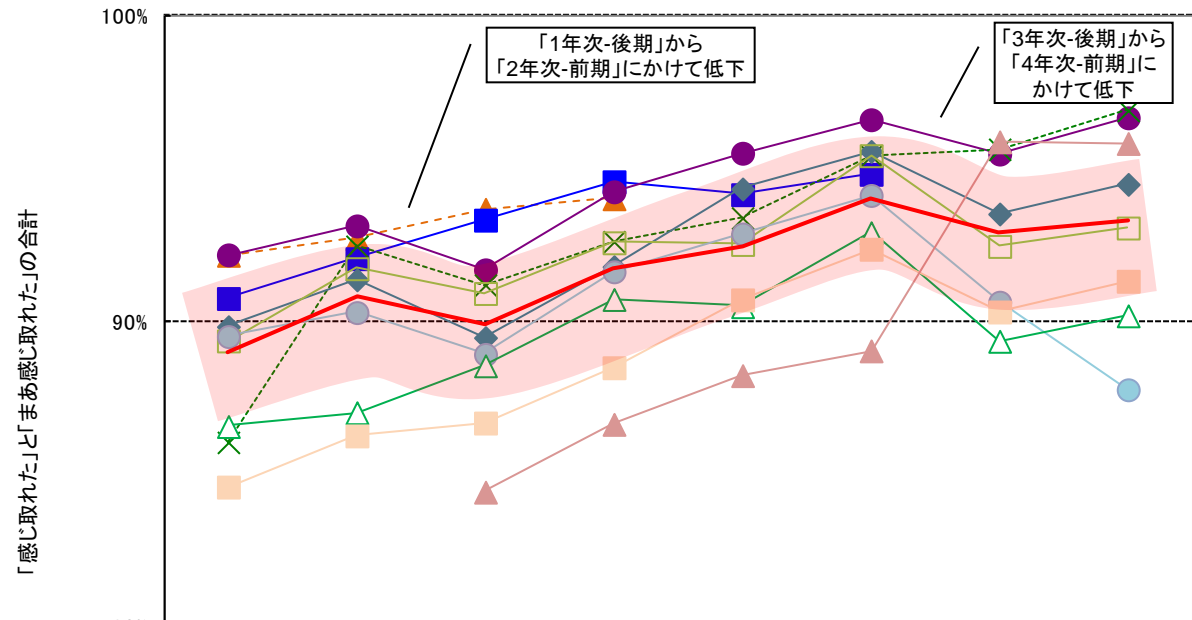
- 「I:学習相談の有効性」では、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 「学習相談利用者割合」の「全体平均」を見ると、全体的に変化が穏やかであり、常に一定の割合の学生が利用していることがうかがえる。
- 学年ごとの変化を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに利用者の割合が低下し、その後は「4年次-後期」にかけてわずかずつ増加する傾向が見られた。他の指標では「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけて大幅に低下する傾向が見られたが、ここではその低下が見られず、「4年次生」になっても学習相談の利用者は減少しないようであった。
- 学生群ごとに比較すると、他の指標では「現4年次生」と「現3年次生」の高さが目立っていたが、ここではそのような特徴は見られず、以前から現在に至るまで、学生群同士の差も見られなかった。

■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合変化」同一学生群の変化



- 「J:教員の熱意」の「全体平均」を見ると、「1年次-後期」から「2年次-前期」と「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけての2つの時期に肯定的な意見がわずかに低下する傾向が見られたが、全体としての変化は小さく、「全体平均」はほぼ90%を超えており、4年間を通して教員の熱意をしっかりと感じていると言える。
- 学生群としては「現4年次生」が4年間を通して肯定的な意見が多く、特徴的な学年であった。また、「現3年次生」「現2年次生」も高めで、この2つの学生群は「1年次-後期」から「2年次-前期」にかけての低下が見られなかった。
- 上記で見たように、現時点の在學生は肯定的な意見が多く、以前の學生にはない傾向が見られたが、これは「興味」「熱意と努力」「満足度」も同様であった。

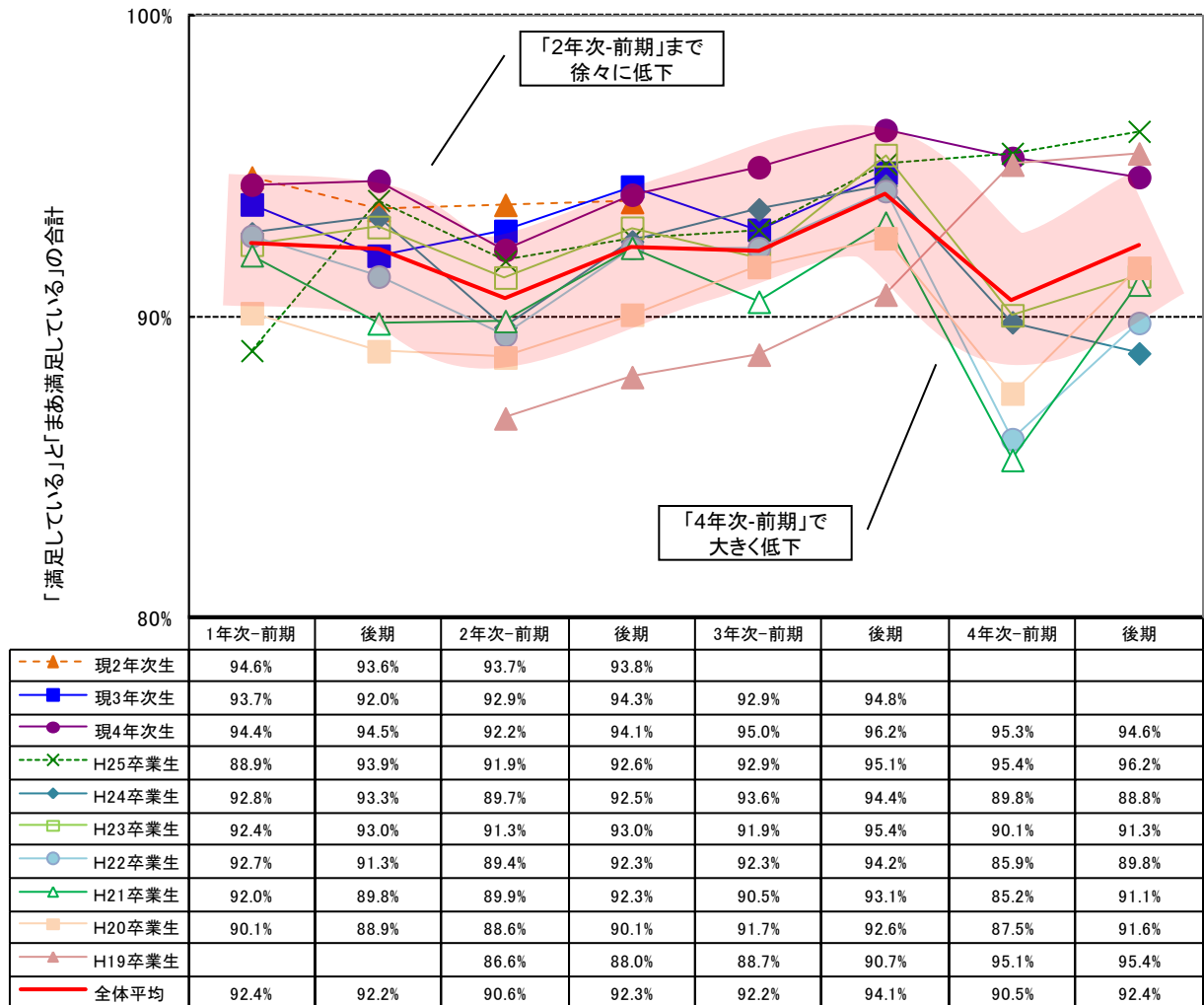
■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%				
---■--- 現3年次生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%		
---●--- 現4年次生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
---×--- H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
---◆--- H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
---□--- H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
---○--- H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
---△--- H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
---◇--- H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
---▲--- H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
---●--- 全体平均	89.0%	90.8%	89.9%	91.7%	92.5%	94.0%	92.9%	93.3%

- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」を見たところ、入学から「2年次-前期」にかけては満足度が徐々に低下し、その後は「3年次-後期」にかけて向上し、「4年次-前期」で再び大きく低下し、「4年次-後期」にかけて向上して卒業に至っている傾向が見られた。
- 上記で見た満足度の低下は、「入学後の中だるみ」と「4年次の再履修によるやる気の低下」といった要因が考えられるが、「全体平均」は常に9割以上が満足していることから、4年間を通して授業の満足度は高いと言える。
- 学生群としては他の指標と同様に「現4年次生」の高さが目立っていた。また、「現3年次生」はやや低い時期もあるものの、他と比べると満足度は高めであり、「現2年次生」もここまで高い水準で推移している。そして、以前の学生群よりも平均的に満足度が増している点も他の指標と似た傾向となっていた。

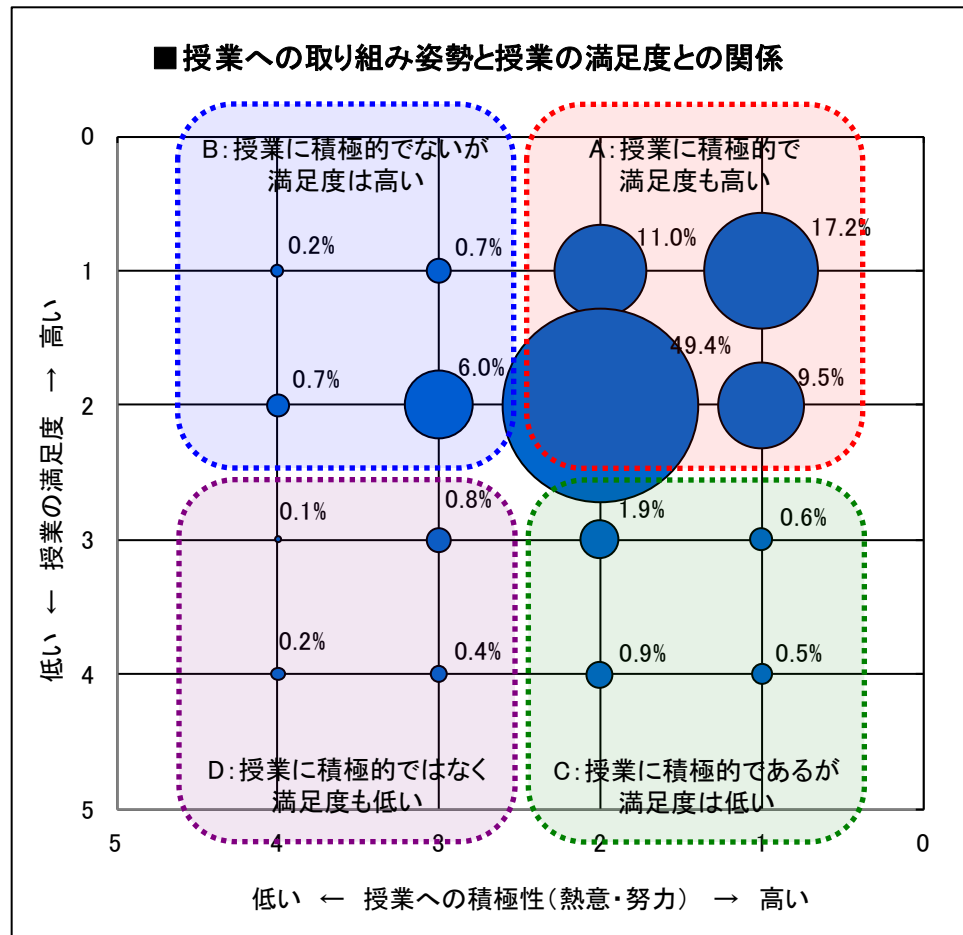
■ 学年毎・学期毎の「K:満足度」の変化 同一学生群の変化



<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

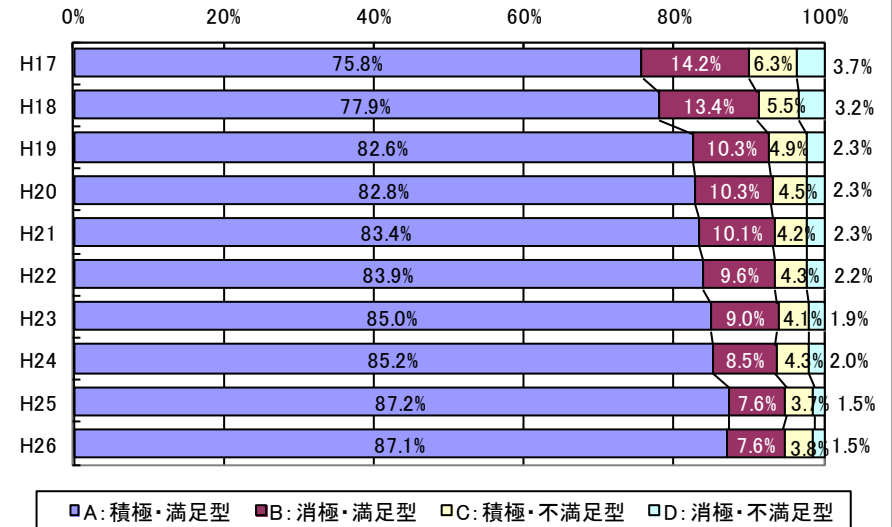
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」という学生は全体の87.1%であり、大多数を占めていた。その中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は17.2%であり、全体に占める割合は2割に満たなかった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」という学生の割合は7.6%であった。この授業に対して積極的に取り組んでいるわけではないのに満足度が高いという学生群には、教員の指導などによって引っ張られている学生が含まれていると思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は3.8%であった。これは授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が得られていないという学生群であり、大学としてはしっかりとしたフォローが必要な層だと言える。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生群は、最もフォローが必要な層であるが、今回は全体の1.5%と非常に少なかった。ただし、少ないもののこの層の学生が存在していることをしっかりと受け止めて対応していくことが必要だと思われる。



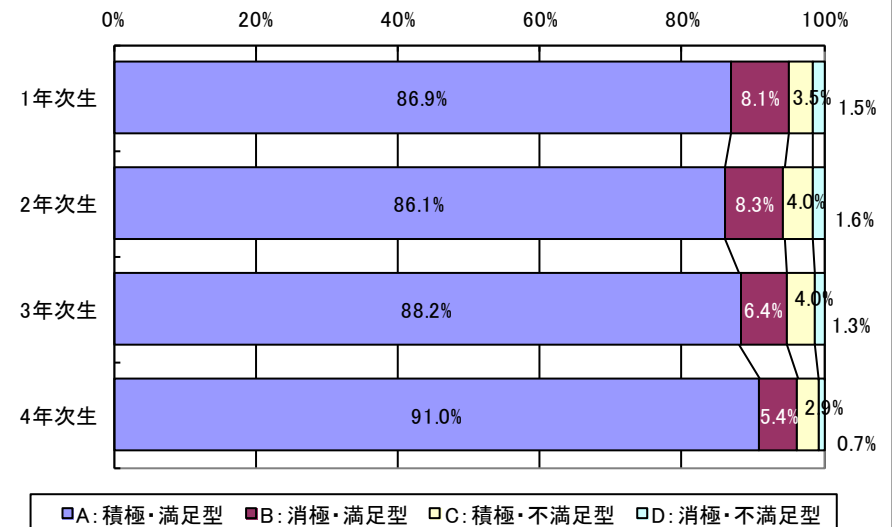
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	87.1%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	7.6%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っ張られているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.8%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.5%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 「積極性」と「満足度」の関係から作成した4グループの割合の経年変化を見た。「A:積極・満足型」は前回は0.1ポイント下回ったが、ほぼ横這いという結果であった。この層は調査開始から前回まで増加傾向が続いていたが、今回は横這いとなり、状況の変化が感じられた。
- 上記の「A:積極・満足型」以外の3グループもほとんど前回と同じ割合となっており、変化は見られなかった。
- 学年別に比較すると「A:積極・満足型」は「1年次生」で86.9%、「2年次生」で86.1%とほぼ同じであり、「3年次生」で88.2%、「4年次生」で91.0%と、高学年ほど増加する傾向が見られた。
- 上記以外を見ると、「B:消極・満足型」は「1年次生」と「2年次生」の多さがやや目立っており、「C:積極・不満足型」と「D:消極・不満足型」は学年による差が少なめで、いずれの学年にも一定の割合がいるようであった。

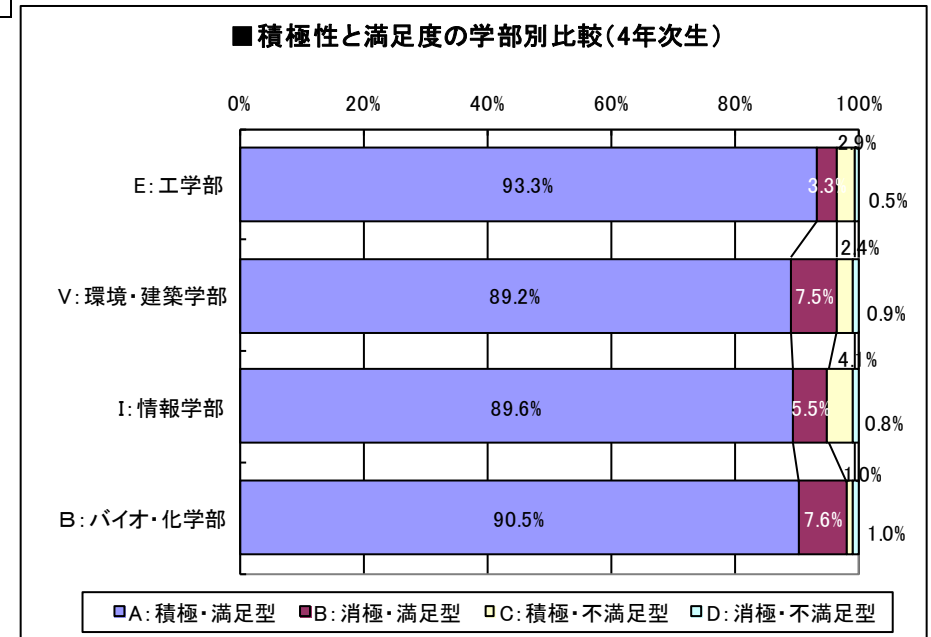
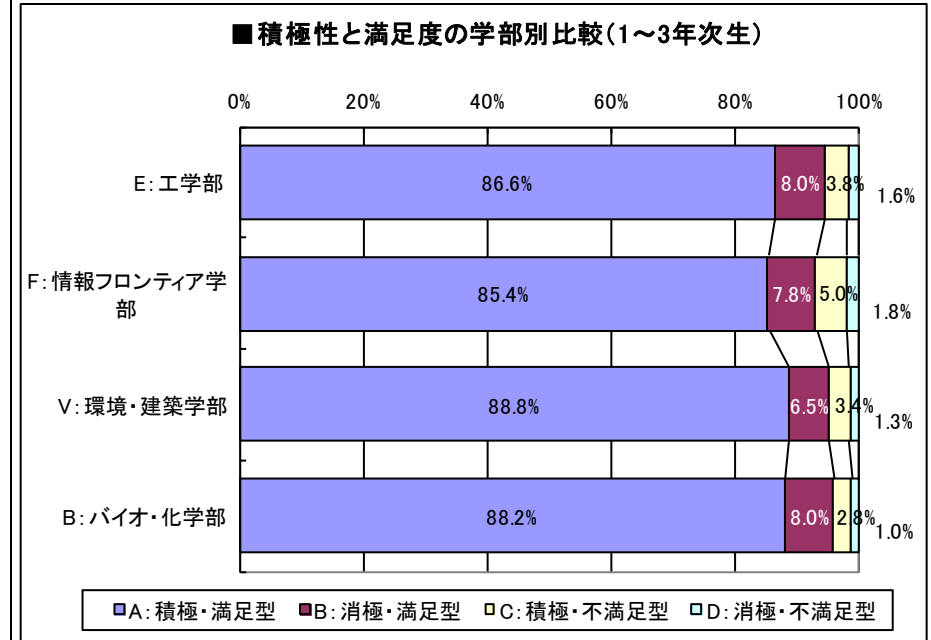
■ 積極性と満足度の経年変化



■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別の比較は、学部構成が異なる「1～3年次生」と「4年次生」でグラフを別にして集計を行った。
- 「1～3年次生」で「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「V:環境・建築学部」が88.8%と最も多く、「B:バイオ・化学部」が88.2%、「E:工学部」が86.6%、「F:情報フロンティア学部」が85.4%となっており、学部による差は最大で3.4ポイントであり、それほど大きくはなかった。
- 上記以外では、「F:情報フロンティア学部」の「C:積極・不満足型」が5.0%でやや多いという特徴が見られたが、他には目立った特徴は見られなかった。
- 「4年次生」で「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「E:工学部」が93.3%と最も高く、「B:バイオ・化学部」が90.5%、「I:情報学部」が89.6%、「V:環境・建築学部」が89.2%となっており、学部による差は最大で4.1ポイントであった。
- 上記以外では、「B:バイオ・化学部」と「V:環境・建築学部」で「B:消極・満足型」がやや多く、「I:情報学部」で「C:積極・不満足型」がやや多いという特徴が見られた。



<8> 全体のまとめ

<8-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

8割以上の学生が授業に興味を持ち、事前に内容を理解した上で、積極的に受講していたと答えていた。そして、結果的には94.1%が授業に満足し、93.9%が教員の熱意を感じていた。

- ◆ 「事前の興味」では80.9%、「事前の内容理解」では87.4%、「自分の熱意と努力」では89.2%が肯定的な意見であり、多くの学生が興味を持って積極的に授業に取り組んでいることが分かった。
- ◆ 授業を受講している中での評価としては、「課題・レポート」では90.7%、「授業の進度」では92.3%が適切であったと評価しており、大きな問題は見られなかった。そして、96.0%が授業内容は「学習支援計画書」と一致していると評価していた。
- ◆ 結果的に94.1%の学生が授業に満足し、93.9%が教員の熱意を感じたと答えており、総合的な評価も高いと言える。

【経年変化で確認できた事】

「興味」や「積極性」などの授業に対する事前の受講姿勢、「教科書」や「課題」「進度」などの授業の中身などはいずれも高い状態で横這いであり、「満足度」もほぼ横這いで過去2番目の高さであった。

- ◆ 「事前の興味」「事前の内容理解」の肯定的な意見はいずれも増加傾向が続いており、これまでで最も高くなっていった。
- ◆ 「自分の熱意と努力」の肯定的な意見は前回と同じで横這いとなっており、「学習時間」はH24以降の3年間はほぼ横這いであった。
- ◆ 授業の中身に関しては、「教科書・指導書」や「課題・レポート」の適切さ、「学習支援計画書との一致」「学習相談の有効性」などは評価が高い状態で横這いであり、「授業の進度」の評価はこれまでで最も高かった。
- ◆ 最終的な「満足度」は前回は0.2ポイント下回って、これまでで2番目の高さであり、「教員の熱意」はH23から横這いが続いていた。

【学年別比較で確認できた事】

事前の興味や積極性、予習・復習・課外活動の時間などを見ても、高学年の方が授業にしっかりと取り組んでいる傾向が見られた。そして、高学年ほど教員の熱意を感じており、満足度も高かった。

- ◆ 例外はあるものの、全体的に高学年で肯定的な意見が多く、「事前の興味」「自分の熱意と努力」など、授業に取り組む姿勢も高学年の方が積極的であった。また、高学年ほど「予習・復習、課外活動」の時間も長く、結果として、「教員の熱意」を感じる割合、最終的な「満足度」も高かった。
- ◆ 「学習相談」の利用に関しては「2年次生」が少なく、「4年次生」が高かった。また、評価も「4年次生」が高かった。「教科書・指導書の適切さ」も「4年次生」が最も高かったが、それを除くと低学年ほど高かった。
- ◆ 学年による差が少なかったのは「事前の内容理解」「学習支援計画書との一致」「進度の適切さ」であった。

【同一学生群で確認できた事】

継続的に「2年次生の中だるみ」や「再履修による4年次生の意識の低下」は見られるものの、以前と比較すると授業への興味や積極性、満足度などは高くなる傾向が見られた。

- ◆ 主要な指標の学生群ごとの変化を見ると、「自分の熱意と努力」「学習相談の有効性」「教員の熱意」「満足度」はほとんどの学生群で「1年次の後期」から「2年次の前期」にかけて低下していたが、これは入学後の中だるみだと思われ、いずれの学年でも経験することのように思われる。ただし、「事前の興味」においてはこの低下が見られなかった。
- ◆ 上記に次ぎ、「4年次」になると、再び大きく低下する傾向が見られたが、これは「再履修」によるものだと思われ、全ての「4年次生」に該当するものではないと思われる。
- ◆ 「現3年次生」「現4年次生」に見られるように、以前と比較すると積極性や満足度、授業への取り組み姿勢が良くなっている傾向が見られた。

【1～3年次生の学部別・学科別比較で確認できた事】

「1～3年次生」では「バイオ・化学部」「環境・建築学部」がやや高めであり、「情報フロンティア学部」が低いという特徴が見られた。

- ◆ 「1～3年次生」では、全体的に「バイオ・化学部」で肯定的な意見が多く、主要な指標の「事前の興味」「事前の内容理解」「教員の熱意」「満足度」では「バイオ・化学部」が最も高かった。また、「教科書・指導書」「学習支援計画書との一致」「授業進度」といった授業進行の評価も高かった。
- ◆ 「環境・建築学部」も全体的に高く、「事前の興味」「熱意と努力」が高めであり、学習時間の長さや学習相談の利用率の高さも目立っていた。
- ◆ 一方、「情報フロンティア学部」はやや低めで、「事前の興味」「事前の内容理解」「満足度」といった主要指標とともに、「教科書・指導書」「課題・レポート」「学習支援計画書との一致」などの低さも目立っていた。

【科目区分別比較で確認できた事】

「1～3年次生」「4年次生」のいずれも「英語科目」の評価が全体的に高かった。一方、低かったのは、「1～3年次生」では「数理基礎科目」、「4年次生」では「専門コア科目」であった。

- ◆ 「1～3年次生」では、「事前の興味」で「修学基礎科目」が非常に低い点が目立っていた。そして、「英語科目」が全体的に高く、「満足度」も最も高かった。一方、「数理基礎科目」はほとんどの項目で最も低くなっており、「満足度」も最も低かった。
- ◆ 「4年次生」は科目区分による差が小さかったが、「事前の興味」だけは差が大きく、「英語科目」と「数理工基礎科目」の低さが目立っていた。また、「英語科目」は、「事前の興味」以外は全体的に高かった。一方、全体的に低かったのは「専門コア科目」であり、「事前の興味」は最も高かったものの、それ以外の項目では低さが目立っていた。

【4年次生の学部別・学科別比較で確認できた事】

「4年次生」の学部間の差は項目によって様々だった。「バイオ・化学部」は「満足度」は高いものの他の指標が低めだった。そして、「環境・建築学部」は「興味」は高いものの「教員の熱意」が低かった。

- ◆ 「4年次生」では主要指標の「教員の熱意」「満足度」の学部間の差は小さく、いずれの学部でも授業の満足度が高かった。
- ◆ 「バイオ・化学部」は全体的に低く、「事前の内容理解」「教科書・指導書」「課題・レポート」「授業進度」の評価が低く、「学習相談の利用率」も低かった。ただし、「教員の熱意」と「満足度」は最も高くなっていた。
- ◆ 「環境・建築学部」は「事前の興味」は非常に高かったものの、「教員の熱意」はやや低めだった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は87.1%と大多数を占めるものの、これまでの増加傾向から横這いになっていた。そして、学年別には高学年ほど「積極・満足型」が多くなる傾向が見られた。

- ◆ 「積極・満足型」が全体の87.1%と大多数を占めており、その中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は17.2%であった。
- ◆ 経年変化を見たところ、「積極・満足型」は前回は0.1ポイント下回り、これまでの増加傾向から横這いに変っていた。
- ◆ 学年別に「積極・満足型」を比較すると、「1年次生」で86.9%、「2年次生」で86.1%とほぼ同じであり、「3年次生」で88.2%、「4年次生」で91.0%と、高学年ほど増加する傾向が見られた。
- ◆ 学部別に比較すると、「1～3年次生」では「環境・建築学部」が88.8%で最も多く、「4年次生」では「工学部」が93.3%で最も多かった。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 8割以上の学生が授業に興味を持ち、事前に内容を理解した上で、積極的に受講していたと答えていた。そして、結果的には94.1%が授業に満足し、93.9%が教員の熱意を感じていた。
- 「興味」や「積極性」などの授業に対する事前の受講姿勢、「教科書」や「課題」「進度」などの授業の中身などはいずれも高い状態で横這いであり、「満足度」もほぼ横這いで過去2番目の高さであった。
- 事前の興味や積極性、予習・復習・課外活動の時間などを見ても、高学年の方が授業にしっかりと取り組んでいる傾向が見られた。そして、高学年ほど教員の熱意を感じており、満足度も高かった。
- 継続的に「2年次生の中だるみ」や「再履修による4年次生の意識の低下」は見られるものの、以前と比較すると授業への興味や積極性、満足度などは高くなる傾向が見られた。
- 「1～3年次生」では「バイオ・化学部」「環境・建築学部」がやや高めであり、「情報フロンティア学部」が低いという特徴が見られた。
- 「4年次生」の学部間の差は項目によって様々だった。「バイオ・化学部」は「満足度」は高いものの他の指標が低めだった。そして、「環境・建築学部」は「興味」は高いものの「教員の熱意」が低かった。
- 「1～3年次生」「4年次生」のいずれも「英語科目」の評価が全体的に高かった。一方、低かったのは、「1～3年次生」では「数理基礎科目」、「4年次生」では「専門コア科目」であった。
- 「積極・満足型」は87.1%と大多数を占めるものの、これまでの増加傾向から横這いになっていた。そして、学年別には高学年ほど「積極・満足型」が多くなる傾向が見られた。



- ❖ 94.1%が授業に満足し、93.9%が教員の熱意を感じており、授業に対する満足度や評価は非常に高いと言える。
- ❖ 「興味」や「積極性」などの授業に対する事前の受講姿勢、「教科書」や「課題」などの授業の中身の評価、「満足度」など、ほとんどの項目が高い状態で横這いとなり、これまでの増加傾向からの変化がうかがえた。
- ❖ 学年別には、高学年の方が授業にしっかりと取り組み、教員の熱意も感じており、満足度も高くなっていた。
- ❖ 同一学生群の変化を見ると、以前と同様に「2年次生の中だるみ」や「再履修による4年次生の意識の低下」は見られるものの、4年間を通しての授業への興味や積極性、満足度などは以前より高くなっていた。